

楽天グループ株式会社

第29回 定時株主総会招集ご通知

開催情報

日 時 2026年3月27日（金曜日）午前10時（受付開始時間 午前9時15分）
場 所 東京都世田谷区玉川一丁目14番1号 楽天クリムゾンハウス（本社）

報告事項

- 第29期(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)事業報告、連結計算書類及び計算書類報告の件
- 会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

決議事項

- 第1号議案 取締役10名選任の件
第2号議案 米国カリフォルニア州居住者向けにストックオプションとして発行する新株予約権につき特別条項を適用する件



証券コード 4755

— 企業理念 —

イノベーションを通じて、 人々と社会をエンパワーメントする



代表取締役会長兼社長

三木谷 浩史



株主の皆様には、日頃より楽天グループをご支援いただき、厚く御礼申し上げます。

当期は、皆様の多大なるご信頼とご支援の賜物として、数々の重要なマイルストーンを達成することができました。最も特筆すべきは、モバイル事業におけるEBITDA¹ベースでの通期黒字を達成したことです。事業開始以来、株主の皆様からのご期待とご支援をいただきながら、ネットワーク構築とユーザー獲得に果敢に投資してまいりました。当期は、お客様ニーズを捉えたオプションサービスの拡充や、契約者に対する当社グループサービスの便益強化に加え、物価高が継続するマクロ環境下で『楽天モバイル』の相対的な魅力が向上したこともあいまって、『楽天モバイル』の全契約回線数²が前年比171万回線増加し、昨年末に節目となる1,000万回線を突破いたしました。これは、携帯市場の民主化という私たちの挑戦が、着実に社会に浸透している証であると確信しております。

各事業においても、力強い成長を遂げております。インターネットサービス事業では、当期の国内E C流通総額が過去最高となる6.3兆円を超えて堅調に推移し、フィンテックサービス事業では、『楽天カード』の年間ショッピング取扱高が26兆円を突破、また『楽天銀行』の預金残高も13兆円を突破いたしました。業界最多のNISA口座数を有する『楽天証券』は、総合口座数が1,300万口座を突破する等、各サービスがお客様の生活に深く浸透し、その利便性を高め続けております。

これらの成果により、楽天グループの当期連結業績は、連結売上収益が前期比9.5%増の2.5兆円となり、連結IFRS営業利益においても、144億円の営業黒字を達成することができました。2026年度は、各事業の更なる成長はもちろん、モバイルとAIの力を最大化し、楽天エコシステムの更なる拡大に取り組みます。特に、顧客の最終購買データを保有する当社は、AI分野において高い競争優位性を有しております。「AIを最も使いこなす会社」となるべく、あらゆる業務・サービスでAIエージェントを活用推進することで、単なるコスト削減に留まらず、新たな価値創造と持続的な成長の原動力としてまいります。

配当につきましては、収益性及び財務体質の改善が着実に進捗している中ではございますが、引き続き資金流出を抑制し、中長期的な成長に向けた投資や、財務基盤安定化のための内部留保の充実を優先することが、株主価値の最大化に繋がると考え、当期も見送る決定をいたしました。しかしながら、安定的な利益創出と有利子負債の削減を進めていく中で、適時適切に復配を行えるよう努めてまいります。

楽天グループは、これからも「イノベーションを通じて、人々と社会をエンパワーメントする」という企業理念のもと、楽天エコシステムの拡大と持続的な成長を図り、あらゆる人々と社会がより便利で自由にサービスや社会機能を楽しむように、グループ一丸となって全力で取り組んでまいります。株主の皆様には今後も格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

¹ : Non-GAAP営業利益に減価償却費等を加算して算出。

² : MNO（移動体通信事業者）、MVNE（仮想移動体サービス提供者）及びMVNO（仮想移動体通信事業者）回線の合計。

証券コード4755
(発信日) 2026年3月11日
(電子提供措置の開始日) 2026年3月4日

株主各位

東京都世田谷区玉川一丁目14番1号

楽天グループ株式会社

代表取締役会長兼社長
三木谷 浩史

第29回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第29回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際して、株主総会参考書類等の内容である情報は、電子提供措置をとっておりインターネット上の下記ウェブサイトに掲載しております。

当社ウェブサイト「株主総会」ページ

<https://corp.rakuten.co.jp/investors/stock/meeting.html>

上記のウェブサイトアクセスして、「招集ご通知」を選択の上、ご覧ください。



また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

当社ウェブサイト「Shareholders' Meeting」ページ

<https://global.rakuten.com/corp/investors/stock/meeting.html>

上記のウェブサイトアクセスして、「第29回定時株主総会招集ご通知」を選択の上、ご覧ください。



東証「上場会社情報」掲載ページ

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

上記のウェブサイトアクセスして、当社名又は証券コードを入力・検索し、「基本情報」、「縦覧書類/P R情報」を順に選択の上、ご覧ください。



電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトにも修正内容を掲載させていただきます。

なお、当日ご出席されない場合は、書面又はインターネット等により事前に議決権を行使することができますので、お手数ながら「株主総会参考書類」をご検討の上、2026年3月26日（木曜日）午後5時30分までに議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2026年3月27日（金曜日）午前10時（受付開始時間 午前9時15分）
2. 場 所 東京都世田谷区玉川一丁目14番1号 楽天クリムゾンハウス（本社）
株主総会会場（アクセス）URL
<https://maps.app.goo.gl/eEHyY5XNMnWE2DDFA>



○交通機関のご案内

東急田園都市線、東急大井町線「二子玉川駅」より徒歩5分
（二子玉川駅より係員による会場案内がございます。）

3. 会議の目的事項

- | | |
|-------------|--|
| 報告事項 | 1. 第29期(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)事業報告、連結計算書類及び計算書類報告の件
2. 会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件 |
| 決議事項 | 第1号議案 取締役10名選任の件
第2号議案 米国カリフォルニア州居住者向けにストックオプションとして発行する新株予約権につき特別条項を適用する件 |

以上

書面交付請求された株主様へご送付している書面について

当該書面には、法令及び当社定款第23条の規定に基づき、下記の事項を記載しておりません。

- ・ 事業報告のうち「会社の新株予約権等に関する事項」、「業務の適正を確保するための体制」及び「業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要」
- ・ 連結計算書類のうち「連結持分変動計算書」及び「連結注記表」
- ・ 計算書類のうち「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」

当該書面は監査報告を作成するに際し、監査役及び会計監査人が監査をした書類の一部であります。

なお、ご送付している書面の項番の記載は電子提供措置事項と同一となっておりますので、ご了承ください。

株主総会会場へのご来場に際してのご注意事項

楽天グループオフィスへの入館にあたり、以下の事項についてご了承ください。何卒ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

- ・ 株主総会会場での撮影、録画、録音、SNS等での投稿等のご遠慮ください。
- ・ 所定の場所以外には立ち入らないようお願いいたします。
- ・ 株主総会会場での喫食は禁止とさせていただきます。
- ・ 株主総会にご出席の株主様へのお礼の品（お土産）の配布はございません。
- ・ 株主総会のライブ配信にあたっては、株主総会にご出席される株主様のプライバシーに配慮し、可能な範囲において株主様の容姿が撮影されないようにいたしますが、やむを得ず映り込んでしまう場合がございます。
- ・ ご来場に際しての株主情報及び防犯のために設置した館内ビデオカメラにより記録される個人情報、当社において厳正に管理し、当社の株主総会運営、入館管理及び情報管理の目的のみに使用いたします。

議決権の行使についてのご案内

書面の郵送により事前に議決権を行使する場合 **ご推奨**

同封の議決権行使書用紙に賛否をご記入の上、ご返送ください。各議案につき賛否の表示をされない場合は、賛成の表示があったものとしてお取扱いいたします。

行使期限：2026年3月26日（木曜日）午後5時30分必着

インターネットを通じて事前に議決権を行使する場合 **ご推奨**

下記の方法により議決権行使ウェブサイトへアクセスし、画面の案内に従って賛否をご入力ください。

行使期限：2026年3月26日（木曜日）午後5時30分まで

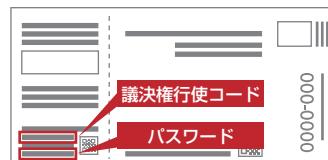
スマートフォン等による「スマート行使[®]」

同封の議決権行使書用紙に記載の「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトログインQRコード[®]」をスマートフォン等の端末で読み取りいただくことにより、「議決権行使コード」及び「パスワード」が入力不要でアクセスできます。



パソコン等による議決権行使

議決権行使ウェブサイトURL(<https://www.web54.net>)へアクセス後、同封の議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」及び「パスワード」を入力しログインしてください。



当日、株主総会にご出席いただく場合

同封の議決権行使書用紙をご持参いただき、会場受付へご提出ください。代理人により議決権を行使される場合は、議決権を有する他の株主の方1名を代理人として株主総会にご出席いただけます。ただし、代理権を証明する書面の提出が必要となりますのであらかじめご了承ください。

開催日時：2026年3月27日（金曜日）午前10時

議決権行使のお取扱いについて

- (1) 書面とインターネットにより、二重に議決権を行使された場合は、インターネットによるものを有効な議決権行使としてお取扱いいたします。
- (2) インターネットにより複数回議決権を行使された場合は、最後に行使されたものを有効な議決権行使としてお取扱いいたします。
- (3) インターネットを通じて事前に議決権を行使する際のプロバイダ及び通信事業者の料金（接続料金等）は、株主様のご負担となります。
- (4) 書面による議決権行使に際して、各議案につき賛否の表示をされない場合は、賛成の表示があったものとしてお取扱いいたします。

機関投資家の皆様へ

株式会社ICJの運営する「議決権電子行使プラットフォーム」から電磁的方法による議決権行使を行っていただくことも可能です。

インターネットによるライブ配信及び事前質問に関するご案内

株主総会の議事進行の状況をインターネットを通じてリアルタイムでご視聴いただけるようライブ配信を行います。また、開催に先立って本株主総会の目的事項に関する事前質問も受け付けいたします。

ライブ配信のご視聴方法

開催日時：2026年3月27日（金曜日）午前10時（午前9時30分よりライブ配信にご参加いただけます。）

STEP
1

ウェブサイトへアクセス

専用サイトURL：https://r10.to/kabu

専用サイトにアクセスした後、「第29回定時株主総会のご視聴・事前質問をご希望の方」からログインページへ移動してください。

STEP
2

ID（株主番号）・パスワードを入力してログイン

同封の「第29期 楽天グループ株式会社 定時株主総会・株主優待専用サイトのご案内およびID・パスワードのご通知」に記載のID（株主番号）・パスワードをご入力の上、ログインしてください。



※画像はイメージです。株主様それぞれにID・パスワードをご通知しています。

STEP
3

ライブ配信を視聴する

開始時間になりましたら「参加」ボタンを押し、ライブ配信をご視聴ください。

※本通知書は、株主総会終了後も、株主優待のお申込みやお申込み後の本人確認等の手続きで必要となる場合がございますので、大切に保管してください。

事前質問の受付についてのご案内

受付期限：2026年3月19日（木曜日）午後5時30分まで

上記、ライブ配信のご視聴方法STEP2のログイン後に表示される「事前質問を行う」ボタンを押下し、ご質問をご入力の上、ご送信ください。

お問合せ

ライブ配信及び事前質問の際のログイン方法に関するお問合せ 株主優待に関するお問合せ

株主総会ライブ配信・株主優待 専用ダイヤル
☎️ 0120-905-937 9時～17時 土日・祝日・年末年始を除く

議決権行使ウェブサイトの操作方法に関するお問合せ

三井住友信託銀行株式会社 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル
☎️ 0120-652-031 9時～21時

その他のご照会

- 証券会社に口座をお持ちの株主様
お取引の証券会社へお問い合わせください。
- 証券会社に口座のない株主様（特別口座をお持ちの株主様）
- 株主総会資料の電子提供制度書面交付請求に関するお問合せ
（2027年3月以降の株主総会資料）
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎️ 0120-782-031 9時～17時 土日・祝日除く

ライブ配信及び事前質問の受付に関する注意事項

- ライブ配信をご視聴される株主様は株主総会当日の決議にご参加いただくことができません。あらかじめ、書面の郵送又はインターネットを通じて事前に議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。
- ライブ配信のご視聴及び事前質問の受付は、株主様ご本人に限定させていただきます。
- ID（株主番号）及びパスワードは、株主様ご本人であることを確認するための大切な情報ですので、株主様ご自身で厳重に管理いただきますようお願いいたします。また、ID（株主番号）及びパスワードの第三者への提供は固くお断りいたします。
- 複数の端末から同じID（株主番号）でログインすることはできませんのでご注意ください。
- ライブ配信にあたっては、株主総会にご出席される株主様のプライバシーに配慮し、可能な範囲において株主様の容姿が撮影されないようにいたしますが、やむを得ず映り込んでしまう場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ライブ配信の撮影、録画、録音、保存、SNS等での投稿等をご遠慮ください。
- ライブ配信終了後のオンデマンド配信は行いませんので、あらかじめご了承ください。
- ライブ配信は、ご使用の機器や通信環境の状況等により、ご視聴いただけない場合がございます。
- ライブ配信のご視聴及び事前質問の受付の際に発生するプロバイダ及び通信事業者の料金（接続料金等）は、株主様のご負担となります。
- 事前にいただきましたご質問のうち、株主の皆様のご関心が特に高く、当日の審議の参考になると当社が判断した事項につきましては、株主総会当日に回答します。その他のご質問につきましては、株主総会終了後に当社ウェブサイトにて回答を掲載いたします。全てのご質問に対して回答するものではありませんので、何卒ご理解ください。なお、ご質問が本株主総会の目的事項に関しない場合、ご質問が重複する場合、ご質問に対して回答することが顧客、従業員、その他の者の権利・利益を侵害するおそれがある場合等は、回答を差し控えさせていただきます。また、個別の回答はいたしかねますので、ご了承ください。
- 同封の「第29期 楽天グループ株式会社 定時株主総会・株主優待 専用サイトのご案内およびID・パスワードのご通知」を紛失された場合には、下記の連絡先にお問い合わせいただくことで再発行をいたしますが、セキュリティの観点からいかなる理由があっても口頭でのパスワード通知は行わず、郵送手続きにて行いますのでご注意ください。
なお、期間に応じてお問合せ先が異なりますので、ご注意ください。
2026年3月11日～2026年3月27日：三井住友信託銀行株式会社 証券代行部（☎0120-782-031）
2026年3月30日以降：株主様ご優待専用サイトトップページにあるリンクから再発行を申請してください。

議案及び参考事項

第1号議案 取締役10名選任の件

1. 提案の理由

現任の取締役全員（9名）は、本株主総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、経営体制の一層の強化を図るため、取締役1名を増員することとし、社外取締役6名を含む取締役10名の選任をお願いするものです。なお、本議案が原案どおり承認された場合、取締役10名のうち社外取締役6名を株式会社東京証券取引所の定める独立役員とする予定です。

2. 取締役会に関する考え方

（コーポレート・ガバナンスの実効性を高める施策）

当社グループは、イノベーションを通じて、人々と社会をエンパワーメントすることを経営の基本理念としています。ユーザー及び取引先企業へ満足度の高いサービスを提供するとともに、多くの人々の成長を後押しすることで、社会を変革し豊かにしていきます。その実践のために、コーポレート・ガバナンスの徹底を最重要課題の一つと位置づけ、様々な施策を講じています。

当社は、経営の透明性を高め、適正性・効率性・公正性・健全性を実現するため、独立性の高い監査役が監査機能を担う監査役会設置会社の形態を採用しており、経営の監査を行う監査役会は社外監査役が過半数を占める構成となっています。また、当社は、経営の監督と業務執行の分離を図るため執行役員制を導入しており、取締役会は経営の意思決定及び監督機能を担い、執行役員が業務執行機能を担うこととしています。

当社の取締役会においては、独立性が高く多様な分野の専門家である社外取締役を中心として客観的な視点から業務執行の監督を行うとともに、経営に関する多角的な議論を自由闊達に行っています。更に取締役会とは別に、社外役員含む全ての役員が原則出席するグループ経営戦略等に関する会議を開催し、短期的な課題や取締役会審議事項に捉われない中長期的視野に立った議論も行うことで、コーポレート・ガバナンスの実効性を高めています。

新規の資金投下を伴う投融資案件については、外部有識者を含む投融資委員会で事前に審議し、その結果を取締役に報告しています。また、重要案件については、事前に取締役・監査役と概要及び主要論点を共有・審議した上で上程することで、取締役会における審議の質の向上と意思決定の適正化を図っています。

(取締役候補者の選定)

当社は、企業理念に基づき、その理念を高いレベルで体現し、当社グループの更なる発展に貢献することを期待できる人物を取締役候補者として選定し、その任期を1年として、毎年の株主総会でその選任をお諮りすることを基本方針としています。

具体的には、IT業界、金融業界、会社経営、法務・リスクマネジメント、財務会計、行政、コンサルティング等の分野で指導的役割を果たし、グローバルな視点での豊富な実務経験、専門的知見等を有しており、適切な経営の意思決定及び監督を行うことができる者を取締役会が取締役候補者として選定しています。

本株主総会において本議案が原案どおり承認された場合、10名の取締役が就任することとなりますが、適切な経営の意思決定及び監督を行うに当たり、適正な規模と考えています。また、当社は取締役の多様性も重視しており、取締役候補者10名のうち、女性3名、外国人3名を、社外取締役候補者6名のうち、女性2名、外国人3名を選定しています。

(独立役員の独立性について)

透明性の高い経営と強固な経営監督機能を確立し企業価値の向上を図るため、当社の社外役員の中から独立役員を選定するに当たり、原則として、以下のいずれにも該当しない者を独立性を有する者と判断しています。

- a. 当社を主要な取引先とする者若しくはその業務執行者（※1）又は当社の主要な取引先（※2）若しくはその業務執行者
- b. 当社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家又は法律専門家（当該財産を得ている者が法人、組合等の団体である場合は、当該団体に所属する者をいう。）
- c. 当社の総議決権の10%以上を実質的に有する者又はその業務執行者
- d. 最近においてaからcまでのいずれかに該当していた（※3）者
- e. 以下に掲げる者（重要でない者を除く。）の近親者
 - ① 上記aからdに掲げる者
 - ② 当社子会社の業務執行者
 - ③ 当社子会社の業務執行者でない取締役（社外監査役を独立役員として指定する場合に限る。）
 - ④ 最近において、上記②若しくは③又は当社の業務執行者（社外監査役を独立役員として指定する場合にあっては、業務執行者でない取締役を含む。）に該当していた者

※1：会社法施行規則第2条第3項第6号の業務執行者をいい、業務執行取締役のみならず使用人も含む。

※2：当社との取引額等を基準とし、当社からの支払額が当社売上原価並びに販売費及び一般管理費の合計額の1%以上を占める場合をいう。

※3：当該独立役員を社外取締役又は社外監査役として選任する株主総会の議案の内容が決定された時点において、aからcまでのいずれかに該当していた等、実質的に現在と同視できるような場合をいう。

3. 候補者について

取締役候補者は、次のとおりです。

候補者番号	氏名		当社における地位	在任年数	取締役会への出席状況
1	三木谷 浩史	再任	代表取締役会長兼社長	29年	100% (11回/11回中)
2	百野 研太郎	再任	代表取締役副社長	5年	100% (11回/11回中)
3	河野 奈保	新任	副社長執行役員	—	—
4	加賀 栄一	新任	上級執行役員	—	—
5	安藤 隆春	再任 社外 独立	取締役	3年	100% (11回/11回中)
6	Sarah J. M. Whitley	再任 社外 独立	取締役	7年	100% (11回/11回中)
7	Tsedal Neeley	再任 社外 独立	取締役	3年	100% (11回/11回中)
8	Charles B. Baxter	再任 社外 独立	取締役	3年	100% (11回/11回中)
9	羽深 成樹	再任 社外 独立	取締役	3年	100% (11回/11回中)
10	御立 尚資	再任 社外 独立	取締役	10年	100% (11回/11回中)

再任 再任取締役候補者 新任 新任取締役候補者 社外 社外取締役候補者 独立 証券取引所等の定めに基づく独立役員

(注) 1. 上記の取締役候補者の当社における地位は、本株主総会時のものです。

2. 上記の社外取締役候補者の在任年数及び取締役会への出席状況は、社外取締役としての在任年数及び取締役会への出席状況を記載しています。

【ご参考】取締役及び監査役の専門性と経験（スキルマトリックス）

役職名	氏名	IT	金融	会社経営	法務・リスクマネジメント	財務会計	国際性
取締役	みき たに ひろし 三木谷 浩史	●	●	●			●
取締役	ひくの けん たろう 百野 研太郎	●		●	●		●
取締役	こう の なほ 河野 奈保	●		●			
取締役	かが えい いち 加賀 栄一	●	●			●	●
社外取締役	あん どう たか はる 安藤 隆春				●		●
社外取締役	サラ・J. M. ウィットリー Sarah J. M. Whitley		●				●
社外取締役	セダール・ニーリー Tsedal Neeley	●					●
社外取締役	チャールズ・B・バクスター Charles B. Baxter	●		●			●
社外取締役	はぶか しげ き 羽深 成樹		●			●	
社外取締役	みたち たかし 御立 尚資			●			●
監査役	ながぬま よし と 長沼 義人		●			●	
社外監査役	なかむら ふとし 中村 太				●	●	●
社外監査役	かたおか まき 片岡 麻紀				●	●	●
社外監査役	やまぐち かつゆき 山口 勝之				●		●

(注) 上記のスキルマトリックスは、本株主総会最終時のものです。

候補者番号

1

みきたにひろし
三木谷 浩史

再任

当社における担当▶

会長兼社長最高執行役員
グループカンパニーディビジョングループプレジデント

候補者とした理由▶

1997年2月の当社創業以来、代表取締役として当社グループの経営を指揮し、他に類を見ない革新的なビジネスモデル「楽天エコシステム」を確立させてきました。また、最高執行役員及びインターネットサービスセグメントリーダーとして当社グループ全体及び当該セグメントの成長を牽引しています。当社グループの更なる発展のために、引き続き選任をお願いするものです。

生年月日

1965年3月11日生

所有する当社株式の種類及び数
普通株式

176,703,400株

取締役会への出席状況

100% (11回/11回中)

略歴、地位及び担当

1988年4月 株式会社日本興業銀行（現株式会社みずほ銀行）入行
1993年5月 ハーバード大学経営大学院修士号取得
1996年2月 株式会社クリムゾングループ（現合同会社クリムゾングループ）代表取締役社長（現代表社員）（現任）
1997年2月 当社設立、代表取締役社長
2001年2月 当社代表取締役会長兼社長（現任）
2004年3月 当社最高執行役員（現任）
2006年4月 株式会社クリムゾフットボールクラブ（現楽天ヴィッセル神戸株式会社）代表取締役会長（現任）
2010年2月 一般社団法人eビジネス推進連合会（現一般社団法人新経済連盟）代表理事（現任）
2011年10月 公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団理事長（現任）
2012年8月 株式会社楽天野球団代表取締役会長兼オーナー（現任）
2016年7月 当社グループカンパニーディビジョングループプレジデント（現任）
2017年7月 楽天アスピリアンジャパン株式会社（現楽天メディカル株式会社）代表取締役会長（現任）
2022年3月 楽天モバイル株式会社代表取締役会長（現任）
2023年8月 楽天シンフォニー株式会社代表取締役会長兼CEO（現任）
2024年8月 Rakuten Medical, Inc. Vice Chairman of the Board and CEO（現任）

重要な兼職の状況

合同会社クリムゾングループ代表社員
楽天ヴィッセル神戸株式会社代表取締役会長
一般社団法人新経済連盟代表理事
公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団理事長
株式会社楽天野球団代表取締役会長兼オーナー
楽天メディカル株式会社代表取締役会長
楽天モバイル株式会社代表取締役会長
楽天シンフォニー株式会社代表取締役会長兼CEO
Rakuten Medical, Inc. Vice Chairman of the Board and CEO

候補者番号

2

ひゃくの けんたろう

百野 研太郎

再任

当社における担当▶

副社長執行役員
グループCOO&グループCCO
コミュニケーションズ&エナジーカンパニープレジデント
アド&メディアカンパニープレジデント
インターナショナル&スポーツカンパニープレジデント

候補者とした理由▶

自動車メーカーでの経験を経て、2007年に当社に入社して以来、当社の国際事業、企業戦略、人事、広報等の組織体制の整備及び強化に貢献してきました。また、当社の全社業務執行を統括し、モバイルセグメントリーダーとして当該セグメントの成長を牽引しています。当社グループの更なる発展のために、引き続き選任をお願いするものです。

生年月日

1967年6月6日生

略歴、地位及び担当

所有する当社株式の種類及び数

普通株式
311,300株

取締役会への出席状況

100% (11回/11回中)

1990年6月 トヨタ自動車株式会社入社
2007年2月 当社執行役員
2009年7月 当社常務執行役員
2013年3月 当社取締役常務執行役員
2015年6月 当社取締役常務執行役員CSO (Chief Strategy Officer)
2016年3月 当社常務執行役員CSO
2016年4月 当社常務執行役員COO&CMO (Chief Marketing Officer)
2017年4月 当社副社長執行役員COO&CMO
2018年11月 当社副社長執行役員COO
2021年3月 当社取締役副社長執行役員COO
2021年7月 J P 楽天ロジスティクス株式会社取締役 (現任)
2022年3月 当社代表取締役副社長執行役員グループCOO
2022年4月 当社コミュニケーションズ&エナジーカンパニープレジデント (現任)
2025年4月 当社代表取締役副社長執行役員グループCOO&グループCCO (現任)
2025年4月 当社アド&メディアカンパニープレジデント (現任)
2025年4月 当社インターナショナル&スポーツカンパニープレジデント (現任)

重要な兼職の状況

J P 楽天ロジスティクス株式会社取締役

候補者番号 **3**

このなほ
河野 奈保

新任

当社における担当 ▶

副社長執行役員
グループCMO (Group Chief Marketing Officer)

候補者とした理由 ▶

2003年に当社に入社して以来、主にインターネットサービス事業の成長に貢献してきました。当社のグループCMOとして全社マーケティングを統括し、楽天エコシステムの拡大を牽引しています。当社グループの更なる発展のために、選任をお願いするものです。

生年月日

1976年11月22日生

所有する当社株式の種類及び数

普通株式
27,400株

取締役会への出席状況

—

略歴、地位及び担当

2003年 8月 当社入社
2013年 5月 当社執行役員
2016年 4月 当社上級執行役員
2016年 7月 当社E Cカンパニーシニアヴァイスプレジデント
2017年 2月 当社E Cカンパニープレジデント
2017年 4月 当社常務執行役員
2018年11月 当社常務執行役員CMO
2020年10月 楽天モバイル株式会社常務執行役員CMO (現任)
2022年 4月 当社副社長執行役員グループCMO (現任)
2024年12月 楽天カード株式会社取締役 (現任)

重要な兼職の状況

—

候補者番号 **4**

かが えいち
加賀 栄一

新任

当社における担当▶

上級執行役員
ファイナンス統括部ディレクター

候補者とした理由▶

中央官庁での経験を経て、2010年に当社に入社して以来、主に財務部門の要職を務め、財務に関する豊富な知識と経験をもって財務基盤の強化や効率的な資本戦略の推進に貢献しています。当社グループの更なる発展のために、選任をお願いするものです。

生年月日

1976年4月24日生

所有する当社株式の種類及び数

普通株式
11,900株

取締役会への出席状況

—

略歴、地位及び担当

2001年4月 財務省入省
2007年5月 ヴァンダービルト大学経営大学院修士号取得
2007年7月 内閣官房出向
2010年7月 当社入社
2017年5月 当社財務部ジェネラルマネージャー（現任）
2017年5月 当社IR部ジェネラルマネージャー
2022年4月 当社執行役員
2023年7月 当社ファイナンス統括部ディレクター（現任）
2024年4月 当社上級執行役員（現任）
2024年8月 Rakuten Medical, Inc. Director（現任）

重要な兼職の状況

—

候補者番号

5

あんどう たかはる

安藤 隆春

社外取締役候補者

独立役員候補者

再任

候補者とした理由及び期待される役割の概要

警察庁長官等の警察組織の要職を歴任した豊富な経験と幅広い見識を有していることから、当社グループのコーポレート・ガバナンス、コンプライアンス及びリスク管理の一層の強化のために、客観的な視点から業務執行に関する助言及び意見をいただくことを期待し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものです。なお、社外取締役となること以外の方法で過去に会社の経営に関与したことはありませんが、上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断しています。現在当社の社外取締役であり、その在任期間は本株主総会終結の時をもって3年となります。

生年月日

1949年8月31日生

所有する当社株式の種類及び数

普通株式
0株

取締役会への出席状況

100% (11回/11回中)

略歴、地位及び担当

1972年4月 警察庁入庁
 1996年1月 内閣総理大臣秘書官
 1999年8月 警視庁公安部長
 2004年8月 警察庁長官官房長
 2009年6月 警察庁長官
 2013年5月 株式会社ニトリホールディングス社外取締役
 2016年6月 株式会社アミューズ社外取締役（現任）
 2017年6月 株式会社ゼンショーホールディングス社外取締役（現任）
 2018年6月 東武鉄道株式会社社外取締役（現任）
 2020年5月 株式会社ニトリホールディングス社外取締役（監査等委員）
 2022年6月 株式会社日清製粉グループ本社社外取締役（監査等委員）（現任）
 2023年3月 当社社外取締役（現任）

重要な兼職の状況

株式会社アミューズ社外取締役
 株式会社ゼンショーホールディングス社外取締役
 東武鉄道株式会社社外取締役
 株式会社日清製粉グループ本社社外取締役（監査等委員）

候補者番号 **6**

サラ・J.M.・ウィットリー

Sarah J. M. Whitley

社外取締役候補者

独立役員候補者

再任

候補者とした理由及び期待される役割の概要

海外の独立系アセットマネジメントにおける投資家として、日本企業及び当社を長年にわたり見てきた経験と、コーポレートファイナンスに関する豊富な知識を有していることから、当社の企業価値を向上させるための経営に対する助言及び意見をいただくことを期待し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものです。なお、過去に会社の経営に直接関与したことはありませんが、上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断しています。現在当社の社外取締役であり、その在任期間は本株主総会終結の時をもって7年となります。

生年月日

1958年8月6日生

略歴、地位及び担当

1980年9月 Baillie Gifford & Co.入社

1986年5月 同社Partner

所有する当社株式の種類及び数

普通株式

0株

2019年3月 当社社外取締役（現任）

2019年5月 Foundation Scotland Trustee（現任）

2019年5月 Edinburgh International Festival Endowment Fund Chair（現任）

2021年12月 The Abbotsford Trust Trustee（現任）

2022年1月 Scottish Episcopal Church Pension Fund Chair（現任）

取締役会への出席状況

100%（11回/11回中）

重要な兼職の状況

Foundation Scotland Trustee

Edinburgh International Festival Endowment Fund Chair

候補者番号 **7**

セダール・ニールー
Tsedal Neeley

社外取締役候補者

独立役員候補者

再任

候補者とした理由及び期待される役割の概要

ハーバード大学経営大学院教授及びインターネット関連ビジネスを営む米国上場企業の社外取締役等を務めた豊富な経験と、企業のデジタルトランスフォーメーション及び文化変容に関する研究や世界各国の企業に対する助言を通じて得た幅広い見識を有していることから、当社のグローバル展開及びデジタル・AIの取組を加速させるための助言及び意見をいただくことを期待し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものです。現在当社の社外取締役であり、その在任期間は本株主総会終結の時をもって3年となります。

生年月日

1972年12月16日生

所有する当社株式の種類及び数

普通株式
0株

取締役会への出席状況

100% (11回/11回中)

略歴、地位及び担当

2007年7月 ハーバード大学経営大学院Assistant Professor
 2012年7月 同大学院Associate Professor
 2015年12月 The Partnership, Inc. Outside Director
 2018年7月 ハーバード大学経営大学院Naylor Fitzhugh Professor of Business Administration (現任)
 2020年6月 Brown Capital Management, LLC Outside Director (現任)
 2020年7月 Brightcove, Inc. Outside Director
 2020年7月 ハーバード大学経営大学院Senior Associate Dean for Faculty Development and Research
 2021年1月 同大学院Faculty Chair of the Christensen for Teaching and Learning (現任)
 2023年3月 当社社外取締役 (現任)
 2025年7月 ハーバード大学経営大学院Senior Associate Dean and Chair of the MBA Program (現任)

重要な兼職の状況

ハーバード大学経営大学院Naylor Fitzhugh Professor of Business Administration
 同大学院Faculty Chair of the Christensen for Teaching and Learning
 同大学院Senior Associate Dean and Chair of the MBA Program

候補者番号 **8**

チャールズ・B・バクスター
Charles B. Baxter

社外取締役候補者

独立役員候補者

再任

**候補者とした理由及び
期待される役割の概要**

インターネット業界及び企業経営に関する専門的な知識や幅広い経験から、当社の経営に対する助言及び意見をいただくことを期待し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものです。2011年3月から当社の非業務執行取締役を務めており、法令に規定する社外取締役の要件を満たしたため、2023年3月30日開催の第26回定時株主総会において社外取締役に選任され、就任しました。現在当社の社外取締役であり、社外取締役としての在任期間は本株主総会終結の時をもって3年となります。

生年月日

1965年4月19日生

所有する当社株式の種類及び数

普通株式
 44,600株

取締役会への出席状況

100% (11回/11回中)

略歴、地位及び担当

1998年10月 eTranslate, Inc. CEO
 2001年3月 当社取締役
 2003年3月 当社取締役退任
 2005年9月 LinkShare Corporation (現RAKUTEN MARKETING LLC) Manager (現任)
 2011年3月 当社取締役
 2012年2月 Rakuten USA, Inc. Chairman and Director (現任)
 2015年1月 Reynolds Holdco, Inc. Chairman (現任)
 2021年11月 Wineshipping.com LLC Director (現任)
 2023年3月 当社社外取締役 (現任)

重要な兼職の状況

—

候補者番号 **9**

はぶか しげき
羽深 成樹

社外取締役候補者

独立役員候補者

再任

候補者としての理由及び期待される役割の概要

内閣府審議官をはじめとする行政機関の要職を歴任した豊富な経験と金融行政及び渉外に関する幅広い見識を有していることから、当社グループのコーポレート・ガバナンスの一層の強化のために、客観的な視点から業務執行に関する助言及び意見をいただくことを期待し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものです。現在当社の社外取締役であり、その在任期間は本株主総会終結の時をもって3年となります。

生年月日

1958年4月14日生

所有する当社株式の種類及び数

普通株式
0株

取締役会への出席状況

100% (11回/11回中)

略歴、地位及び担当

1981年4月 大蔵省（現財務省）入省
 2003年7月 財務省主計局主計官
 2005年7月 財務省主税局税制第二課長
 2008年1月 防衛省大臣官房審議官
 2009年9月 内閣総理大臣秘書官
 2011年9月 財務省主計局次長
 2014年1月 内閣府政策統括官
 2016年6月 内閣府審議官
 2017年11月 株式会社三菱ケミカルホールディングス（現三菱ケミカルグループ株式会社）執行役員経営戦略部門
 2019年4月 同社執行役（政策・渉外室、広報・IR室（広報）分担）
 2022年4月 同社執行役シニアバイスプレジデント（渉外所管）
 2023年3月 **当社社外取締役（現任）**

重要な兼職の状況

—

候補者番号 10

みたち たかし
御立 尚資

社外取締役候補者

独立役員候補者

再任

候補者とした理由及び期待される役割の概要▶

経営コンサルタントとしての専門知識や経験から、当社の経営に対する助言及び意見をいただくことを期待し、社外取締役として引き続き選任をお願いするものです。現在当社の社外取締役であり、その在任期間は本株主総会終結の時をもって10年と長期となりますが、当社は、在任期間が長期にわたることは、当社に対する理解が深まる等の利点もあり、必ずしも経営に対する監督機能を損なわせることはないと考えています。また、当社は取締役の多様性を重視しており、性別、国籍、専門分野に加え在任年数も多様性の一つであると考え、在任年数が異なる社外取締役による多様な意見をいただくことは当社の企業価値の向上に資すると判断しています。同氏は、長年の経営コンサルタントや企業経営で培われた高い識見と能力を有し、取締役会の適切な意思決定と経営の監督に尽力いただいていることから、当社にとって余人をもって代えがたい人材であると考えています。

生年月日

1957年1月21日生

所有する当社株式の種類及び数
普通株式
0株

取締役会への出席状況
100% (11回/11回中)

略歴、地位及び担当

1979年4月 日本航空株式会社入社
1992年6月 ハーバード大学経営大学院修士号取得
1993年10月 ボストン・コンサルティング・グループ入社
1999年1月 同社ヴァイスプレジデント・アンド・パートナー
2005年1月 同社日本代表
2005年5月 同社マネージング・ディレクター・アンド・シニア・パートナー
2016年3月 当社社外取締役（現任）
2016年6月 株式会社ロッテホールディングス社外取締役（現任）
2017年3月 DMG森精機株式会社社外取締役（現任）
2017年6月 公益財団法人大原美術館（現公益財団法人大原芸術財団）理事（現任）
2017年6月 東京海上ホールディングス株式会社社外取締役（現任）
2017年10月 ボストン・コンサルティング・グループ シニア・アドバイザー
2018年3月 公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン専務理事（現任）
2022年6月 住友商事株式会社社外取締役（現任）
2025年4月 京都大学経営管理大学院客員教授（現任）

重要な兼職の状況

DMG森精機株式会社社外取締役
東京海上ホールディングス株式会社社外取締役
公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン専務理事
住友商事株式会社社外取締役
京都大学経営管理大学院客員教授

- (注) 1. 三木谷浩史氏は、一般社団法人新経済連盟の代表理事であり、当社は同団体に対して年会費及び協賛金の支払を行っています。また、同氏は、公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団の理事長であり、当社は同団体に対して協賛金の支払を行っています。
2. 御立尚資氏は、京都大学経営管理大学院の客員教授であり、当社は同大学に対して同大学が開講する講座の受講費の支払を行っていますが、2025年度におけるその割合は、当社売上原価並びに販売費及び一般管理費の合計額の1%未満です。
3. その他の取締役候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
4. 河野奈保氏の戸籍上の氏名は、樋口奈保です。
5. Charles B. Baxter氏は、2001年3月から2003年3月までの間、当社の業務執行取締役であり、2011年3月から現在までの間、当社の非業務執行取締役であり、2005年9月から現在までの間、当社の子会社であるLinkShare Corporation (現RAKUTEN MARKETING LLC) の非業務執行取締役であり、2012年2月から現在までの間、当社の子会社であるRakuten USA, Inc.の非業務執行取締役です。
6. 御立尚資氏は、2017年6月から現在まで東京海上ホールディングス株式会社の社外取締役に就任していますが、同社の子会社である東京海上日動火災保険株式会社は、特定の法人を保険契約者とする損害保険契約に関する他社との保険料調整行為等が認められたとして、2023年12月26日付で金融庁から保険業法に基づく業務改善命令を、2024年11月1日付で公正取引委員会から独占禁止法に基づく排除措置命令及び課徴金納付命令をそれぞれ受けました。同氏は、事前には当該事実を認識していませんでしたが、平素より取締役会等において、グループガバナンスの強化や法令遵守等の視点に立った提言を行っていました。また、当該事実を認識した後は、グループの経営管理の観点から、徹底した調査や真因の分析、再発防止策の検討を指示しており、東京海上日動火災保険株式会社が2024年2月29日に業務改善計画を金融庁に提出した後も、当該計画の徹底した履行を指示する等、その職責を適切に果たしています。また、東京海上日動火災保険株式会社は、個人情報保護法に抵触するおそれがある行為及び同法の趣旨に照らして不適切な行為、不正競争防止法に抵触するおそれがある行為及び同法の趣旨に照らして不適切な行為並びにその背景にある態勢上の問題が認められたとして、2025年3月24日付で金融庁から保険業法に基づく業務改善命令を、2025年4月30日付で個人情報保護委員会及び認定個人情報保護団体である一般社団法人日本損害保険協会から指導をそれぞれ受けました。同氏は、事前には当該事実を認識していませんでしたが、平素より取締役会等において、グループガバナンスの強化や法令遵守等の視点に立った提言を行っていました。また、当該事実を認識した後は、グループの経営管理の観点から、徹底した調査や真因の分析、再発防止策の検討を指示しており、東京海上日動火災保険株式会社が2025年5月9日に業務改善計画を金融庁に提出した後も、当該計画の徹底した履行を指示する等、その職責を適切に果たしています。
7. 安藤隆春、Sarah J.M. Whitley、Tsedal Neeley、Charles B. Baxter、羽深成樹及び御立尚資の6氏は、社外取締役候補者です。
8. 当社は、現行定款において、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を法令で定める額とする責任限定契約を業務執行取締役等でない取締役との間で締結することができる旨を定めており、現在当社の取締役である安藤隆春、Sarah J.M. Whitley、Tsedal Neeley、Charles B. Baxter、羽深成樹及び御立尚資の6氏といずれも当該責任限定契約を締結しています。なお、6氏の再任をご承認いただいた場合、当社は6氏との当該責任限定契約を継続する予定です。

9. 当社は、現在当社の取締役である三木谷浩史、百野研太郎、安藤隆春、Sarah J.M. Whitley、Tsedal Neeley、Charles B. Baxter、羽深成樹及び御立尚資の8氏との間で、会社法第430条の2第1項に規定する同項第1号の費用及び同項第2号の損失を法令の定める範囲内において当社が補償することを内容とする補償契約を締結しています。なお、8氏の再任をご承認いただいた場合、当社は、8氏との当該補償契約を継続する予定です。また、当社は、現在当社の執行役員である河野奈保及び加賀栄一の両氏との間で会社法第430条の2第1項に規定する補償契約に準じる契約（その内容は、取締役との間で締結している補償契約と同様です。）を締結しており、両氏の選任をご承認いただいた場合、当該補償契約を継続する予定です。
10. 当社は、保険会社との間で取締役全員を被保険者とする会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者である取締役がその職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害が填補されます。ただし、法令違反であることを認識して行った行為に起因して生じた当該損害は填補されない等の免責事由があります。なお、各候補者が取締役に就任した場合、当該保険契約の被保険者となり、任期途中で当該保険契約を更新する予定です。
11. 当社は、安藤隆春、Sarah J.M. Whitley、Tsedal Neeley、Charles B. Baxter、羽深成樹及び御立尚資の6氏の再任をご承認いただいた場合、6氏を株式会社東京証券取引所の定める独立役員とする予定です。

第2号議案

米国カリフォルニア州居住者向けにストックオプションとして発行する新株予約権につき特別条項を適用する件

1. 米国カリフォルニア州居住者向けの新株予約権の発行に対する特別条項の適用

当社、当社子会社及び当社関連会社の取締役、執行役員、従業員、社外取締役及び監査役の中には、日本国居住者のみならず、海外居住者も含まれており、これらの対象者にストックオプションとして日本法上の新株予約権を発行する場合、当該対象者が居住する国の証券法その他の法令も併せて適用されることとなりますが、米国カリフォルニア州居住者向けに新株予約権を発行する場合には、特別条項（以下「本特別条項」）を株主総会の承認に基づき適用させることにより、米国証券法の適用除外を受けることが可能となります。

本議案に基づく承認は、2025年7月16日開催の取締役会の承認に基づきストックオプションとして発行された新株予約権、同年10月16日開催の取締役会の承認に基づきストックオプションとして発行された新株予約権、2026年1月15日開催の取締役会の承認に基づきストックオプションとして発行された新株予約権及び同年2月12日開催の取締役会の承認に基づきストックオプションとして発行された新株予約権並びに2035年7月15日までにストックオプションとして発行される新株予約権（以下総称して「対象新株予約権」）に効力が及ぶこととしてたく存じます。

なお、当社の普通株式が米国1933年証券法に基づく上場株式とならない限り、対象新株予約権の各要領に別段の定めがある場合といえども、適用法令により求められる範囲で、本特別条項は、米国カリフォルニア州居住者に対して発行される全ての対象新株予約権に適用されるものとします。

2. 本特別条項の内容

- (1) 対象新株予約権の行使期間は、対象新株予約権発行後10年以内とする。
- (2) 対象新株予約権は、遺言書又は相続と遺産分割に係る法律で定められている場合を除き、譲渡不能とする。ただし、当社はその裁量により、対象新株予約権の取消可能信託への譲渡又は米国1933年証券法のルール701（株式報酬に関する連邦法上の登録免除規定、17 Code of Federal Regulations. 230.701）に基づく譲渡を認めることができるものとする。
- (3) 適用法令で定める事由による退職又は退任でない限り、退職又は退任後であっても、対象新株予約権を有する者については、次の各号のいずれかに定める日まで、対象新株予約権の行使期間が延長されるものとする。ただし、いずれの場合も対象新株予約権の失効日を超えないものとする。
 - ① 死亡又は身体障害による退職又は退任の場合、退職日又は退任日から6ヶ月間
 - ② 死亡又は身体障害以外の事由による退職又は退任の場合、退職日又は退任日から30日間

- (4) 取締役会による米国カリフォルニア州居住者への対象新株予約権の発行を決議した日又は株主総会における本特別条項の承認日のいずれか早い日から10年を超えて、対象新株予約権は米国カリフォルニア州居住者に対して発行されないものとする。
- (5) 当社の株主は、次の各号のいずれか遅い日までに本特別条項を承認しなければならない。
- ① 取締役会による米国カリフォルニア州居住者への対象新株予約権の発行を決議する前又は決議した後12ヶ月以内
 - ② 本特別条項に基づき、米国カリフォルニア州居住者に対し対象新株予約権を発行する前又は発行した後12ヶ月以内

なお、前述の方法で株主による承認が得られない場合、株主による承認の前に付与された対象新株予約権は、取り消されるものとする。また、かかる対象新株予約権に基づき発行されうる株式は、当該承認に係る議決権の個数の算定に含めないものとする。

- (6) 適用法令により求められる限り、当社は、対象新株予約権を保有している米国カリフォルニア州居住者に対し、財務諸表を毎年提供する。なお、かかる財務諸表は、監査済みのものである必要はなく、また、当社に関する職務上、財務諸表に相当する財務情報を閲覧できる主要人員に対して提供することを要しない。

1 企業集団の現況に関する事項

1. 事業の経過及びその成果

売上収益	Non-GAAP営業利益	IFRS営業利益	当期利益 (親会社の所有者帰属)
2兆4,966億円 (前期比 +9.5%) 	1,063億円 (前期比+1,407.9%) 	144億円 (前期比 ▲72.9%) 	▲1,779億円 (前期比 ▲154億円) 

国際会計基準の適用：当社グループでは、第17期から会社計算規則第120条第1項の規定により国際会計基準(IFRS会計基準)に準拠して連結計算書類を作成しています。

当社グループは、経営者が意思決定する際に使用する社内指標(以下「Non-GAAP指標」)及びIFRS会計基準に基づく指標の双方によって、連結経営成績を開示しています。

Non-GAAP営業利益は、IFRS会計基準に基づく営業利益(以下「IFRS営業利益」)から、当社グループが定める非経常的な項目やその他の調整項目を控除したものです。経営者は、Non-GAAP指標を開示することで、ステークホルダーにとって同業他社比較や過年度比較が容易になり、当社グループの恒常的な経営成績や将来見通しを理解する上で有益な情報を提供できると判断しています。なお、非経常的な項目とは、将来見通し作成の観点から一定のルールに基づき除外すべきと当社グループが判断する一過性の利益や損失のことです。その他の調整項目とは、適用する会計基準等により差異が生じ易く企業間の比較可能性が低い、株式報酬費用や子会社取得時に認識した無形資産償却費等を指します。

(注) Non-GAAP指標の開示に際しては、米国証券取引委員会(U.S. Securities and Exchange Commission)が定める基準を参照していますが、同基準に完全に準拠しているものではありません。

■ 当期の経営成績 (Non-GAAPベース)

当連結会計年度における世界経済は、一部の地域において足踏みがみられながらも緩やかな持ち直しが続いている一方、その先行きについては、米国の今後の政策動向、金融資本市場の変動の影響等に留意する必要があります。日本経済については、個人消費や設備投資に持ち直しの動きがみられ、先行きについても、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が景気の緩やかな回復を支えることが期待されています。

「情報通信白書」(注1)によると、人口減少下にあり、地域や社会の課題が多様化・複雑化する日本において、成長力を維持していくためには、生成AIをはじめとするデジタル技術を徹底的に活用し、DXの加速化を図ることが必要であり、その実現に不可欠となるデジタルインフラの重要性が高まっているとされています。総務省はこうした状況を踏まえ、2025年6月に「デジタルインフラ整備計画2030」を策定し、高品質な通信サービスの普及拡大やBeyond 5Gの研究開発・社会実装等を推進することにより、AI社会を支えるデジタル基盤の整備を推進していくこととしています。

このような環境下、当社グループは、メンバーシップ、オンライン・オフライン双方で展開する様々なサービスの展開によって蓄積される質・量共に圧倒的なデータを生かしたAI等の先進的技術を活用したサービスの開発及び展開、モバイルサービスにおけるネットワーク品質の向上、ユーザー獲得等を積極的に進めています。楽天エコシステムを更に進化・拡大させることで、当社グループの競争力を高めていくとともに、インターネットサービス、フィンテック、モバイル等の多岐にわたるサービスを通じて蓄積したユニークなデータ資産を保有している当社グループだからこそ可能であるソリューションサービスを提供していくことで、「AIエンパワーメントカンパニー」としても進化し、人々の生活をより便利で豊かにすることを目指しています。また、足元において物価上昇、為替変動等の景気の先行きへの不透明感が伴う中、多種多様な事業ポートフォリオを有する当社グループが強みとして発揮できる相乗効果を最大限生かすことで、消費者動向やニーズを的確に把握し、更なる成長機会を捉えていきます。

グループを挙げて、AIを活用した売上収益の伸長及びコスト削減に取り組む中、インターネットサービスにおいては、流通総額及び売上収益の更なる成長のために、新規顧客の獲得及びロイヤルユーザーの育成、モバイルユーザーを中心としたクロスユースの促進、『楽天市場』や『楽天トラベル』においてユーザーに最適な商品及びサービス選びをサポートするAIコンシェルジュのサービスリリース等に注力するとともに、コスト最適化努力により収益性の向上を目指した結果、増収増益を達成しました。フィンテックにおいては、各サービスにおける顧客基盤及び取扱高の拡大、各サービス間及び他セグメントのグループサービスとのクロスユースの促進に努めた結果、更なる売上収益の伸長とセグメント利益の向上に繋がりました。モバイルにおいては、継続的な通信品質改善とその認知促進、オンライン・オフライン双方における各種マーケティング活動の結果、2025年12月には全契約回線数が1,000万回線（注2）を突破、セグメント売上収益が拡大しました。加えて、コスト面においては、従来水準を維持したことで、セグメント損失は引き続き縮小しています。

この結果、当社グループの当連結会計年度における売上収益は2,496,575百万円（前連結会計年度比9.5%増）となりました。目標としていた二桁増収には及ばなかったもののフィンテックを中心に増収したほか、Non-GAAP営業利益は106,277百万円（前連結会計年度比1,407.9%増）となりました。

（注1）出典：「令和7年版 情報通信白書」（総務省）

（注2）法人向けのBCPプランを含むMNO、MVNE、MVNOの合算

■Non-GAAP営業利益からIFRS営業利益への調整

当連結会計年度において、Non-GAAP営業利益にて控除される無形資産償却費は5,172百万円、株式報酬費用は15,645百万円となりました。前連結会計年度に計上された非経常的な項目には、保険事業の生損保一体型基幹システム及びその他のシステムの一部に係る除却損5,863百万円、損害保険事業における基幹システムの開発計画の見直しに伴う固定資産の減損9,662百万円、令和6年能登半島地震における基地局の保守修繕費等の発生費用1,154百万円、モバイル事業における一部代理店との契約の見直し及び取引の再評価による契約獲得のためのコストから認識した資産等の取崩し損失5,411百万円、楽天シンフォニー事業における先進的なネットワークソフトウェア開発により注力する形のビジネスモデル転換に伴う除却損1,891百万円及び資金生成単位の変更に伴う固定資産の一部減損2,155百万円、楽天農業事業及び海外広告事業の将来の収益見通しを再評価したことによる固定資産の減損1,667百万円、楽天チケット事業のリストラクチャリングに伴う固定資産の減損等1,305百万円、Viber Media S.a.r.l.の株式のグループ内譲渡及び楽天カード株式会社の株式の一部譲渡に伴う租税公課4,151百万円、海外子会社の売却未収金の回収不能リスクに伴い計上した貸倒引当金繰入額4,386百万円、International Business Machines Corporationとの間の訴訟の解決に係る費用、AST SpaceMobile, Inc.株式の会計上の取り扱いの変更による再測定益106,906百万円、みん就株式会社の譲渡益1,613百万円等が含まれています。なお、連結損益計算書において、モバイル事業における契約獲得のためのコストから認識した資産等の取崩し損失並びにViber Media S.a.r.l.の株式のグループ内譲渡及び楽天カード株式会社の株式の一部譲渡に伴う租税公課は営業費用に、それ以外の収益及び費用は主にその他の収益及びその他の費用に計上されています。また、当連結会計年度に計上された非経常的な項目には、国内スポーツ事業において、過去に締結したチーム運営に重要な影響を及ぼすコンサルティング契約を、チームの運営方針の変更を契機に解約したことによる中途解約金2,459百万円、カード債権流動化における資金調達取引に係る消費税の更正通知の受領に起因した過年度分を含む追徴税額及び延滞税額等の納付額4,950百万円、証券事業における不正アクセスに伴う顧客取引の補償に係る損失額858百万円、倉庫型ネットスーパー事業において顧客獲得実績が当初計画を著しく下回ったこと及び一部商圏からの撤退を決定したことに伴う固定資産の減損等27,909百万円、過去に貸倒引当金を繰り入れた海外子会社の売却未収金の回収に伴う引当金戻入額2,258百万円、ロジスティクス事業において貸与している倉庫の将来的な荷量の増加ペースの遅延及び取り扱い商品サイズの想定以上の大型化による保管可能な荷量の減少に伴う固定資産の減損10,024百万円、「楽天シンフォニー」のOpen RAN事業においてビジネスの立ち上げに当初想定以上の時間を要したことに伴う固定資産の減損20,497百万円、2022年連結会計年度に発覚した子会社の元従業員及び取引先の共謀による不正行為に関与した取引先との一部和解に基づく委託料債務の免除益3,715百万円、海外アフィリエイト事業の将来の収益見通しを再評価したことによる固定資産の減損1,254百万円、一部欧州事業の撤退に向けた人件費引当等1,720百万円、過去に売却した子会社の債務の支払請求訴訟に係る引当金繰入額が含まれています。なお、連結損益計算書において、カード債権流動化における資金調達取引に係る消費税の更正通知の受領に起因した過年度分を含む追徴税額及び延滞税額等の納付額は営業費用に、それ以外の収益及び費用は主にその他の収益及びその他の費用に計上されています。

■当期の経営成績（IFRS会計基準ベース）

当連結会計年度における売上収益は2,496,575百万円（前連結会計年度比9.5%増）、IFRS営業利益は14,382百万円（前連結会計年度においてAST SpaceMobile, Inc.株式の会計上の取り扱いの変更による再測定益106,906百万円を計上した影響もあり、前連結会計年度比72.9%減）、当期損失（親会社の所有者帰属）は177,886百万円（前連結会計年度は162,442百万円の損失）となりました。

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （第28期） （自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）	当連結会計年度 （第29期） （自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）	増減額	増減率
売上収益	2,279,233	2,496,575	217,342	9.5%
Non-GAAP営業利益	7,048	106,277	99,229	1,407.9%
無形資産償却費	△6,821	△ 5,172	1,649	-
株式報酬費用	△15,910	△ 15,645	265	-
非経常的な項目	68,658	△ 71,078	△139,736	-
IFRS営業利益	52,975	14,382	△38,593	△72.9%
当期損失（△）（親会社の所有者帰属）	△162,442	△ 177,886	△15,444	-

■セグメントの概況

各セグメントにおける業績は次のとおりです。なお、IFRS会計基準上のマネジメントアプローチの観点から、セグメント損益をNon-GAAP営業利益ベースで表示しています。

なお、楽天エコシステム内におけるセグメント間の相互貢献効果が拡大している状況を踏まえ、相互貢献効果及び相互送客効果（以下「モバイルエコシステム貢献」）も含めて精緻に業績評価を行えるよう、これらのモバイルエコシステム貢献をセグメント損益に反映しています。

モバイルエコシステム貢献

モバイルエコシステム貢献は、特に楽天モバイルMNO契約者が非契約者と比較して当社グループの各種サービスを利用する傾向が高くなることに基づき算出された貢献効果から、各セグメントから享受する送客効果を控除した指標であり、セグメント間の相互貢献効果及び相互送客効果を数値化すべく以下のとおり計算し、セグメント情報に反映しています。

モバイルエコシステム貢献 = i) 楽天モバイルMNO契約者の粗利益ベースのアップリフト効果 - ii) グループ会社からモバイル事業への送客効果

セグメント間のアップリフト効果及び送客効果の計算方法

i) 楽天モバイルMNO契約者の粗利益ベースのアップリフト効果

当社グループの各事業の特性に応じて、下記いずれかの方法により月額を計算しています。

(a) 楽天モバイルMNO個人契約者と非契約者を比較した場合の当社グループ各事業における各月の直近1年間のユーザー1人当たり月次平均売上上の差×各月の各事業の粗利率×各月末の楽天モバイルMNO個人契約数

(b) 楽天モバイルMNO個人契約者と非契約者を比較した場合の当社グループ各事業における年間利用率の差×各事業の直近1年間のユーザー1人当たり月次平均売上×各月の各事業の粗利率×各月末の楽天モバイルMNO個人契約数

ii) グループ会社からモバイル事業への送客効果

グループ会社のサイトからモバイル事業の契約に至った各月の楽天モバイルMNO個人契約数×送客コスト

※ アップリフト効果の計算対象事業

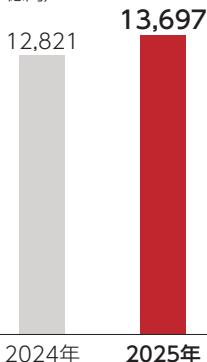
18事業（楽天市場、楽天ブックス、楽天24、楽天ビック、楽天Kobo、楽天ファッション、楽天トラベル、楽天マート、楽天ビューティー、楽天ペイアプリ決済、楽天ペイオンライン決済、楽天Edy、楽天ポイントカード、楽天カード、楽天銀行、楽天証券、楽天生命、楽天損保）を対象としています。



インターネットサービス

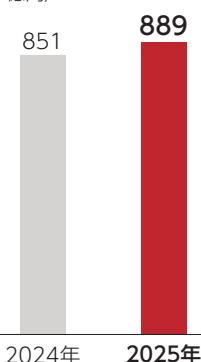
セグメント売上収益

(単位：億円)



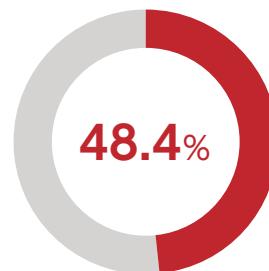
セグメント利益

(単位：億円)



売上収益構成比

(調整額は除く)



主な事業

- 国内 E C (楽天市場、楽天トラベル等)
- 海外 E C (Rakuten Rewards (Ebates), Rakuten Kobo等)
- 投資 (Rakuten Capital)
- 広告 (Rakuten Advertising等)
- プロスポーツ (楽天イーグルス、ヴィッセル神戸等)

主力サービスである国内 E C においては、新規顧客の獲得及びロイヤルユーザーの育成、モバイルユーザーを中心としたクロスユースの促進、エージェント型 AI ツールである AI コンシェルジュの開発等に注力しました。インターネット・ショッピングモール『楽天市場』においては、AI を活用した出店店舗支援ツールの展開を含む、顧客の利便性や満足度の向上を追求した各種施策を行った結果、流通総額及び売上収益が成長し、マーケティング効率の改善とあいまって増益となりました。インターネット旅行予約サービス『楽天トラベル』においては、訪日外国人観光客の増加に伴うインバウンド需要の高まり等により、取扱高が拡大しました。

海外インターネットサービスを運営するインターナショナル部門においては、電子書籍サービスの『Rakuten Kobo』において、2024年に発売開始したカラー対応端末の売上の好調に加えコンテンツ売上が拡大したほか、メッセージングサービスの『Rakuten Viber』において通信売上及び広告売上が増加する等、各事業が着実に成長を継続し、セグメント利益の拡大に寄りました。

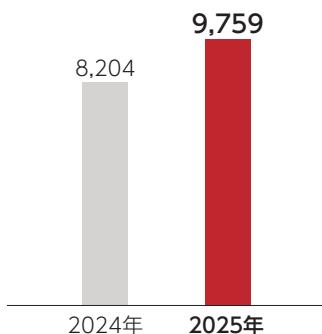
この結果、インターネットサービスセグメントにおける売上収益は1,369,697百万円（前連結会計年度比6.8%増）、セグメント利益は88,943百万円（前連結会計年度比4.5%増）となりました。



フィンテック

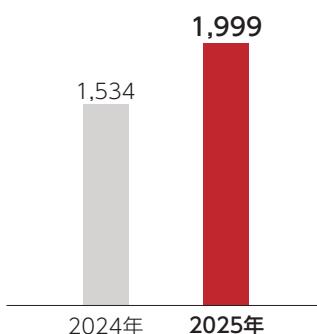
セグメント売上収益

(単位：億円)



セグメント利益

(単位：億円)



売上収益構成比

(調整額は除く)



主な事業

- 楽天カード
- 楽天銀行
- 楽天証券
- 楽天生命
- 楽天損保
- 楽天ペイ

フィンテックにおいては、クレジットカード関連、銀行、証券、保険、ペイメントの国内主要サービスの全てにおいて増収となりました。クレジットカード関連サービスにおいては、『楽天カード』の顧客基盤の拡大及びショッピング取扱高の伸長が拡大しました。銀行サービスにおいては、顧客基盤の拡大に伴う運用資産の増加及び日銀の政策金利の引き上げに伴う運用利回りの向上により、資産運用収益が大幅に拡大しました。証券サービスにおいては、顧客基盤の継続的な拡大に加え、収益源の多様化等により売上収益の成長が継続しました。保険サービスにおいては、商品特性に合わせた販売チャネルの活用が奏功し、保険料収入が拡大しました。ペイメントサービスにおいては、『楽天ペイ』のユーザー数増加に伴い取扱高が増加し、効率的なマーケティング施策とあいまって増収増益となりました。

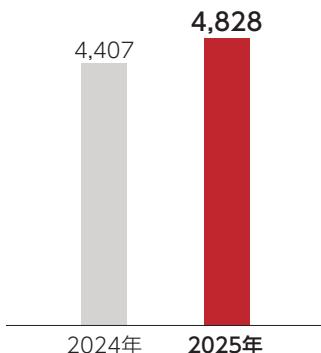
この結果、フィンテックセグメントにおける売上収益は975,931百万円（前連結会計年度比19.0%増）、セグメント利益は199,922百万円（前連結会計年度比30.3%増）となりました。



モバイル

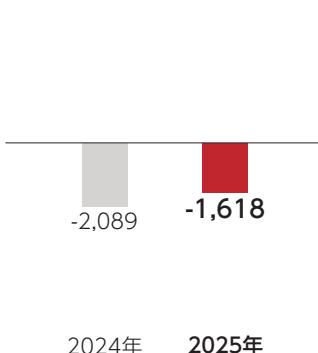
セグメント売上収益

(単位：億円)



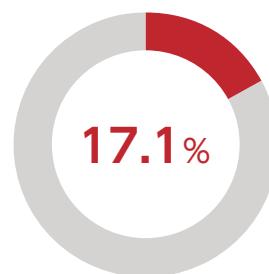
セグメント損失

(単位：億円)



売上収益構成比

(調整額は除く)



主な事業

- 通信 (楽天モバイル等)
- 電話サービス (楽天モバイル)
- 電力供給サービス (楽天エネルギー)

モバイルにおいては、『楽天モバイル』を中心に増収、損失改善となりました。『楽天モバイル』は、通信品質の向上及びその認知拡大努力に取り組むとともに、新パック「Rakuten最強U-NEXT」の提供、『楽天市場』や『楽天カード』をはじめ楽天エコシステムの各種サービスを活用したマーケティング施策等を展開したほか、法人向けプランの契約者獲得を積極的に推進した結果、2025年12月に、全契約回線数（法人向けのBCPプランを含むMNO、MVNE、MVNOの合算）が1,000万回線を突破しました。ARPUについても、データ利用量の増加、オプションサービスの利用者の増加等を背景に、B2C及びB2BのARPUが2024年第4四半期連結会計期間と比較してそれぞれ上昇しました。

この結果、モバイルセグメントにおける売上収益は482,838百万円（前連結会計年度比9.6%増）、セグメント損失は161,841百万円（前連結会計年度は208,933百万円の損失）となりました。特に、モバイル事業においては、当連結会計年度においてEBITDA黒字化を達成しました。

今後も引き続き更なる通信品質改善に向けた設備投資等に注力するとともに、端末ラインナップや法人向けのソリューションサービスの拡充等にも取り組み、契約者増加及び顧客満足度の更なる向上を図ってまいります。

2. 財産及び損益の状況

区 分		第26期	第27期	第28期	第29期
		(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
売上収益	(百万円)	1,920,894	2,071,315	2,279,233	2,496,575
営業利益又は損失 (△)	(百万円)	△371,612	△212,857	52,975	14,382
Non-GAAP営業利益 又は損失 (△)	(百万円)	△335,192	△153,041	7,048	106,277
税引前当期利益又は損失 (△)	(百万円)	△415,612	△217,741	16,277	△ 29,550
親会社の所有者に帰属する 当期損失 (△)	(百万円)	△377,217	△339,473	△162,442	△ 177,886
親会社の所有者に帰属する 当期包括利益	(百万円)	△309,683	△273,755	△85,734	△ 3,997
基本的1株当たり当期損失 (△)	(円)	△237.73	△177.27	△75.61	△ 82.24
希薄化後1株当たり当期損失 (△)	(円)	△237.89	△177.29	△75.62	△ 82.26
資産合計	(百万円)	20,402,281	22,625,576	26,514,728	28,804,400
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	791,351	836,572	927,868	992,402
1株当たり親会社所有者帰属持分	(円)	497.56	390.53	430.67	457.33
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△262,068	724,192	1,190,882	424,093
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△948,289	△597,416	△921,724	△ 779,809
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,486,686	291,956	757,469	14,134
ROE	(%)	△40.4	△41.7	△18.4	△ 18.5
1株当たり配当金	(円)	4.5	0.0	0.0	0.0

- (注) 1. Non-GAAP営業利益は、IFRS会計基準に基づく営業利益から、当社グループが定める非経常的な項目やその他の調整項目を控除したものです。経営者は、Non-GAAP指標を開示することで、ステークホルダーにとって同業他社比較や過年度比較が容易になり、当社グループの恒常的な経営成績や将来見通しを理解する上で有益な情報を提供できると判断しています。
2. IFRS第17号「保険契約」を第27期の期首から適用し、第26期の関連する主要な経営指標等について遡及修正しています。

3. 設備投資等の状況

当連結会計年度の設備投資の総額は287,303百万円であり、主に「4G」及び「5G」に関する基地局、ネットワーク設備の新設を目的とした楽天モバイル株式会社における設備投資及び使用権資産の増加等によるものです。

4. 資金調達の状況

当社グループにおける主な資金調達は以下のとおりです。

当社は、2025年7月及び8月に円建無担保社債の発行により、それぞれ30,000百万円、130,000百万円を、同年10月に円建永久劣後特約付社債の発行により82,000百万円を調達しました。楽天カード株式会社においては、同年6月及び12月に円建無担保社債の発行により、それぞれ110,000百万円、50,000百万円を調達しました。

5. 企業再編等の状況

当社の連結子会社である楽天モバイル株式会社は、2025年2月1日に、同じく当社の連結子会社である楽天エナジー株式会社を吸収合併しました。

詳細は、「連結注記表 9. その他の注記（企業結合等に関する注記）」をご参照ください。

6. 対処すべき課題

「イノベーションを通じて、人々と社会をエンパワーメントする」企業グループとして、事業環境の変化に柔軟に対応し、持続可能な成長に向けた仕組みを構築することが、当社グループの対処すべき課題です。長期にわたる持続的な成長により、当社グループの企業価値・株主価値の最大化を図るとともに、社会全体に便益をもたらすグローバル イノベーション カンパニーであり続けることを目指します。

(1) 事業戦略

当社グループが保有するメンバーシップ、データ及びブランドを核とする楽天エコシステムにおいて、国内外の会員が複数のサービスを回遊的・継続的に利用できる環境を整備することで、会員1人当たりの生涯価値（ライフタイムバリュー）の最大化、顧客獲得コストの最小化等の相乗効果の創出及びグループ全体の価値最大化を目指し、また、メンバーシップ及び共通ポイントプログラムを基盤にしたオンライン・オフライン双方のデータ、AI等の先進的技術を活用したサービスの開発及び展開を進めています。

EC及び旅行予約をはじめとしたインターネットサービスにおいては、新規顧客の獲得、クロスユースの促進等に取り組むとともに、データやエージェント型AIツールであるAIコンシェルジュ等の活用を通じた新しい市場の創造や既存ユーザーの更なる購買額の向上により、流通総額及び売上収益の成長を目指します。

クレジットカード関連サービス、銀行サービス、証券サービス、保険サービス、ペイメントサービス等を提供するフィンテックにおいては、各サービスにおける顧客基盤及び取扱高の拡大を目指します。また、政府によるキャッシュレス普及が推進されている中、QRコード・バーコード決済、電子マネー、ポイント等を含む総合的なキャッシュレス決済の推進に向け、決済サービス導入箇所の拡大や、アクティブユーザーを増やすための施策等に取り組んでいます。

モバイルにおいては、ネットワーク品質の向上及びその認知拡大努力を継続しながら、楽天エコシステムを活用した魅力的なマーケティング施策を打ち出していくことで顧客基盤を強化していきます。また、当社グループと取引のある全国の法人企業や自治体等に対する提案を通じ更なる契約者獲得を進めていきます。加えて、4G及び5G基地局の設置を拡大するとともに、スマートフォンと低軌道衛星の直接通信により、従来通信圏外だったエリアや災害等の緊急の場合においても利用可能なネットワークの構築を目指します。これらの取組により、高品質なネットワーク環境を提供し、契約者獲得のペース加速に繋げるとともに、モバイル事業における損益の改善を目指します。また、通信事業者におけるネットワーク機器の構成を刷新する取組や基地局のオープン化がグローバルで進む中、革新的なモバイルネットワーク技術を用いた通信プラットフォーム等を提供している「楽天シンフォニー」においては、既存顧客からの収益拡大に加え、新規顧客に対してもアプローチを進め、的確に商機を捉えながらグローバルにおける展開の強化を図っていきます。

こうした個々のビジネスの成長や事業間シナジーの最大限の追求に加え、当社グループが持つメンバーシップやAIの活用による革新的で効率的なマーケティング手法の確立、グループシナジーを生かした広告事業の活用、さらに国内外におけるブランド認知度、価値の向上等により、今後も楽天エコシステムを国内のみならずグローバルでも拡大していきたいと考えています。このためにはグローバル経営を一層強化する必要があり、経営資源配分の最適化を図るための事業ポートフォリオの見直し・強化を行うほか、AIを活用した生産性・事業効率の向上等にも力を入れていきます。

(2) 経営体制

当社グループは、「イノベーションを通じて、人々と社会をエンパワーメントする」ことを経営の基本理念としています。ユーザー及び取引先企業へ満足度の高いサービスを提供するとともに、多くの人々の成長を後押しすることで、社会を変革し豊かにしていきます。その実践のために、コーポレート・ガバナンスの徹底を最重要課題の一つと位置づけ、様々な施策を講じています。

当社は、経営の透明性を高め、適正性・効率性・公正性・健全性を実現するため、独立性の高い監査役が監査機能を担う監査役会設置会社の形態を採用しており、経営の監査を行う監査役会は、社外監査役が過半数を占める構成となっています。また、当社は、経営の監督と業務執行の分離を図るため執行役員制を導入しており、取締役会は経営の意思決定及び監督機能を担い、執行役員が業務執行機能を担うこととしています。

当社の取締役会においては、独立性が高く多様な分野の専門家である社外取締役を中心として客観的な視点から業務執行の監督を行うとともに、経営に関する多角的な議論を自由闊達に行っています。さらに取締役会とは別に、社外役員含む全ての役員が原則出席するグループ経営戦略等に関する会議を開催し、短期的な課題や取締役会審議事項に捉われない中長期的視野に立った議論も行うことで、コーポレート・ガバナンスの実効性を高めています。

新規の資金投下を伴う投融資案件については、外部有識者を含む投融資委員会で事前に審議し、その結果を取締役に報告しています。また、重要案件については、事前に取締役・監査役と概要及び主要論点を共有・審議した上で上程することで、取締役会における審議の質の向上と意思決定の適正化を図っています。

加えて、業務執行における機動性の確保、アカウンタビリティ（説明責任）の明確化を実現するために社内カンパニー制を導入しています。

当社グループでは、今後もこうした取組を通じて、迅速な経営判断を可能にし、より実効性の高いガバナンス機能を有する経営体制を構築していきます。

7. 主要な事業内容

当社グループは、インターネットサービス、フィンテック及びモバイルという3つの事業を基軸としたグローバルイノベーションカンパニーであることから、「インターネットサービス」、「フィンテック」及び「モバイル」の3つを報告セグメントとしています。報告セグメントの決定にあたっては事業セグメントの集約を行っていません。

これらのセグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっています。

「インターネットサービス」セグメントは、インターネット・ショッピングモール『楽天市場』をはじめとする各種ECサイト、オンライン・キャッシュバック・サイト、旅行予約サイト、ポータルサイト、デジタルコンテンツサイト等の運営、メッセージングサービスの提供や、これらのサイトにおける広告等の販売、プロスポーツの運営等を行う事業により構成されています。

「フィンテック」セグメントは、クレジットカード関連サービス、インターネットを介した銀行及び証券サービス、暗号資産（仮想通貨）の媒介、生命保険サービス、損害保険サービス、ペイメントサービスの提供等を行う事業により構成されています。

「モバイル」セグメントは、通信サービス及び通信技術の提供、電力供給サービスの運営並びにモバイルセグメントに関連する投資等を行う事業により構成されています。

8. 重要な親会社及び子会社の状況

重要な子会社の状況

社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
楽天モバイル(株)	100百万円	100.00%	音声通話、データ通信サービスの提供及び携帯端末の販売
楽天カード(株)	19,324百万円	85.01%	クレジットカード『楽天カード』の発行及び関連サービスの提供
楽天銀行(株)	32,643百万円	49.26%	インターネット・バンキング・サービスの提供
楽天証券(株)	19,496百万円	51.00% (51.00%)	オンライン証券取引サービスの提供
Ebates Inc.	0.1米ドル	100.00% (100.00%)	オンライン・キャッシュバック・サービスの提供
楽天ペイメント(株)	100百万円	100.00% (100.00%)	電子決済サービスの提供
Rakuten Kobo Inc.	973百万加ドル	100.00% (100.00%)	電子書籍サービスの提供
Rakuten Symphony Singapore Pte. Ltd.	296,269千米ドル	100.00% (100.00%)	グループ会社が開発したOpen RANベースの通信インフラプラットフォーム等の販売及び関連サービスの提供
楽天損害保険(株)	29,753百万円	100.00% (100.00%)	損害保険事業の運営
楽天生命保険(株)	10,000百万円	100.00% (100.00%)	生命保険事業の運営
Viber Media S.a.r.l.	217千米ドル	100.00% (100.00%)	モバイルメッセージング及びVoIPサービスの提供
楽天国際商業銀行股份有限公司	100億台湾ドル	51.00% (51.00%)	インターネット・バンキング・サービスの提供

(注) 1. 議決権比率の()内は、間接所有割合で内数です。

2. 楽天銀行株式会社の議決権の所有割合は100分の50以下ですが、当社が同社を実質的に支配していると判断し、連結しています。

3. 特定完全子会社に関する事項

①特定完全子会社の名称及び住所

楽天モバイル株式会社
東京都世田谷区玉川一丁目14番1号

②当社及び完全子会社等における特定完全子会社の株式の当事業年度の末日における帳簿価額の合計額
1,890,608百万円

③当社の当事業年度に係る貸借対照表の資産の部に計上した額の合計額
4,791,273百万円

4. 楽天モバイル株式会社が有する通信料債権の流動化による資金調達を行うにあたり、以下の措置を行っています。

楽天モバイル株式会社の株式は全て当社から楽天信託株式会社に信託されています。これは、楽天モバイル株式会社の通信料債権を流動化するにあたり、投資家の保護を企図した仕組みになります。本仕組みにおいて、当社の信用格付が一定以下になる等の要件に該当した場合には、議決権の行使に係る指図権は独立の第三者である一般社団法人アールエムトラストに移転し、楽天モバイル株式会社は信用力の低下した当社からの影響を回避することができます。なお、現在当社は議決権全てに対する指図権を含めた受益権を有していることから、議決権の所有割合に含めて記載しています。

9. 主要な営業所

(1) 当社

名称	所在地	名称	所在地
楽天クリムゾンハウス	東京都世田谷区	名古屋支社	愛知県名古屋市
札幌支社	北海道札幌市	大阪支社	大阪府大阪市
仙台支社	宮城県仙台市	広島支社	広島県広島市
さいたま支社	埼玉県さいたま市	福岡支社	福岡県福岡市

(2) 子会社

名称	所在地
楽天モバイル(株)	東京都世田谷区
楽天カード(株)	東京都港区
楽天銀行(株)	東京都港区
楽天証券(株)	東京都港区
Ebates Inc.	米国
楽天ペイメント(株)	東京都港区
Rakuten Kobo Inc.	カナダ
Rakuten Symphony Singapore Pte. Ltd.	シンガポール
楽天損害保険(株)	東京都港区
楽天生命保険(株)	東京都港区
Viber Media S.a.r.l.	ルクセンブルク
楽天国際商業銀行股份有限公司	台湾

10. 従業員の状況

区分	従業員数	前連結会計年度末比増減
合計	29,419名	85名増

(注) 従業員数には使用人兼務取締役、派遣社員及びアルバイトは含んでいません。

セグメントの名称	従業員数
インターネットサービス	9,793名
フィンテック	6,217名
モバイル	4,333名
全社（共通）	9,076名
合計	29,419名

(注) 全社（共通）は、特定のセグメントに区分できない開発部門、管理部門及びシェアードサービス事業に属する従業員数です。

11. 主要な借入先

借入先	借入金残高
(株)みずほ銀行	233,371百万円
(株)三井住友銀行	44,901百万円
三井住友信託銀行(株)	33,278百万円

2 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数

3,941,800,000株

2. 発行済株式の総数

普通株式 2,169,972,100株
(自己株式数5,878株を含む)

3. 株主数

799,560名

4. 株主（上位10位）

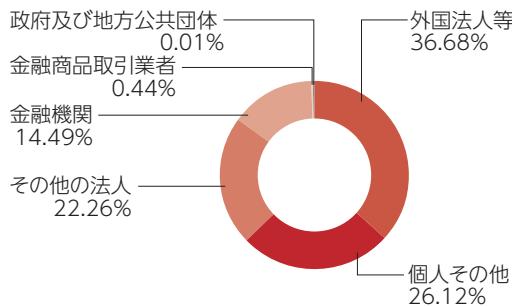
株主名	持株数(普通株式)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	235,173,200株	10.84%
合同会社クリムゾングループ	226,419,000株	10.43%
三木谷 浩史	176,703,400株	8.14%
日本郵政株式会社	131,004,000株	6.04%
三木谷 晴子	112,625,000株	5.19%
MSIP CLIENT SECURITIES	81,941,532株	3.78%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	58,679,800株	2.70%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	50,495,231株	2.33%
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	45,192,968株	2.08%
有限会社三木谷興産	40,868,500株	1.88%
有限会社スピリット	40,868,500株	1.88%

(注) 持株比率は、自己株式（5,878株）を控除して計算しています。

5. その他株式に関する重要な事項

2024年3月28日開催の第27回定時株主総会において、社債型種類株式の発行を可能とするための定款変更が決議されましたが、当事業年度末における発行済株式は、全て普通株式であり、社債型種類株式は発行していません。

所有者別株式分布状況



※自己株式は、「個人その他」に含めています。

3 会社の新株予約権等に関する事項

1. 当事業年度末日における新株予約権等の状況

(1) 当社従業員の保有にかかる新株予約権等の内容の概要

名称 (付与決議日)	新株予約権等の数	目的となる 株式の種類 及び数	発行 価額	行使価額 (1株当たり)	権利行使期間
第57回新株予約権 (2017年2月20日決議)	36個	普通株式 3,600株	無償	0.01円	2020年3月31日 ～2026年3月29日
第59回新株予約権 (2017年2月20日決議)	3,905個	普通株式 390,500株	無償	0.01円	2018年3月1日 ～2027年3月1日
第70回新株予約権 (2018年2月19日決議)	63個	普通株式 6,300株	無償	0.01円	2021年3月31日 ～2027年3月29日
第71回新株予約権 (2018年2月19日決議)	3,969個	普通株式 396,900株	無償	0.01円	2019年3月1日 ～2028年3月1日
第76回新株予約権 (2019年1月18日決議)	23,608個	普通株式 2,360,800株	無償	0.01円	2020年2月1日 ～2029年2月1日
第81回新株予約権 (2019年4月26日決議)	7,036個	普通株式 703,600株	無償	0.01円	2019年11月1日 ～2059年5月1日
第82回新株予約権 (2019年7月26日決議)	9,707個	普通株式 970,700株	無償	0.01円	2020年8月1日 ～2029年8月1日
第85回新株予約権 (2020年1月31日決議)	16,466個	普通株式 1,646,600株	無償	0.01円	2021年2月1日 ～2030年2月1日
第87回新株予約権 (2020年2月28日決議)	5,022個	普通株式 502,200株	無償	0.01円	2020年3月1日 ～2060年3月1日
第89回新株予約権 (2020年4月16日決議)	1,702個	普通株式 170,200株	無償	0.01円	2020年5月1日 ～2060年5月1日
第90回新株予約権 (2020年7月16日決議)	18,402個	普通株式 1,840,200株	無償	0.01円	2021年8月1日 ～2030年8月1日
第93回新株予約権 (2021年1月14日決議)	21,831個	普通株式 2,183,100株	無償	0.01円	2022年2月1日 ～2031年2月1日
第95回新株予約権 (2021年2月12日決議)	4,158個	普通株式 415,800株	無償	0.01円	2021年3月1日 ～2061年3月1日

名称 (付与決議日)	新株予約権等の数	目的となる 株式の種類 及び数	発行 価額	行使価額 (1株当たり)	権利行使期間
第97回新株予約権 (2021年4月15日決議)	1,846個	普通株式 184,600株	無償	0.01円	2021年5月1日 ～2061年5月1日
第98回新株予約権 (2021年7月15日決議)	20,680個	普通株式 2,068,000株	無償	0.01円	2022年8月1日 ～2031年8月1日
第101回新株予約権 (2022年1月14日決議)	35,529個	普通株式 3,552,900株	無償	0.01円	2023年2月1日 ～2032年2月1日
第104回新株予約権 (2022年2月14日決議)	3,653個	普通株式 365,300株	無償	0.01円	2022年3月1日 ～2062年3月1日
第105回新株予約権 (2022年4月14日決議)	59,245個	普通株式 5,924,500株	無償	0.01円	2023年5月1日 ～2032年5月1日
第106回新株予約権 (2022年4月14日決議)	2,507個	普通株式 250,700株	無償	0.01円	2022年5月1日 ～2062年5月1日
第107回新株予約権 (2022年7月14日決議)	52,953個	普通株式 5,295,300株	無償	0.01円	2023年8月1日 ～2032年8月1日
第111回新株予約権 (2023年1月16日決議)	66,833個	普通株式 6,683,300株	無償	0.01円	2024年2月1日 ～2033年2月1日
第114回新株予約権 (2023年2月14日決議)	6,842個	普通株式 684,200株	無償	0.01円	2023年3月1日 ～2063年3月1日
第115回新株予約権 (2023年4月13日決議)	76,957個	普通株式 7,695,700株	無償	0.01円	2024年5月1日 ～2033年5月1日
第117回新株予約権 (2023年4月13日決議)	4,515個	普通株式 451,500株	無償	0.01円	2023年5月1日 ～2063年5月1日
第126回新株予約権 (2024年4月12日決議)	169,630個	普通株式 16,963,000株	無償	0.01円	2025年5月1日 ～2034年5月1日
第128回新株予約権 (2024年4月12日決議)	3,838個	普通株式 383,800株	無償	0.01円	2024年5月1日 ～2064年5月1日
第138回新株予約権 (2025年4月15日決議)	76,354個	普通株式 7,635,400株	無償	0.01円	2026年5月1日 ～2035年5月1日
第140回新株予約権 (2025年4月15日決議)	2,943個	普通株式 294,300株	無償	0.01円	2025年5月1日 ～2065年5月1日

- (注) 1. 新株予約権の権利行使期間については、その最終日が当社の休日に当たるときは、その前営業日を最終日とします。
2. 第57回新株予約権及び第70回新株予約権の行使条件は、以下のとおりです。
- イ) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社、当社子会社又は当社関連会社の取締役、執行役員、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ロ) 新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ハ) 新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。
 - 二) 新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。
 - i) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法
3. 第59回新株予約権、第71回新株予約権及び第76回新株予約権の行使条件は、以下のとおりです。
- イ) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社、当社子会社又は当社関連会社の取締役、執行役員、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ロ) 新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ハ) 新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。
 - 二) 新株予約権者は、以下の区分に従って、新株予約権の全部又は一部を行使することができる。
 - i) 発行日からその1年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができない。
 - ii) 発行日の1年後の応当日から発行日の2年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の15%について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iii) 発行日の2年後の応当日から発行日の3年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の35%（ただし、発行日の2年後の応当日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の35%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iv) 発行日の3年後の応当日から発行日の4年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の65%（ただし、発行日の3年後の応当日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の65%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。

- v) 発行日の4年後の応当日から発行日の10年後の応当日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができる。
- ホ) 新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。
- i) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法
4. 第81回新株予約権、第87回新株予約権、第89回新株予約権、第95回新株予約権、第97回新株予約権、第104回新株予約権、第106回新株予約権、第114回新株予約権、第117回新株予約権、第128回新株予約権及び第140回新株予約権の行使条件は、以下のとおりです。
- イ) 新株予約権者は、権利行使時において、当社、当社子会社及び当社関連会社の取締役、執行役員、監査役及び従業員の地位のいずれもが終了した日の翌日から、10日以内に限り、新株予約権を行使できるものとする。
- ロ) 新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
- ハ) 新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。
- 二) 新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。
- i) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法
5. 第82回新株予約権、第85回新株予約権、第90回新株予約権、第93回新株予約権、第98回新株予約権及び第101回新株予約権の行使条件は、以下のとおりです。
- イ) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社、当社子会社又は当社関連会社の取締役（社外取締役は除く。）、執行役員、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、新株予約権者が退職時（退職時までには申込ができない正当な事由が認められる場合は、退職後直近の申込期日）までに、当社所定の手続きに従い新株予約権行使の申込を行った場合、及び諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
- ロ) 新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
- ハ) 新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。
- 二) 新株予約権者は、以下の区分に従って、新株予約権の全部又は一部を行使することができる。
- i) 発行日からその1年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができない。

- ii) 発行日の1年後の応当日から発行日の2年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の15%について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iii) 発行日の2年後の応当日から発行日の3年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の35%（ただし、発行日の2年後の応当日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の35%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iv) 発行日の3年後の応当日から発行日の4年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の65%（ただし、発行日の3年後の応当日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の65%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - v) 発行日の4年後の応当日から発行日の10年後の応当日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができる。
- ホ) 新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。
- i) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法
6. 第105回新株予約権、第107回新株予約権、第111回新株予約権、第115回新株予約権、第126回新株予約権及び第138回新株予約権の行使条件は、以下のとおりです。
- イ) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社、当社子会社又は当社関連会社の取締役、執行役員、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、新株予約権者が退職時（退職時までには申込みができない正当な事由が認められる場合は、退職後直近の申込期日）までに、当社所定の手続きに従い新株予約権行使の申込を行った場合、又は諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ロ) 新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ハ) 新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。
 - ニ) 新株予約権者は、以下の区分に従って、新株予約権の全部又は一部を行使することができる。
 - i) 発行日からその1年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができない。
 - ii) 発行日の1年後の応当日から発行日の2年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の15%について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。

- iii) 発行日の2年後の応当日から発行日の3年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の35%（ただし、発行日の2年後の応当日の前日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の35%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iv) 発行日の3年後の応当日から発行日の4年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の65%（ただし、発行日の3年後の応当日の前日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の65%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - v) 発行日の4年後の応当日から発行日の10年後の応当日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができる。
- ホ) 新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。
- i) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法

(2) 当社役員の保有する新株予約権等の区分別の状況

区分	名称	新株予約権等の数	保有者数
取締役	第 59 回 新株予約権	234個	1人
	第 71 回 新株予約権	565個	1人
	第 81 回 新株予約権	1,681個	3人
	第 87 回 新株予約権	1,065個	2人
	第 89 回 新株予約権	976個	1人
	第 95 回 新株予約権	886個	2人
	第 97 回 新株予約権	1,030個	3人
	第104回 新株予約権	285個	1人
	第106回 新株予約権	2,121個	2人
	第114回 新株予約権	577個	1人
	第117回 新株予約権	3,962個	3人
	第128回 新株予約権	3,383個	3人
	第140回 新株予約権	2,943個	3人
社外取締役	第 57 回 新株予約権	18個	1人
	第 59 回 新株予約権	114個	1人
	第 70 回 新株予約権	21個	1人
	第105回 新株予約権	179個	3人
	第115回 新株予約権	128個	3人
	第126回 新株予約権	355個	5人
	第138回 新株予約権	571個	6人

区分	名称	新株予約権等の数	保有者数
	第 76 回 新株予約権	3 個	1 人
	第 82 回 新株予約権	2 個	1 人
	第 85 回 新株予約権	3 個	1 人
	第 90 回 新株予約権	3 個	1 人
監査役	第 93 回 新株予約権	4 個	1 人
	第 98 回 新株予約権	3 個	1 人
	第101回 新株予約権	3 個	1 人
	第107回 新株予約権	11 個	1 人
	第111回 新株予約権	6 個	1 人

- (注) 1. 上記新株予約権については、その目的となる株式の数は1個当たり100株となっています。
 2. 表中の「取締役」は社外取締役を含みません。
 3. 監査役が保有している新株予約権は、使用人として在籍中に付与されたものを含みます。

2. 当事業年度中に交付した新株予約権等の状況

(1) 当社従業員、当社子会社の役員及び従業員に交付した新株予約権等の内容の概要

名称 (付与決議日)	新株予約権等の数	目的となる 株式の種類 及び数	発行 価額	行使価額 (1株当たり)	権利行使期間
第133回新株予約権 (2025年1月16日決議)	69,268個	普通株式 6,926,800株	無償	0.01円	2026年2月1日 ～2035年2月1日
第134回新株予約権 (2025年1月16日決議)	324個	普通株式 32,400株	無償	0.01円	2026年2月1日 ～2035年2月1日
第135回新株予約権 (2025年2月14日決議)	7,328個	普通株式 732,800株	無償	0.01円	2026年3月1日 ～2035年3月1日
第136回新株予約権 (2025年2月14日決議)	1,299個	普通株式 129,900株	無償	0.01円	2026年3月1日 ～2035年3月1日
第137回新株予約権 (2025年2月14日決議)	6,229個	普通株式 622,900株	無償	0.01円	2025年3月1日 ～2065年3月1日
第138回新株予約権 (2025年4月15日決議)	75,783個	普通株式 7,578,300株	無償	0.01円	2026年5月1日 ～2035年5月1日
第139回新株予約権 (2025年4月15日決議)	4,771個	普通株式 477,100株	無償	0.01円	2026年5月1日 ～2035年5月1日
第141回新株予約権 (2025年7月16日決議)	70,406個	普通株式 7,040,600株	無償	0.01円	2026年8月1日 ～2035年8月1日
第142回新株予約権 (2025年7月16日決議)	367個	普通株式 36,700株	無償	0.01円	2026年8月1日 ～2035年8月1日
第143回新株予約権 (2025年10月16日決議)	26,029個	普通株式 2,602,900株	無償	0.01円	2026年11月1日 ～2035年11月1日
第144回新株予約権 (2025年10月16日決議)	274個	普通株式 27,400株	無償	0.01円	2026年11月1日 ～2035年11月1日

- (注) 1. 新株予約権の権利行使期間については、その最終日が当社の休日に当たるときは、その前営業日を最終日とします。
2. 第133回新株予約権、第134回新株予約権、第135回新株予約権、第136回新株予約権、第138回新株予約権、第139回新株予約権、第141回新株予約権、第142回新株予約権、第143回新株予約権及び第144回新株予約権の行使条件は、以下のとおりです。

- イ) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社、当社子会社又は当社関連会社の取締役、執行役員、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、新株予約権者が退職時（退職時までには申込ができない正当な事由が認められる場合は、退職後直近の申込期日）までに、当社所定の手続きに従い新株予約権行使の申込を行った場合、又は諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ロ) 新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ハ) 新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。
 - 二) 新株予約権者は、以下の区分に従って、新株予約権の全部又は一部を行使することができる。
 - イ) 発行日からその1年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができない。
 - ii) 発行日の1年後の応当日から発行日の2年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の15%について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iii) 発行日の2年後の応当日から発行日の3年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の35%（ただし、発行日の2年後の応当日の前日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の35%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iv) 発行日の3年後の応当日から発行日の4年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の65%（ただし、発行日の3年後の応当日の前日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の65%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - v) 発行日の4年後の応当日から発行日の10年後の応当日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができる。
 - ホ) 新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。
 - イ) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法
3. 第137回新株予約権の行使条件は、以下のとおりです。
- イ) 新株予約権者は、権利行使時において、当社、当社子会社及び当社関連会社の取締役、執行役員、監査役及び従業員の地位のいずれもが終了した日の翌日から、10日以内に限り、新株予約権を行使できるものとする。
 - ロ) 新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ハ) 新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。

- 二) 新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。
- i) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法

(2) 当社従業員、当社子会社の役員及び従業員に交付した新株予約権等の区分別の状況

区分	名称	新株予約権等の数	株数	交付者数
当社従業員 (当社役員を除く)	第133回 新株予約権	26,518個	2,651,800株	9,915人
	第135回 新株予約権	835個	83,500株	43人
	第137回 新株予約権	6,229個	622,900株	56人
	第138回 新株予約権	48個	4,800株	2人
	第141回 新株予約権	32,953個	3,295,300株	9,708人
当社子会社の役員及び従業員 (当社の役員及び従業員を除く)	第133回 新株予約権	42,750個	4,275,000株	6,172人
	第134回 新株予約権	324個	32,400株	6人
	第135回 新株予約権	6,493個	649,300株	59人
	第136回 新株予約権	1,299個	129,900株	1人
	第138回 新株予約権	75,735個	7,573,500株	3,211人
	第139回 新株予約権	4,771個	477,100株	178人
	第141回 新株予約権	37,453個	3,745,300株	6,380人
	第142回 新株予約権	367個	36,700株	14人
	第143回 新株予約権	26,029個	2,602,900株	242人
	第144回 新株予約権	274個	27,400株	12人

4 会社役員に関する事項

1. 取締役及び監査役の氏名等

(2025年12月31日時点)

地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役会長兼社長	<small>み き たに ひろ し</small> 三木谷 浩史	会長兼社長最高執行役員 グループカンパニーディビジョングループプレジデント 合同会社クリムゾングループ代表社員、楽天ヴィッセル神戸株式会社代表取締役会長、一般社団法人新経済連盟代表理事、公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団理事長、株式会社楽天野球団代表取締役会長兼オーナー、楽天メディカル株式会社代表取締役会長、AST SpaceMobile, Inc. Director、楽天モバイル株式会社代表取締役会長、楽天シンフォニー株式会社代表取締役会長兼CEO、Rakuten Medical, Inc. Vice Chairman of the Board and CEO
代表取締役副社長	<small>ひゃくの けん たろう</small> 百野 研太郎	副社長執行役員 グループCOO&グループCCO コミュニケーションズ&エナジーカンパニープレジデント アド&メディアカンパニープレジデント インターナショナル&スポーツカンパニープレジデント J P 楽天ロジスティクス株式会社取締役
取締役副社長	<small>ひろ せ けん じ</small> 廣瀬 研二	副社長執行役員 グループCFO
取締役 社外 独立役員	<small>あん どう たかはる</small> 安藤 隆春	株式会社アミューズ社外取締役、株式会社ゼンショーホールディングス社外取締役、東武鉄道株式会社社外取締役、株式会社日清製粉グループ本社社外取締役（監査等委員）
取締役 社外 独立役員	<small>サラ・J・M・ウィットリー</small> Sarah J. M. Whitley	Foundation Scotland Trustee、 Edinburgh International Festival Endowment Fund Chair
取締役 社外 独立役員	<small>セダール・ニーリー</small> Tsedal Neeley	ハーバード大学経営大学院Naylor Fitzhugh Professor of Business Administration、 同大学院Faculty Chair of the Christensen for Teaching and Learning、 同大学院Senior Associate Dean and Chair of the MBA Program
取締役 社外 独立役員	<small>チャールズ・B・バクスター</small> Charles B. Baxter	—
取締役 社外 独立役員	<small>はぶか しげき</small> 羽深 成樹	—

地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
取締役 社外 独立役員	御立 尚資 みたち たかし	DMG森精機株式会社社外取締役、東京海上ホールディングス株式会社社外取締役、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン専務理事、住友商事株式会社社外取締役、京都大学経営管理大学院客員教授
監査役（常勤）	長沼 義人 ながぬま よしと	—
監査役（常勤） 社外 独立役員	中村 太 なかむら ほとし	—
監査役 社外 独立役員	片岡 麻紀 かたおか まき	株式会社芝浦電子社外監査役、五洋建設株式会社社外監査役
監査役 社外 独立役員	山口 勝之 やまぐち かつゆき	フリービット株式会社社外監査役、西村あさひ法律事務所・外国法共同事業パートナー弁護士、西村あさひニューヨーク事務所統括

- (注) 1. 取締役安藤隆春、Sarah J. M. Whitley、Tsedal Neeley、Charles B. Baxter、羽深成樹及び御立尚資の6氏は、社外取締役です。
2. 監査役中村太、片岡麻紀及び山口勝之の3氏は、社外監査役です。
3. 監査役片岡麻紀氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する専門的知見を有するものであります。
4. 取締役御立尚資氏は、京都大学経営管理大学院の客員教授であり、当社は同大学に対して同大学が開講する講座の受講費の支払を行っていますが、2025年度におけるその割合は、当社売上原価並びに販売費及び一般管理費の合計額の1%未満です。
5. 監査役山口勝之氏は、西村あさひ法律事務所・外国法共同事業パートナー弁護士であり、同所は当社に対して役務提供等の取引関係がありますが、2025年度におけるその割合は、当社売上原価並びに販売費及び一般管理費の合計額の1%未満です。
6. 当社は、取締役安藤隆春、Sarah J. M. Whitley、Tsedal Neeley、Charles B. Baxter、羽深成樹及び御立尚資並びに監査役中村太、片岡麻紀及び山口勝之の9氏を株式会社東京証券取引所の定める独立役員として指定し、同取引所に届け出ています。

2. 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役（業務執行取締役等を除きます。）及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できるよう、現行定款において、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を法令で定める額とする責任限定契約を締結することができる旨を定めており、現在当社の取締役（業務執行取締役等を除きます。）及び監査役といずれも当該責任限定契約を締結しています。

3. 補償契約の内容の概要

当社は、取締役三木谷浩史、百野研太郎、廣瀬研二、安藤隆春、Sarah J. M. Whitley、Tsedal Neeley、Charles B. Baxter、羽深成樹及び御立尚資並びに監査役長沼義人、中村太、片岡麻紀及び山口勝之の13氏との間で会社法第430条の2第1項に規定する補償契約を締結しており、同項第1号の費用及び第2号の損失を法令の定める範囲内において当社が補償することとしています。ただし、当該補償契約によって役員の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、役員が悪意又は重過失に起因して生じた損失については、補償の対象としないこととしています。

4. 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しています。当該保険契約の被保険者の範囲は、当社及び当社の子会社の取締役、監査役、執行役員及び従業員であり、被保険者が会社の役員等の地位に基づき行った行為（不作為を含みます。）に起因して損害賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や訴訟費用等が填補されることとなります。当該保険契約の保険料は全額当社が負担していますが、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、法令違反であることを認識して行った行為に起因して生じた当該損害は填補されない等の免責事由を設けています。

5. 取締役及び監査役の報酬等

(1) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の総額等

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数(名)
		基本報酬	賞与	ストック オプション	執行役員退任 時特別報酬	
取締役	2,048	336	123	293	1,297	12
(うち社外取締役)	(109)	(61)	(—)	(47)	—	(7)
監査役	72	72	—	—	—	4
(うち社外監査役)	(54)	(54)	(—)	(—)	—	(3)
計	2,120	408	123	293	1,297	16

(注) 1. 取締役の報酬等の総額については、2023年3月30日開催の第26回定時株主総会において決議された報酬限度額（年額1,900百万円、うち社外取締役分200百万円）以内としています。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は12名であり、うち7名が社外取締役です。なお、表内における報酬等の総額にはストックオプションの当事業年度に係る計上額が含まれており、下記3及び4に述べるとおり、ストックオプションの付与については上記報酬限度額とは別枠でご承認をいただいています。上記表内の報酬等の総額からストックオプションの計上額を除いた取締役の報酬額は、上述の報酬限度額の範囲内です。

2. 監査役の報酬等の総額については、2007年3月29日開催の第10回定時株主総会において決議された報酬限度額（年額120百万円）以内としています。当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は4名です。

3. 取締役（社外取締役を除く）に対するストックオプションの付与については、2025年3月28日開催の第28回定時株主総会において、上記1の報酬限度額とは別枠の報酬等として、在任時行使型ストックオプションとしての新株予約権（各事業年度15,000個を上限）及び退職時報酬型ストックオプションとしての新株予約権（各事業年度20,000個を上限）を取締役（社外取締役を除く）に付与することが決議されており、当該定時株主総会終結時点の取締役（社外取締役を除く）の員数は3名です。当事業年度において、取締役（社外取締役を除く）に対し、在任時行使型ストックオプションとしての新株予約権0個及び退職時報酬型ストックオプションとしての新株予約権2,943個を付与しています。各新株予約権の内容は下記のとおりです。

1. 在任時行使型ストックオプションとしての新株予約権

(1) 新株予約権の割当てを受ける者
当社取締役

(2) 新株予約権の目的たる株式の種類及び数

新株予約権の目的たる株式は当社普通株式とし、各事業年度において1,500,000株を上限とする。

ただし、当社が、株式分割（当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。）又は株式併合を行う場合、次の算式により新株予約権の目的たる株式の数を調整するものとする。なお、かかる調整は新株予約権のうち、当該株式分割又は株式併合の時点で権利行使又は消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数＝調整前株式数×分割・併合の比率

また、当社が合併、会社分割、株式交換又は株式移転を行う場合等、株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併、会社分割、株式交換又は株式移転の条件等を勘案の上、合理的な範囲で株式数を調整するものとする。

- (3) 発行する新株予約権の総数
各事業年度において、15,000個を上限とする。
なお、新株予約権1個当たりの目的たる株式の数は100株とする。ただし、(2)に定める株式数の調整を行った場合は、新株予約権1個当たりの目的たる株式の数についても同様の調整を行うものとする。
- (4) 新株予約権と引き換えに払い込む金銭
新株予約権と引き換えに金銭の払込みを要しないこととする。
なお、職務執行の対価として公正発行により付与される新株予約権であり、有利な条件による発行に該当しない。
- (5) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
新株予約権1個当たり1円とする。
- (6) 新株予約権の行使期間
新株予約権発行の日(以下「発行日」)の1年後の応当日から10年後の応当日までとする。ただし、権利行使期間の最終日が当社の休日に当たるときは、その前営業日を最終日とする。
- (7) 新株予約権の行使の条件等
- ①新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」)は、権利行使時においても、当社、当社子会社又は当社関連会社の取締役、執行役員、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、新株予約権者が退職時(退職時までには申込ができない正当な事由が認められる場合は、退職後直近の申込期日)までに、当社所定の手続きに従い新株予約権行使の申込を行った場合、又は諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ②新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ③新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。
 - ④新株予約権者は、以下の区分に従って、新株予約権の全部又は一部を行使することができる。
 - i) 発行日からその1年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができない。
 - ii) 発行日の1年後の応当日から発行日の2年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の15%について権利行使することができる(権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする)。
 - iii) 発行日の2年後の応当日から発行日の3年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の35%(ただし、発行日の2年後の応当日の前日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の35%までとする。)について権利行使することができる(権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする)。
 - iv) 発行日の3年後の応当日から発行日の4年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の65%(ただし、発行日の3年後の応当日の前日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の65%までとする。)について権利行使することができる(権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする)。
 - v) 発行日の4年後の応当日から発行日の10年後の応当日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができる。
 - ⑤新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等(日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。)についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。

- i) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法
- (8) 新株予約権の取得事由及び条件
 - ①当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる吸収分割契約若しくは新設分割計画、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画が株主総会で承認されたときは、当社は、当社取締役会が別途定める日に新株予約権を無償で取得することができる。
 - ②新株予約権者が権利行使をする前に(7)①に規定する条件に該当しなくなった場合、当社は、当社取締役会が別途定める日に当該新株予約権を無償で取得することができる。
- (9) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。
- (10) 新株予約権のその他の内容

新株予約権に関するその他の内容については、新株予約権の募集事項を決定する当社取締役会において定める。
- II. 退職時報酬型ストックオプションとしての新株予約権
 - (1) 新株予約権の割当てを受ける者

当社取締役で当社執行役員を兼務する者
 - (2) 新株予約権の目的たる株式の種類及び数

新株予約権の目的たる株式は当社普通株式とし、各事業年度において2,000,000株を上限とする。

ただし、当社が、株式分割（当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。）又は株式併合を行う場合、次の算式により新株予約権の目的たる株式の数を調整するものとする。なお、かかる調整は新株予約権のうち、当該株式分割又は株式併合の時点で権利行使又は消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併、会社分割、株式交換又は株式移転を行う場合等、株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併、会社分割、株式交換又は株式移転の条件等を勘案の上、合理的な範囲で株式数を調整するものとする。
 - (3) 発行する新株予約権の総数

各事業年度において、20,000個を上限とする。

なお、新株予約権1個当たりの目的たる株式の数は100株とする。ただし、(2)に定める株式数の調整を行った場合は、新株予約権1個当たりの目的たる株式の数についても同様の調整を行うものとする。
 - (4) 新株予約権と引き換えに払い込む金銭

新株予約権と引き換えに金銭の払込みを要しないこととする。

なお、職務執行の対価として公正発行により付与される新株予約権であり、有利な条件による発行に該当しない。
 - (5) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

新株予約権1個当たり1円とする。
 - (6) 新株予約権の行使期間

新株予約権発行の日（以下「発行日」）から40年後の応当日までとする。ただし、権利行使期間の最終日が当社の休日に当たるときは、その前営業日を最終日とする。
 - (7) 新株予約権の行使の条件等
 - ①新株予約権の割当てを受けた者（以下「新株予約権者」）は、権利行使時において、当社、当社子会社及び当社関連会社の取締役、執行役員、監査役及び従業員の地位のいずれもが終了した日の翌日から、10日以内に限り、新株予約権を行使できるものとする。
 - ②新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
 - ③新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。

④新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。

- i) 現金による受領
- ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
- iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
- iv) その他当社が定める方法

(8) 新株予約権の取得事由及び条件

①当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる吸収分割契約若しくは新設分割計画、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画が株主総会で承認されたときは、当社は、当社取締役会が別途定める日に新株予約権を無償で取得することができる。

②新株予約権者が権利行使をする前に（7）①に規定する条件に該当しなくなった場合、当社は、当社取締役会が別途定める日に当該新株予約権を無償で取得することができる。

(9) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。

(10) 新株予約権のその他の内容

新株予約権に関するその他の内容については、新株予約権の募集事項を決定する当社取締役会において定める。

4. 社外取締役に対するストックオプションの付与については、2022年3月30日開催の第25回定時株主総会において、上記1の報酬限度額とは別枠の報酬等として、在任時行使型ストックオプションとしての新株予約権（各事業年度1,000個を上限）を社外取締役に付与することが決議されており、当該定時株主総会終結時点の社外取締役の員数は5名です。当事業年度において、社外取締役に對し、在任時行使型ストックオプションとしての新株予約権571個を付与しています。当該新株予約権の内容は下記のとおりです。

在任時行使型ストックオプションとしての新株予約権

(1) 新株予約権の割当てを受ける者

当社社外取締役

(2) 新株予約権の目的たる株式の種類及び数

新株予約権の目的たる株式は当社普通株式とし、各事業年度において100,000株を上限とする。

ただし、当社が、株式分割（当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。）又は株式併合を行う場合、次の算式により新株予約権の目的たる株式の数を調整するものとする。なお、かかる調整は新株予約権のうち、当該株式分割又は株式併合の時点で権利行使又は消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数＝調整前株式数×分割・併合の比率

また、当社が合併、会社分割、株式交換又は株式移転を行う場合等、株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併、会社分割、株式交換又は株式移転の条件等を勘案の上、合理的な範囲で株式数を調整するものとする。

(3) 発行する新株予約権の総数

各事業年度において、1,000個を上限とする。

なお、新株予約権1個当たりの目的たる株式の数は100株とする。ただし、(2)に定める株式数の調整を行った場合は、新株予約権1個当たりの目的たる株式の数についても同様の調整を行うものとする。

(4) 新株予約権と引き換えに払い込む金銭

新株予約権と引き換えに金銭の払込みを要しないこととする。

(5) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

新株予約権1個当たり1円とする。

(6) 新株予約権の行使期間

新株予約権発行の日（以下「発行日」）の1年後の応当日から10年後の応当日までとする。ただし、権利行使期間の最終日が当社の休日に当たるときは、その前営業日を最終日とする。

(7) 新株予約権の行使の条件等

- ①新株予約権の割当てを受けた者（以下「新株予約権者」）は、権利行使時においても、当社、当社子会社又は当社関連会社の取締役、執行役員、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、新株予約権者が退職時（退職時までには申込ができない正当な事由が認められる場合は、退職後直近の申込期日）までに、当社所定の手続きに従い新株予約権行使の申込を行った場合、又は諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
- ②新株予約権の相続は認められないものとする。ただし、諸般の事情を考慮の上、取締役会が特例として認めた場合はこの限りではない。
- ③新株予約権の質入その他一切の処分は認められないものとする。
- ④新株予約権者は、以下の区分に従って、新株予約権の全部又は一部を行使することができる。
 - i) 発行日からその1年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができない。
 - ii) 発行日の1年後の応当日から発行日の2年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の15%について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iii) 発行日の2年後の応当日から発行日の3年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の35%（ただし、発行日の2年後の応当日の前日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の35%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - iv) 発行日の3年後の応当日から発行日の4年後の応当日の前日までは、割り当てられた新株予約権の65%（ただし、発行日の3年後の応当日の前日までに新株予約権の一部を行使していた場合には、当該行使した新株予約権を合算して、割り当てられた新株予約権の65%までとする。）について権利行使することができる（権利行使可能となる新株予約権の数に1未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする）。
 - v) 発行日の4年後の応当日から発行日の10年後の応当日までは、割り当てられた新株予約権の全てについて権利行使することができる。
- ⑤新株予約権者は、新株予約権又は株式に関連する法令で定められる、いかなる税金等（日本国内で定められているか否かを問わず、所得税等の税金、社会保障拠出金、年金、雇用保険料等を含むがこれに限らない。）についてもこれを納める責任を負い、当社、当社子会社又は当社関連会社が税金等の徴収義務を負う場合には、当該徴収義務を負う会社は、次の各号に掲げる方法により、新株予約権者から税金等を徴収することができるものとする。
 - i) 現金による受領
 - ii) 新株予約権者が保有する株式による充当
 - iii) 新株予約権者の給与、賞与等からの控除
 - iv) その他当社が定める方法

(8) 新株予約権の取得事由及び条件

- ①当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる吸収分割契約若しくは新設分割計画、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画が株主総会で承認されたときには、当社は、当社取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができる。
- ②新株予約権者が権利行使をする前に（7）①に規定する条件に該当しなくなった場合、当社は、当社取締役会が別途定める日に、当該新株予約権を無償で取得することができる。

(9) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。

(10) 新株予約権のその他の内容

新株予約権に関するその他の内容については、新株予約権の募集事項を決定する当社取締役会において定める。

5. ストックオプションについては、ストックオプションとして付与した新株予約権に係る当事業年度中の費用計上額を記載しています。当該費用計上額には、当事業年度を含む以下の取締役会決議に基づき付与された新株予約権に関するものが含ま

れます。

- ・2022年4月14日開催の取締役会（付与対象は取締役（社外取締役を除く）/社外取締役）
 - ・2023年4月13日開催の取締役会（付与対象は社外取締役）
 - ・2024年4月12日開催の取締役会（付与対象は社外取締役）
 - ・2025年4月15日開催の取締役会（付与対象は取締役（社外取締役を除く）/社外取締役）
6. 賞与は業績連動報酬等に、また、ストックオプションは非金銭報酬等に該当します。
7. 当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等については、取締役会は、代表取締役会長兼社長三木谷浩史氏に取締役の個人別の報酬額の具体的内容の決定を委任し、同氏が、下記（2）で述べる報酬方針に従い、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で決定しています。当社取締役の報酬に係る方針、決定プロセスについては、当社は2025年12月に独立社外取締役をメンバーを含む報酬委員会を設置しており、その後決定したものについては報酬委員会での審議を経ています。報酬委員会設置前に決定したものについては、取締役会で独立社外取締役に対して説明を行って適切な助言を得ています。また、同氏に決定権限を委任している理由は、同氏は当社の創業当時から当社の事業を熟知しており、当社全体の業績を俯瞰しつつ各取締役の担当事業の評価を行うのに最も適切であると判断したためです。

(2) 役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針（報酬方針）

1) 基本方針

当社の役員報酬は、以下の基本方針に則り決定しています。

業務執行取締役に関しては、世界各国から優秀な人材を確保・維持できるよう、グローバルに競争力のある報酬水準とし、中長期的な企業価値の向上と経営目標の達成による持続的な成長を促進するため、ストックオプションの占める割合が高い報酬体系とします。非業務執行取締役に関しては、世界各国から当社の経営を支える優秀な人材を確保・維持できるよう、グローバルに競争力のある報酬水準とします。

2) 報酬水準

外部専門機関による客観的な市場報酬調査データ等を参考に、当社の経営環境や経営戦略・人材戦略を踏まえて適切な報酬水準を設定しています。具体的には、グローバルで共通の報酬制度にし、国内外の同業種・同規模企業を参考に、同等ポジションの報酬水準を取得しています。その上で、当社において実際に期待する役割等の個別事情を勘案して各役員の報酬水準を決定しています。なお、当社の役員だけでなく、グループの重要なポジションに関しても同様の方法で報酬水準を決定することとしています。

3) 報酬構成

当社の業務執行取締役の報酬については、

- a) 基本報酬（固定・毎月支給）
- b) 業績連動報酬（短期インセンティブ報酬としての業績に連動する賞与（毎年1回支給））
- c) 非金銭報酬（中長期インセンティブ報酬としての株式報酬型ストックオプション（毎年1回支給））
- d) 執行役員退任時特別報酬（執行役員を兼任する取締役（社外取締役を除く）のみを対象とし、執行役員退任時支給）

にて構成しています。

また、基本報酬、業績連動報酬及び非金銭報酬の割合、執行役員退任時特別報酬は、各業務執行取締役の役位・役割を踏まえて決定しています。

業務執行から独立した立場である非業務執行取締役の報酬は、

a) 基本報酬（固定・毎月支給）

b) 非金銭報酬（固定・中長期インセンティブ報酬としての株式報酬型ストックオプション（毎年1回支給））

にて構成しています。

また、基本報酬及び非金銭報酬の割合は、非業務執行取締役の役割を踏まえて決定しています。

4) 業績連動報酬及び非金銭報酬の指標及び算定方法

業務執行取締役の業績連動報酬に係る指標には、「楽天エコシステム」の構築・拡大への意識の向上のため、各事業年度の連結営業損益(注)等のKPIを複数選定し、成長性や収益性に連動できるよう設定しています。業績連動報酬の額の決定にあたっては、各業務執行取締役の管掌組織ごとに、指標に対する目標を個別に設定し、それぞれの実績を勘案して個人評価を決定しています。指標にはカーボンニュートラル目標等も含まれます。業務執行取締役の非金銭報酬は、上述した指標を参考にして付与しています。個人評価と会社全体の業績を総合的に勘案し、業績連動報酬及び非金銭報酬の額を決定しています。

非業務執行取締役の非金銭報酬については、各非業務執行取締役の報酬の総額のうち、各非業務執行取締役の役割を踏まえて決定した割合を非金銭報酬とすることとしているため、参考に行っている指標はありません。

(注) 当事業年度の連結営業損益は、「1. 事業の経過及びその成果 当期の経営成績」をご参照ください。

5) 報酬決定プロセス

当社取締役の報酬方針は、独立社外取締役を含む報酬委員会での審議を経た上で、取締役会にて決議しています。その他の決定プロセスについても、独立社外取締役を含む報酬委員会での審議を経ています。社外取締役についても、独立社外取締役を含む報酬委員会での審議を経た上で、定額の報酬を決定しています。

また、取締役の個別報酬額は、取締役会から一任を受けている代表取締役会長兼社長三木谷浩史氏が、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で、報酬方針に従い決定しています。同氏は、当社全体の業績を俯瞰しつつ各取締役の担当事業の評価を行った上で、必要に応じて社外取締役の助言を得て個別の報酬額を決定しているため、取締役会は、個別の報酬等の内容が報酬方針に沿うものであると判断しています。

執行役員退任時特別報酬については取締役会にて決議された内容に基づく社内規程に従い算出され、同規程により支給が認められた当社の執行役員を兼任する取締役（社外取締役を除く）にのみ支給されます。

6. 社外役員に関する事項

(1) 重要な兼職先と当社との関係

重要な兼職先と当社との関係につきましては、「1. 取締役及び監査役の氏名等」の注記をご参照ください。

(2) 当事業年度における主な活動状況

区分	氏名	取締役会への出席状況	監査役会への出席状況	主な活動状況及び果たすことが期待される役割に関して行った職務の概要
社外 取締役	あん どう たか はる 安藤 隆春	11回/ 11回 (出席率100%)	—	主に警察庁長官等の警察組織の要職を歴任した豊富な経験を有しており、特にコーポレート・ガバナンス、コンプライアンス及びリスク管理に関する幅広い見識に基づき、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っています。
	サラ・J. M. ・ウィットリー Sarah J. M. Whitley	11回/ 11回 (出席率100%)	—	主に海外の独立系アセットマネジメントにおける投資家としての経験とコーポレートファイナンスに関する豊富な知識に基づき、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っています。
	セダール・ニーリー Tsedal Neeley	11回/ 11回 (出席率100%)	—	主にハーバード大学経営大学院教授や米国上場企業の社外取締役としての経験、デジタルトランスフォーメーション及び文化変容に関する研究や、世界各国の企業への助言を通じて得た幅広い見識に基づき、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っています。
	チャールズ・B・バクスター Charles B. Baxter	11回/ 11回 (出席率100%)	—	主にインターネット業界及び企業経営に関する幅広い知見と豊富な経験に基づき、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っています。
	はぶか しげき 羽深 成樹	11回/ 11回 (出席率100%)	—	主に内閣府審議官をはじめとした行政機関の要職を歴任した豊富な経験と金融行政及び渉外に関する幅広い見識に基づき、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っています。
	みたち たかし 御立 尚資	11回/ 11回 (出席率100%)	—	主に経営コンサルタントとしての専門知識と豊富な経験に基づき、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っています。

区分	氏名	取締役会への出席状況	監査役会への出席状況	主な活動状況
	なかむら 中村 ひとし 太	11回/ 11回 (出席率100%)	12回/ 12回 (出席率100%)	主にグローバルに事業を展開する企業での実務経験及び上場会社の常勤監査役を歴任した幅広い知見と豊富な経験から、適宜質問、意見表明等の発言を行っています。
社外 監査役	かたおか 片岡 まき 麻紀	11回/ 11回 (出席率100%)	12回/ 12回 (出席率100%)	主に公認会計士としての幅広い知見と豊富な経験、また財務、会計及び内部統制に関する専門家としての見地から、適宜質問、意見表明等の発言を行っています。
	やまぐち 山口 かつゆき 勝之	11回/ 11回 (出席率100%)	12回/ 12回 (出席率100%)	主に弁護士としての幅広い知見と豊富な経験、また企業法務の専門家としての見地から、適宜質問、意見表明等の発言を行っています。

5 会計監査人の状況

1. 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

2. 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

- (1) 公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額
344百万円
- (2) 当社及び子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額
1,075百万円

- (注) 1. 当社とEY新日本有限責任監査法人との間の監査契約において、会社法上の会計監査人監査に対する報酬等の額と金融商品取引法上の監査に対する報酬等の額を明確に区分しておらず、かつ、実質的にも区分不能であるため、上記(1)の金額については、これらの合計額をそのまま記載しています。
2. 監査役会は、会計監査人からの説明を受けた当事業年度の会計監査計画の監査日数や人員配置等の内容、前事業年度の監査実績の検証と評価、会計監査人の監査の遂行状況の相当性、報酬の前提となる見積りの算出根拠を精査した結果、会計監査人の報酬等の額について同意しています。
3. 当社の重要な子会社のうち在外子会社については、当社の会計監査人以外の公認会計士又は監査法人（外国におけるこれらの資格に相当する資格を有する者を含む。）の監査（会社法又は金融商品取引法（これらの法律に相当する外国法令を含む。）の規定によるものに限る。）を受けています。

3. 非監査業務の内容

会計監査人に対し、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務として、当社においては、ESGデータ保証業務等を、連結子会社においては、財務健全性に対するコンサルティング業務等を委託し、その対価を支払っています。

4. 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、当該会計監査人の解任を検討し、解任が妥当と認められる場合には監査役全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任します。

また、監査役会は、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合、その他必要と判断される場合には、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定します。

6 会社の体制及び方針

1. 業務の適正を確保するための体制

当社は、取締役会において、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制につき、次のとおり決議しています。

(1) 取締役及び使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

楽天グループ株式会社は、「楽天グループ企業倫理憲章」を定め、楽天グループ（楽天グループ株式会社及びその子会社をいいます。）全体として、法令を遵守することはもとより、高い倫理観をもって事業活動に取り組みます。

楽天グループの取締役及び使用人の職務執行については、グループCCO及び社内カンパニー制に基づくCompany Compliance Officerによりグループ横断的なコンプライアンスに対する取組を進め、グループリスク・コンプライアンス委員会及び取締役会へその取組状況を報告し、適正な職務執行を徹底するとともに、代表取締役会長兼社長直轄の独立組織である内部監査部及び子会社の内部監査部門による内部監査を実施します。

また、社外取締役及び社外監査役を含む監査役による取締役の職務執行に対する監督及び監査を徹底し、これらに弁護士も起用することにより、専門的・客観的な観点から法令・定款への適合性の検証を行います。

更に、楽天グループの役員・使用人に対して楽天グループの一員として必要な知識及び倫理観の醸成を図るべく、コンプライアンス教育を実施するとともに、楽天グループの役員、使用人、退職者が法令違反その他のコンプライアンスに関する相談・通報を行うことのできる窓口を設置し、相談者、通報者の不利益な取扱いを禁止する内部通報システムを適切に整備します。また、広く社外からの情報を入手する体制についても整備します。

(2) 取締役の職務執行に関する情報の保存・管理体制

楽天グループ株式会社における取締役の職務執行に関する文書、電磁的記録等の各種情報は、楽天グループ規程等に則り、適法・適切に保存・管理するものとし、取締役及び監査役は当該情報を常時閲覧することができるものとします。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

楽天グループ株式会社では、リスク管理に関するグループ規程等に従い、リスクの適切な把握、重要性に応じた対応策の策定と実行、その結果をモニタリングする体制（いわゆるPDCAサイクル）を確立し、各組織の業務遂行において発生するリスクに対し必要な措置を行います。

グループCFO、ファンクションCISO、グループCOO及びグループCCOは、財務、情報セキュリティ、コンプライアンス等の担当領域のリスクに関して、各組織で実施したリスク評価結果及び対応状況をモニ

タリಂಗし、更にリスク管理上の重要事項及びグループ横断的なリスクに対して適切に判断・対処することでグループ全体のリスク低減及び未然防止を図ります。その対応状況をグループリスク・コンプライアンス委員会にて協議し、本委員会の主な協議事項は重要会議体を通じて経営陣に報告します。特に重要なリスクは、その対応状況を楽天グループ株式会社取締役会等にて経営陣に報告します。

重要リスクの一つである情報及びパーソナルデータの管理については、グループ情報セキュリティ&プライバシー委員会を開催し、主要な施策や期間内に発生したインシデント等について報告及び判断をする体制を整えています。また、楽天グループ株式会社の事業投資に伴うリスクは、案件につき、投融資委員会の審議、更に一定額以上の案件につき楽天グループ株式会社取締役会の承認決議を要件とすることにより、リスク管理を適切に行います。子会社の事業投資に伴うリスクについても、案件の内容や規模、当該子会社の上場／非上場の別等を考慮の上あらかじめ定めた基準に基づき、投融資委員会・楽天グループ株式会社取締役会の審議事項としたり、楽天グループ株式会社への報告を求めたりすることで、リスク管理を適切に行います。

更に、内部監査部は、独立した立場で、当社及びグループ会社の法令及び関連規程の遵守状況等の監査を行い、定期的に楽天グループ株式会社取締役会に報告します。

(4) 取締役の職務執行が効率的に行われるための体制

楽天グループの取締役の職務執行に関しては、楽天グループ規程等に基づき適切かつ効率的な意思決定体制を構築します。また、各種社内手続の電子化を推進することにより、意思決定の明確化・迅速化を図ります。

意思決定に基づく業務の執行にあたっては、取締役会において選任された執行役員がその管掌業務の執行を行うことにより、機動的な職務執行を促進します。

(5) 財務報告の適正な実施のための体制

経営情報、財務情報等の開示事項等に係る財務報告に関しては、業務の適正を確保するための体制の整備を行い、一般に公正妥当と認められた会計処理及び金融商品取引法等に基づいた適時開示並びに有効性評価を実施します。

(6) 楽天グループ株式会社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

楽天グループ株式会社は、一体的なグループ経営を実現するため、理念、グループガバナンス、会社経営、リスクマネジメント、コンプライアンス等に関する楽天グループ規程等を定めています。子会社の重要な業務執行については、当該子会社の上場／非上場の別等を考慮の上、「楽天グループ職務権限表」、「楽天グループガイドライン」及び当該子会社との合意に基づき、楽天グループ株式会社による決裁及び楽天グループ株式会社への報告制度を構築する等、楽天グループ全体として、子会社の独立性を確保しつつ、必要な体制を構築しこれを遵守します。

また、代表取締役会長兼社長直轄の独立組織である内部監査部において、子会社の内部監査部門との連携

③楽天グループ株式会社は、楽天グループ規程等において、楽天グループにおける内部通報制度を定め、国内・国外のグループ会社で運用しています。当社の内部通報窓口への通報状況は、取締役会及び当社監査役に報告しています。

(2) リスク管理体制について

①楽天グループは、リスク管理に関するグループ規程等を整備し、リスクの適切な把握、対応策の策定と実行、その結果のモニタリングサイクル（いわゆるPDCAサイクル）を確立しリスク管理体制を整備しています。特に重要なリスクについては、その対応状況を取締役会等にて経営陣に報告し、協議しています。また、グループ横断的なリスクについては、その対策状況を年4回開催されるグループリスク・コンプライアンス委員会にて報告し議論しています。更に重要リスクの一つである情報管理については、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の要求事項に準拠した体制を整えています。今後も、現在の活動を継続しつつ、経営判断や事業運営に貢献するリスク管理体制の高度化を推進していきます。

②楽天グループにおける新規投資案件の審議等のため、外部有識者を含む委員で構成される楽天グループ株式会社投融資委員会を原則月次で開催するとともに、一定額を超える重要案件については楽天グループ株式会社取締役会での決議を行っています。

③楽天グループにおける重要案件については、事前に取締役・監査役と概要及び主要論点を共有・審議した上で上程することで、取締役会における審議の質の向上と意思決定の適正化を図っています。

(3) 財務報告の体制について

①楽天グループ株式会社においては、会計監査人が会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を実施し、主要な子会社においても会計監査を行っています。会計監査人とは定期的に意見交換、情報共有を行っているほか、必要に応じて内部監査結果等を共有しています。また、国際会計基準（IFRS会計基準）に準拠したグループ会計方針を作成し、それに基づいて適切な会計処理及び連結財務諸表等の作成を行っています。会社情報の適時開示については、株式会社東京証券取引所が定める適時開示規則及び楽天グループ規程等に基づき、迅速かつ適切に行っています。

②財務報告の信頼性を向上させるため、「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」（企業会計審議会）に準拠し、年度評価計画、進捗状況、楽天グループにおける財務報告に係る内部統制の有効性の評価結果等を取締役会及び担当役員等に報告しています。

(4) 監査役の監査の実効性を確保する体制について

楽天グループ株式会社は、監査役の職務を補助する組織として監査役室を設置する等、監査役への報告及び情報提供体制を整備し、監査役の監査が実効的に行われることを確保しています。

3. 剰余金の配当等の決定に関する方針

現下の当社における財務状況等を踏まえ、財務健全性を確保するという財務方針に基づき、有利子負債のみに頼らない様々な資金調達を積極的に進めることで、成長事業への投資原資を確保しつつ、有利子負債残高の削減にも取り組んでまいりました。当期につきましても、配当による資金流出を抑制することが、当社の財務基盤の安定、ひいては株主価値の向上に繋がると考え、2026年2月12日開催の取締役会において、当期の配当を行わないことを決定しました。

配当方針につきましては、中長期的な成長に向けた投資や、財務基盤の安定化のための内部留保の充実を勘案しつつ、安定的・継続的に配当を行うことを基本としており、今後もこの方針に変更はありません。2026年12月期以降の配当再開時期は、現時点では未定ですが、連結業績黒字化及び有利子負債の削減を進めていく中で、適時適切に復配を行えるよう努めてまいります。

(参考) 1株当たり配当金の推移

(単位：円)

	第26期 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	第27期 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	第28期 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	第29期 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
1株当たり配当金	4.50	0.00	0.00	0.00

(注) 本事業報告に記載の金額については、特段の注記のない限り、表示単位の端数を四捨五入して表示しています。

連結財政状態計算書 (2025年12月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金及び現金同等物	5,837,566	仕入債務	553,582
売上債権	443,557	銀行事業の預金	12,741,293
証券事業の金融資産	6,035,176	証券事業の金融負債	6,028,009
カード事業の貸付金	3,662,676	デリバティブ負債	77,087
銀行事業の有価証券	2,567,328	社債及び借入金	1,598,052
銀行事業の貸付金	5,440,459	証券事業の借入金	269,228
保険事業の有価証券	202,745	カード事業の社債及び借入金	810,559
デリバティブ資産	276,706	銀行事業の借入金	2,891,783
有価証券	491,145	その他の金融負債	1,551,575
その他の金融資産	1,115,534	未払法人所得税等	43,687
持分法で会計処理されている投資	27,104	引当金	390,956
有形固定資産	1,068,509	保険契約負債	136,350
無形資産	1,079,201	退職給付に係る負債	48,958
繰延税金資産	71,912	繰延税金負債	79,765
その他の資産	484,782	その他の負債	229,284
資産合計	28,804,400	負債合計	27,450,168
		資本の部	
		親会社の所有者に帰属する持分	992,402
		資本金	459,508
		資本剰余金	658,458
		その他の資本性金融商品	479,661
		利益剰余金	△1,036,141
		自己株式	△5
		その他の資本の構成要素	430,921
		非支配持分	361,830
		資本合計	1,354,232
		負債及び資本合計	28,804,400

(注) 記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。

連結損益計算書 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：百万円)

科目	金額
継続事業	
売上収益	2,496,575
営業費用	2,399,167
その他の収益	19,005
その他の費用	102,031
営業利益	14,382
金融収益	63,357
金融費用	99,403
持分法による投資損失 (△)	△7,886
税引前当期損失 (△)	△29,550
法人所得税費用	93,663
当期損失 (△)	△123,213
当期損失 (△) の帰属	
親会社の所有者	△177,886
非支配持分	54,673
当期損失 (△)	△123,213

(注) 記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。

連結持分変動計算書 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分			
	資本金	資本剰余金	その他の資本性 金融商品	利益剰余金
2025年1月1日現在	452,647	649,389	398,717	△824,700
当期包括利益				
当期損失 (△)	—	—	—	△177,886
税引後その他の包括利益	—	—	—	—
当期包括利益合計	—	—	—	△177,886
所有者との取引額等				
その他の資本性金融商品の発行	—	—	81,444	—
その他の資本性金融商品の所有者に対する分配	—	—	—	△28,640
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	△5,221
自己株式の取得	—	—	—	—
新株予約権の行使	6,861	△6,861	—	—
株式報酬費用	—	15,953	—	281
非支配株主との資本取引	—	△5	—	—
その他	—	△18	△500	25
所有者との取引額等合計	6,861	9,069	80,944	△33,555
2025年12月31日現在	459,508	658,458	479,661	△1,036,141

	親会社の所有者に帰属する持分			非支配持分	資本合計
	自己株式	その他の資本の 構成要素	親会社の所有者に 帰属する持分合計		
2025年1月1日現在	△4	251,819	927,868	310,646	1,238,514
当期包括利益					
当期損失 (△)	—	—	△177,886	54,673	△123,213
税引後その他の包括利益	—	173,889	173,889	△2,716	171,173
当期包括利益合計	—	173,889	△3,997	51,957	47,960
所有者との取引額等					
その他の資本性金融商品の発行	—	—	81,444	—	81,444
その他の資本性金融商品の所有者に対する分配	—	—	△28,640	—	△28,640
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	5,221	—	—	—
自己株式の取得	△1	—	△1	—	△1
新株予約権の行使	—	—	0	—	0
株式報酬費用	—	—	16,234	—	16,234
非支配株主との資本取引	—	△8	△13	△773	△786
その他	—	—	△493	0	△493
所有者との取引額等合計	△1	5,213	68,531	△773	67,758
2025年12月31日現在	△5	430,921	992,402	361,830	1,354,232

(注) 記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。

連結注記表

2025年12月31日

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結計算書類の作成基準

当社グループの連結計算書類は、会社計算規則第120条第1項の規定により、国際会計基準（以下「IFRS会計基準」）に準拠して作成しています。なお、連結計算書類は同項後段の規定により、IFRS会計基準で求められる開示科目の一部を省略しています。

(2) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 188社

主要な連結子会社の名称

楽天モバイル株式会社、楽天カード株式会社、楽天銀行株式会社、楽天証券株式会社、Ebates Inc.、
楽天ペイメント株式会社、Rakuten Kobo Inc.、Rakuten Symphony Singapore Pte. Ltd.、楽天損害保険株式会社、
楽天生命保険株式会社、Viber Media S.a.r.l.、楽天国際商業銀行股份有限公司

(連結の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間に、当社の連結子会社であった楽天エナジー株式会社は、同じく当社の連結子会社である楽天モバイル株式会社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しています。

(3) 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の数及び主要な関連会社の名称

持分法適用関連会社の数 46社

主要な関連会社の名称

Rakuten Medical, Inc.

(4) 会計方針に関する事項

① 金融商品の評価基準及び評価方法

1) 非デリバティブ金融資産

当社グループは、売上債権を、これらの発生日に当初認識しています。売上債権以外の金融資産は全て、当社グループが当該金融商品の契約の当事者になる取引日に当初認識しています。

金融資産の分類及び測定モデルの概要は、以下のとおりです。

償却原価で測定する金融資産

金融資産は、以下の要件を満たす場合に償却原価で事後測定する金融資産に分類しています。

- ・当社グループの事業モデルにおいて、当該金融資産の契約上のキャッシュ・フローを回収することを目的として保有している場合
- ・契約条件により、特定の日に元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるキャッシュ・フローを生じさせる場合

償却原価で測定する金融資産は、公正価値に、取得に直接起因する取引費用を加算した金額で当初認識しています。当初認識後、償却原価で測定する金融資産の帳簿価額については、実効金利法に基づき事後測定しています。

その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品

金融資産は、以下の要件をともに満たす場合にその他の包括利益を通じて公正価値で事後測定する負債性金融商品に分類しています。

- ・当社グループの事業モデルにおいて、当該金融資産の契約上のキャッシュ・フローの回収と売却の両方を目的として保有している場合

・契約条件により、特定の日に元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるキャッシュ・フローを生じさせる場合
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品は、公正価値に、取得に直接起因する取引費用を加算した金額で当初認識しています。また、当初認識後は公正価値で測定し、その事後的な変動をその他の包括利益として認識しています。その他の包括利益として認識した金額は、認識を中止した場合、その累計額を損益に振替えています。

純損益を通じて公正価値で測定する金融商品

資本性金融商品に対する投資を除く金融資産で上記の償却原価で測定する区分及びその他の包括利益を通じて公正価値で測定する区分の要件を満たさないものは、公正価値で測定し、その変動を純損益で認識しています。当該資産には、売買目的で保有する金融資産が含まれています。

資本性金融商品に対する投資は公正価値で測定し、その変動を純損益で認識しています。ただし、当社グループが当初認識時に公正価値の変動をその他の包括利益に計上するという選択（取消不能）を行う場合は、この限りではありません。

純損益を通じて公正価値で測定する金融資産は、当初認識時に公正価値で認識し、取引費用は発生時に純損益で認識しています。

その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品

当社グループは当初認識時に、資本性金融商品に対する投資における公正価値の変動をその他の包括利益で認識するという選択（取消不能）を行う場合があります。当該選択は、売買目的以外で保有する資本性金融商品に対する投資に対してのみ認められています。

その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品は、公正価値に、取得に直接起因する取引費用を加算した金額で当初認識しています。当初認識後は公正価値で測定し、公正価値の変動は「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品の変動」として、その他の資本の構成要素に含めています。

なお、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品からの配当金については、「売上収益」又は「金融収益」として純損益で認識しています。

償却原価で測定する金融資産及びその他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品の減損

当社グループは、償却原価で測定する金融資産及びその他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品については、期末日時点で金融商品にかかる信用リスクが当初認識以降に著しく増大していない場合には、期末日後12ヶ月以内に生じうる債務不履行から生じる予想信用損失（12ヶ月の予想信用損失）により貸倒引当金の額を算定しています。この場合、過去の貸倒実績率、その他合理的に利用可能な将来予測情報等をもとに将来12ヶ月の予想信用損失を見積って当該金融商品にかかる貸倒引当金の額を算定しています。一方で、期末日時点で金融商品にかかる信用リスクが当初認識以降に著しく増大している場合には、当該金融商品の予想存続期間にわたる全ての生じうる債務不履行から生じる予想信用損失（全期間の予想信用損失）により貸倒引当金を算定しています。この場合、過去の貸倒実績率、将来の回収可能価額、その他合理的に利用可能な将来予測情報等をもとに当該金融商品の回収にかかる全期間の予想信用損失を見積って当該金融商品にかかる貸倒引当金の額を算定しています。

ただし、重大な金融要素を含まない売上債権等の営業債権及び契約資産（以下「営業債権等」）については、上記に関わらず、常に全期間の予想信用損失により貸倒引当金の額を算定しています。原則として、取引先の属性に応じて営業債権等をグルーピングした上で、過去の貸倒実績率、その他合理的に利用可能な将来予測情報等を考慮して集合的に予想信用損失を測定しています。一定の日数が経過した延滞した金融資産のうち債務者の重大な財政的困難等により金融資産の回収可能性が特に懸念されるものと判断された場合には、信用減損が発生しているものと判定しています。

当社グループは、信用減損した金融資産について、将来の回収が見込めない場合は直接償却を行っています。

直接償却を行った場合でも履行に向けて回収活動を継続し、回収が行われた場合は純損益に回収額を計上します。

金融資産の認識の中止

当社グループは、金融資産から生じるキャッシュ・フローに対する契約上の権利が失効した場合、又は当該金融資産の所有にかかるリスク及び便益を実質的に全て移転する取引において、金融資産から生じるキャッシュ・フローを受け取る契約上の権利を移転する場合に、当該金融資産の認識を中止しています。移転した金融資産に関して当社グループが創出した、又は当社グループが引き続き保有する権利については、別個の資産・負債として認識しています。

2) 非デリバティブ金融負債

当社グループは、当社グループが発行した負債証券を、その発行日に当初認識しています。負債証券以外の金融負債は全て、当社グループが当該金融商品の契約の当事者になる取引日に当初認識しています。

当社グループは、非デリバティブ金融負債として、仕入債務、銀行事業の預金、証券事業の金融負債、社債及び借入金、証券事業の借入金、カード事業の社債及び借入金、銀行事業の借入金並びにその他の金融負債を有しており、公正価値で当初認識し、実効金利法に基づき償却原価で事後測定しています。

当社グループは、金融負債が消滅した場合、つまり、契約上の義務が免責、取消又は失効となった場合に、金融負債の認識を中止しています。

3) デリバティブ

ヘッジ会計の要件を満たすデリバティブ

当社グループは、公正価値変動リスク、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジするため、デリバティブを利用して、これらに用いられるデリバティブは、主に金利スワップ、先渡、オプション、為替予約及び通貨スワップです。

当初のヘッジ指定時点において、当社グループは、ヘッジ手段とヘッジ対象及びその関係、リスク管理目的、ヘッジ取引を実行する際の戦略、ヘッジされるリスクの性質、ヘッジ関係の有効性の評価方法、並びにヘッジ非有効部分の測定方法を文書化しています。

当社グループは、ヘッジ手段がヘッジ対象期間において関連するヘッジ対象の公正価値又はキャッシュ・フローの変動に対して高度に相殺効果を有すると予想することが可能であるか否かについて、ヘッジ指定時点で評価するとともに、その後も毎期継続的に評価しています。

ヘッジ手段であるデリバティブは公正価値で当初認識し、関連する取引費用は発生時に純損益として認識しています。当初認識後は、デリバティブは公正価値で測定し、その変動は以下のように会計処理しています。

・公正価値ヘッジ

ヘッジ手段であるデリバティブを公正価値で事後測定することによる利得又は損失は、純損益で認識しています。ヘッジされたリスクに起因するヘッジ対象に係る利得又は損失は、純損益で認識するとともにヘッジ対象の帳簿価額を修正しています。ただし、ヘッジ対象が、公正価値の変動をその他の包括利益で測定する資本性金融商品である場合は、ヘッジ手段であるデリバティブを公正価値で事後測定することによる利得又は損失は、その他の包括利益で認識しています。公正価値ヘッジがヘッジ会計の要件を満たさない場合、又はヘッジ手段が失効、売却、終了若しくは行使された場合はヘッジ会計の適用を将来に向けて中止しています。

・キャッシュ・フロー・ヘッジ

デリバティブを、認識済み資産・負債に関連する特定のリスクに起因し、かつ、純損益に影響する可能性があるキャッシュ・フローの変動をヘッジするためのヘッジ手段として指定した場合、デリバティブの公正価値の変動のうちヘッジ有効部分は、「キャッシュ・フロー・ヘッジ」として、その他の資本の構成要素に含めています。キャッシュ・フロー・ヘッジの残高は、ヘッジ対象のキャッシュ・フローが純損益に影響を及ぼす期間と同一期間に、連結包括利益計算書においてその他の包括利益から控除し、ヘッジ対象と同一の項目で純損益に振替えています。デリバティブの公正価値の変動のうちヘッジ非有効部分は、即時に純損益で認識しています。しかしながら、ヘッジ対象が非金融資産又は非金融負債の認識を生じさせるものである場合には、その他の包括利益として認識されている金額は、非金融資産又は非金融負債の当初の帳簿価額の修正として処理しています。

なお、キャッシュ・フロー・ヘッジがヘッジ会計の要件を満たさない場合、又はヘッジ手段が失効、売却、終了若しくは行使された場合はヘッジ会計の適用を将来に向けて中止し、その他の包括利益として認識した金額をその他の資本の構成要素から純損益に振替えています。

ヘッジ会計の要件を満たさないデリバティブ

当社グループには、ヘッジ目的で保有しているデリバティブのうちヘッジ会計の要件を満たしていないものがあります。また当社グループは、デリバティブをヘッジ目的以外のトレーディング目的でも保有しています。これらのデリバティブの公正価値の変動は全て即時に純損益で認識しています。

組込デリバティブ

金融商品及びその他の契約の中に、デリバティブ及び非デリバティブ金融商品の双方が結合されていることがあります。そのような契約に含まれるデリバティブの部分は、組込デリバティブと呼ばれ、非デリバティブの部分が主契約となります。主契約が金融負債である場合、組込デリバティブの経済的特徴とリスクが主契約と密接に関連せず、組込デリバティブと同一条件の独立の金融商品がデリバティブの定義に該当し、複合契約自体が純損益を通じて公正価値で測定する金融負債として分類されない場合には、組込デリバティブは主契約から分離され、デリバティブとして会計処理しています。主契約の金融負債は、非デリバティブ金融負債に適用される会計方針により会計処理しています。

4) 金融資産及び金融負債の表示

金融資産及び金融負債は、当社グループがそれらの残高を相殺する法的権利を有し、純額で決済するか、又は資産の実現と負債の決済を同時に行う意図を有する場合にのみ、連結財政状態計算書上で相殺し、純額で表示しています。

5) 金融保証契約

金融保証契約とは、負債性金融商品の当初又は変更後の条件に従った期日が到来しても、特定の債務者が支払を行わないために保証契約保有者に発生する損失を契約発行者がその保有者に対し補填することを要求する契約です。

これら金融保証契約は当初契約時点において、公正価値により測定しています。当初認識後は、公正価値で測定されるものを除き、貸倒引当金の額と当初認識額から認識した収益の累計額を控除した額のうち、いずれか高い方で測定しています。

② 有形固定資産及び無形資産の評価基準、評価方法及び減価償却方法

1) 有形固定資産

有形固定資産は、当初認識後の測定モデルとして原価モデルを採用し、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した価額で計上しています。

取得原価には資産の取得に直接関連する費用、資産の解体及び除去費用、並びに原状回復費用の当初見積額が含まれています。また、意図した使用又は販売が可能となるまでに相当の期間を必要とするような資産に関して、その資産の取得、建設又は製造に直接起因する借入コストは、当該資産取得の一部として資産化しています。なお、その他の借入コストは全て、発生した期に費用として認識しています。

土地及び建設仮勘定以外の減価償却費は、有形固定資産の各構成要素の見積耐用年数にわたり、主に定額法に基づいています。

主要な有形固定資産の当連結会計年度における見積耐用年数は、以下のとおりです。

- ・建物及び建物附属設備 2-50年
- ・工具、器具及び備品 2-20年
- ・機械設備 2-50年

減価償却方法、耐用年数及び残存価額は、期末日に見直しを行い、変更があった場合は、会計上の見積りの変更として将来に向かって適用しています。

2) 無形資産

a) のれん

当初認識

子会社の取得により生じたのれんは、無形資産に計上しています。移転した対価、被取得企業の非支配持分の金額及び以前に保有していた被取得企業の持分の取得日における公正価値の合計が、取得した識別可能な純資産の公正価値を超過する場合、当該超過額をのれんとして計上しています。

当初認識後の測定

のれんは、取得原価から減損損失累計額を控除して測定しています。

b) ソフトウェアに係る支出の資産化

当社グループは、主として内部利用目的のソフトウェアを購入又は開発するための特定のコストを支出しています。

新しい科学的又は技術的知識の獲得のために行われる研究活動に対する支出は、発生時に費用計上しています。開発活動

による支出については、信頼性をもって測定可能であり、技術的に実現可能であり、将来の経済的便益を得られる可能性が高く、当社グループが開発を完成させ、当該資産を使用又は販売する意図及びそのための十分な資源を有している場合にのみ、ソフトウェアとして資産計上しています。

資産計上したソフトウェアは、取得原価から償却累計額及び減損損失累計額を控除して測定しています。

c) 企業結合により取得した無形資産

企業結合により取得し、のれんとは区分して認識した商標権等の無形資産は取得日の公正価値で計上しています。

その後は、取得原価から償却累計額及び減損損失累計額を控除して測定しています。

d) 償却

償却費は、資産の取得原価から残存価額を差し引いた額に基づいています。耐用年数が確定できる無形資産は、定額法により償却しています。

主要な耐用年数が確定できる無形資産の当連結会計年度における見積耐用年数は、以下のとおりです。

・ソフトウェア 主として5年

償却方法、耐用年数及び残存価額は、期末日に見直しを行い、変更があった場合は、会計上の見積りの変更として将来に向かって適用しています。

3) リース取引

リース負債は、リース開始日におけるリース料総額の未決済分の割引現在価値として測定を行っています。使用権資産については、リース負債の当初測定額に当初直接コスト、前払リース料等を調整した金額で当初測定を行っています。当初認識後は、リース契約の終了までに当社グループが所有権を獲得することが合理的に確実な場合を除き、リース期間又は経済的耐用年数のいずれか短い期間にわたって、主に定額法によって減価償却しています。なお、リース料は、リース負債残高に対して一定の利率となるように、金利費用とリース負債残高の返済部分とに配分しています。

③ 重要な引当金の計上基準

当社グループが、過去の事象の結果として現在の法的又は推定的債務を有しており、当該義務を決済するために経済的便益を有する資源の流出が必要となる可能性が高く、当該義務の金額について信頼性のある見積りができる場合に、引当金を認識しています。

引当金は、現時点の貨幣の時間的価値の市場評価と当該義務に特有なリスクを反映した税引前の割引率を用いて、義務の決済に必要とされると見込まれる支出の現在価値として測定しています。

④ 収益の計上基準

当社グループでは、IFRS第9号「金融商品」（以下「IFRS第9号」）に基づく利息や配当収益等、IFRS第16号「リース」に基づくリース収益及びIFRS第17号「保険契約」（以下「IFRS第17号」）に基づく保険料収入を除き、以下の5ステップアプローチに基づき、顧客への財やサービスの移転との交換により、その権利を得ると見込む対価を反映した金額で収益を認識しています。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における別個の履行義務へ配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時点で（又は充足するにつれて）収益を認識する。

また、顧客との契約獲得のための増分コスト及び契約に直接関連する履行コストのうち、回収可能であると見込まれる部分について資産（以下「契約コストから認識した資産」）として認識しています。契約獲得のための増分コストとは、顧客との契約を獲得するために発生したコストで、当該契約を獲得しなければ発生しなかったであろうものです。契約コストから認識した資産については、顧客の見積契約期間に応じて3年間から10年間の均等償却を行っています。

当社グループは、インターネットサービス、フィンテック及びモバイルを有するグローバル イノベーション カンパニーであり、E C事業を中心に複数のビジネスを行っています。これらのビジネスから生じる収益は顧客との契約に従い計上しており、変動対価等を含む売上収益の額に重要性はありません。また、約束した対価の金額に重要な金融要素は含まれていません。

インターネットサービス

インターネットサービスセグメントにおいては、『楽天市場』、『楽天トラベル』、『Rakuten Rewards』、『楽天24』、『楽天ブックス』等のサービスを提供し、主な収益を下記のとおり認識しています。

楽天市場及び楽天トラベル

マーケットプレイス型ECサービスである『楽天市場』や、旅行予約サービスである『楽天トラベル』等においては、取引の場を顧客に提供することをその基本的な性格としています。当社グループは、これらのサービスの運営にあたり、出店者・旅行関連事業者への出店サービス及びシステム利用に関するサービス、当社グループを通じた販売拡大のための広告関連サービス、出店者・旅行関連事業者と消費者の決済に関する決済代行サービス等を提供しています。また、これらのサービスは諸規約に基づき、サービス内容や当事者間の権利と義務が定められており、サービスの内容の区分可能性や顧客への移転パターンに基づき、主な履行義務を下記のとおりに識別して、収益を認識しています。

『楽天市場』への出店サービスについて、当社グループは規約に基づき出店者に対し契約期間にわたり、当社グループのマーケットプレイス型ECウェブサイトへの出店サービス及び出店コンサルティングサービス等を提供する義務を負っています。当該履行義務は、契約期間にわたり、時の経過につれて充足されるものであり、収益は当該履行義務が充足される契約期間において、出店形態別に定められた金額に基づき、各月の収益として計上しています。なお、取引の対価は3ヶ月、半年又は1年分を履行義務の充足前である契約時に前受けする形で受領しています。

システム利用に関するサービスについて、当社グループは規約に基づき、出店者・旅行関連事業者に対して出店者・旅行関連事業者と主として楽天会員との間での個々の取引の成立に関するサービスの提供を行う義務を負っています。当該履行義務は、出店者・旅行関連事業者と主として楽天会員との個々の取引の成立時点で充足されるものであり、当該履行義務の充足時点で、流通総額（出店者・旅行関連事業者の月間売上高）にサービス別・プラン別・流通総額の規模別に定められている料率を乗じた金額にて収益を計上しています。当該金額は、履行義務の充足時点である取引成立時点から概ね3ヶ月以内に支払を受けています。

広告関連サービスについて、当社グループは広告規約に基づき、出店者・旅行関連事業者に対し期間保証型等の広告関連サービスを提供しており、契約で定められた期間にわたり、広告を掲示する義務を負っています。当該履行義務は時の経過につれて充足されるため、当該契約期間に応じて期間均等額で収益を計上しています。広告料金の支払は、原則として広告掲載開始日が属する月の翌々月末までに受領しています。

決済代行サービスについて、当社グループと出店者・旅行関連事業者間における、決済代行規約に基づき、決済代行サービスを提供しています。当社グループは、クレジットカード等による取引代金をカード会社等から受領し、出店者・旅行関連事業者への決済代金を支払う義務を負っています。当該サービスについては、主に決済対象となった取引が成立した時点で履行義務が充足されると判断しており、同時点で手数料収益を計上しています。当該手数料の支払は、履行義務の充足後、支払区分に基づいた請求締切日から1ヶ月半以内に受領しています。

Rakuten Rewards

『Rakuten Rewards』においては、Rakuten Rewards会員に対するキャッシュバックを通じ、Rakuten Rewards会員による小売業者（顧客）のウェブサイトでの購入を促進するサービス（以下「キャッシュバック・サービス」）、ウェブサイトにおける広告掲示、個人向けターゲットメールサービス等を提供しています。主なサービスであるキャッシュバック・サービスに関しては、契約に基づきRakuten Rewards会員による小売業者のウェブサイトでの購入を促進するために、Rakuten Rewards会員へのキャッシュバックを行う義務を負っており、当該履行義務はRakuten Rewards会員による購入時点が履行義務の充足時点となると判断しています。Rakuten Rewards会員の購入を確認した時点で購入金額に一定の料率を乗じた金額を手数料として収益計上しており、同時にRakuten Rewards会員に対するキャッシュバック費用を原価として計上しています。当該サービスの提供により生じる収益及び費用は、『Rakuten Rewards』が顧客及びRakuten Rewards会員とのそれぞれに対して価格設定を含む取引の裁量権を有していることから総額にて計上しており、手数料は履行義務の充足時点である注文確定月の月末から概ね3ヶ月以内に支払を受けています。

楽天24、楽天ブックス

インターネットサービスのうち、当社グループが主に楽天会員に対して商品を提供するインターネット通販サイト『楽天24』、『楽天ブックス』等のサービスにおいては、当社グループが売買契約の当事者となります。これらの直販型の取引においては顧客に商品が到着した時点で収益を計上しています。また、履行義務の充足時期である商品到着後、概ね2ヶ月以内に支払を受けています。なお、楽天ブックスのうち、国内における書籍（和書）販売については、再販売価格維持制度を考慮すると代理人取引としての性質が強いと判断されるため、収益を関連する原価と相殺の上、純額にて計上しています。

フィンテック

フィンテックセグメントにおいては、『楽天カード』、『楽天証券』、『楽天銀行』、『楽天ペイメント』等の金融サービスを提供し、主な収益を下記のとおり認識しています。

楽天カード

『楽天カード』においては、主としてクレジットカード関連サービスを提供しています。主にクレジットカード利用者と加盟店間の資金決済を通じて得られる加盟店手数料、クレジットカード利用者から得られるリボルビング払い手数料、分割払い手数料及びキャッシング手数料を得ています。加盟店手数料に関しては、カード会員のショッピング取引後、加盟店から楽天カード株式会社へ売上データが送信されたタイミングにおいて、決済サービスの提供という履行義務が充足されるため、同時点でクレジットカードの決済金額に一定の料率を乗じた手数料収益を計上しています。また、カード決済金額の1%分の通常ポイントをカード会員に付与しており、これらのポイント費用は加盟店手数料から控除しています。楽天カード株式会社はカード会員から基本的に1ヶ月に1回所定の日にカード利用代金の回収を行うため、履行義務充足後、概ね2ヶ月以内に実質的に支払を受けることとなります。リボルビング払い手数料、分割払い手数料及びキャッシング手数料に関しては、各残高に対してそれぞれ分割支払回数等に応じた一定の料率を乗じた利息収益を、IFRS第9号に従いその利息の属する期間に認識しています。

楽天証券

『楽天証券』においては、金融商品取引業務とその他の付随業務を提供し、これら取引に付随して発生する手数料やトレーディング損益、利息等を収益の源泉としています。金融商品取引業務には、国内株式取引に加え、外国株式取引、投資信託の販売等、様々な取引が存在し、それぞれの手数料体系は異なっています。現物株式に関する委託取引、信用取引及び投資信託の販売取引等に関連して発生する手数料に関しては、約定日等の取引成立時において履行義務が充足されるため、同時点において手数料収益を計上しています。現物株式取引から生じる手数料については、原則として履行義務の充足後2営業日以内に、信用取引及び先物取引から生じる手数料は建玉の決済が行われる半年から概ね1年以内に受領しています。また、IFRS第9号に従い、外国為替証拠金取引については、公正価値で測定された利得及び損失が純額で売上収益に計上され、国内株式信用取引の建玉に対する金利収益については、その利息の属する期間に収益を認識しています。

楽天銀行

『楽天銀行』においては、インターネットを通じた銀行業務（預金、貸出、為替）及びその他様々なサービスを提供しています。貸出については、個人向けローンである「楽天銀行スーパーローン」及び住宅ローンである「楽天銀行住宅ローン（金利選択型）」等を取り扱っており、貸出金利収入を得ています。また、資金運用から生じる有価証券利息等の利息収入も得ています。貸出金利収入や有価証券利息等の資金運用収益は、IFRS第9号に従い、その利息の属する期間に収益を認識しています。為替手数料等については、取引が行われた時点で履行義務が充足されるため、同時点において手数料収益を認識しています。なお、為替手数料等に関する支払は主として同日に受領しています。

楽天ペイメント

『楽天ペイメント』においては、主にモバイル決済サービスを提供しています。電子による代金決済サービスの提供により生じる決済サービス手数料は、加盟店から決済データが送信されたタイミングにおいて、決済サービスの提供という履行義務が充足されるため、同時点で決済金額に一定の料率を乗じた手数料収益を計上しています。

モバイル

モバイルセグメントにおいては、『楽天モバイル』、『楽天シンフォニー』、『楽天エナジー』等のサービスを提供し、主な収益を下記のとおり認識しています。

楽天モバイル

『楽天モバイル』は、移動体通信事業者(MNO)及び仮想移動体通信事業者(MVNO)として、主に音声通話・データ通信サービス(以下「通話・通信サービス」)の提供と、携帯端末の販売を行っています。通話・通信サービスについては、契約に基づき、契約者に常時利用可能な通話・通信サービス回線を提供し、当該回線を利用した通話・通信サービスを提供することを履行義務として識別しています。また、携帯端末の販売については、携帯端末を引き渡すことを履行義務として識別しています。なお、複数のサービスをセットで提供する場合には、契約者から受領する対価をそれぞれの履行義務に対して独立販売価格で案分しています。常時利用可能な回線を維持する履行義務については時の経過に基づき、通話・通信サービスの提供の履行義務については回線の利用に応じて充足されると判断しており、したがって、回線の提供については契約期間にわたって収益を計上し、通話・通信サービスの提供については回線の利用状況に応じた回線使用料を各月の収益として計上しています。携帯端末の販売については契約者に端末を引き渡した時点で履行義務が充足されると判断しており、当該時点にて関連する収益を計上しています。いずれの履行義務に対する支払も、請求日から概ね2ヶ月以内に受領しています。

Rakuten Symphony Singapore

Rakuten Symphony Singapore Pte. Ltd.は、Open RANベースの通信インフラプラットフォームの販売及び関連サービスの提供を行っています。当サービスでは、契約に基づき、顧客に機器及びグループ会社が開発したソフトウェアの販売を行うこと並びに当該ソフトウェアの保守・運用サービスを提供することを履行義務として認識しています。機器及びソフトウェアの販売については、顧客の検収をもって履行義務が充足されるため、検収完了時に収益を計上しています。ソフトウェアの保守・運用サービスには、日常的なサービスと特定のサポートサービスが含まれます。日常的なサービスは、時の経過に応じて履行義務が充足されるため、役務提供期間にわたり収益を認識しています。特定のサポートサービスは、契約に基づき顧客への役務提供が完了した時点で収益を認識しています。いずれの履行義務に対する支払も、請求日から概ね1ヶ月以内に受領しています。

楽天エナジー

『楽天エナジー』においては、電気事業法に基づく小売電気事業者として、「楽天でんき」の運営を行っており、契約に基づき、顧客である契約者に電気を供給する履行義務を負っています。当該履行義務は調達した電気を一般送配電事業者等を介し顧客へ供給した時点で充足されると判断しており、したがって、顧客の電力の利用状況に応じた電力使用料を各月の収益として計上しています。主に使用電力量にプランごとに設定されている地域別の単価を乗じた金額を、月ごとに契約者に請求しており、当該支払は請求日から概ね2ヶ月以内に受領しています。なお、再生可能エネルギーの固定価格買取制度に基づき顧客から徴収し費用負担調整機関へ納付する再生可能エネルギー発電促進賦課金については、売上、売上原価の双方から除外しています。

なお、日本政府による「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」に基づく施策である「電気・ガス料金負担軽減支援事業」(2025年1月より発動)により受領する補助金について、IAS第20号「政府補助金の会計処理及び政府援助の開示」(以下「IAS第20号」)に基づき会計処理を行い、売上収益に含めて表示しています。また、受領する当該補助金は、事業の趣旨に従い、適切に全額小売価格に反映させています。

⑤ その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

1) 非金融資産の減損

棚卸資産及び繰延税金資産を除く当社グループの非金融資産の帳簿価額は、四半期ごとに減損の兆候の有無を判断しています。減損の兆候が存在する場合は、当該資産の回収可能価額を見積っています。のれん及び耐用年数を確定できない、又はまだ使用可能ではない無形資産については、回収可能価額を各連結会計年度における一定時期に見積っています。

資産、資金生成単位又は資金生成単位グループの回収可能価額は、使用価値と処分費用控除後の公正価値のうち、いずれが高い金額としています。使用価値の算定において、見積将来キャッシュ・フローは、貨幣の時間的価値及び当該資産の固有のリスクを反映した割引率を用いて、現在価値に割り引いています。資金生成単位については、継続的に使用することにより他の資産又は資産グループのキャッシュ・イン・フローから、概ね独立したキャッシュ・イン・フローを生み出す最小単位の資産グループとしています。

資金生成単位については、原則として各社を資金生成単位としています。のれんは、内部報告目的で管理される単位に基づき、資金生成単位又は資金生成単位グループに配分しています。

全社資産は独立したキャッシュ・イン・フローを生み出していないため、全社資産に減損の兆候がある場合、全社資産が帰属する資金生成単位の回収可能価額を算定して判断しています。

減損損失は、資産、資金生成単位又は資金生成単位グループの帳簿価額が回収可能価額を超過する場合に、純損益で認識しています。資金生成単位に関連して認識した減損損失は、まずその単位に配分されたのれんの帳簿価額を減額するように配分し、次に資金生成単位内のその他の資産の帳簿価額を比例的に減額するように配分しています。

のれんに関連する減損損失については、戻入れていません。過去に認識したその他の資産の減損損失については、四半期ごとに、損失の減少又は消滅を示す兆候の有無を判断しています。減損の戻入れの兆候があり、回収可能価額の決定に使用した見積りが変化した場合は、減損損失を戻入れています。

減損損失については、減損損失を認識しなかった場合の帳簿価額から必要な減価償却費又は償却費を控除した後の帳簿価額を超えない金額を上限として、戻入れています。

2) 従業員給付

a) 短期従業員給付

短期従業員給付については、割引計算は行わず、関連するサービスが提供された時点で費用として計上しています。賞与については、それらを支払うべき現在の法的又は推定的債務を負っており、かつ、その金額を信頼性をもって見積ることができる場合に、それらの制度に基づいて支払われると見積られる額を負債として認識しています。

b) 退職後給付

当社グループは、退職給付制度として、主に確定給付制度を採用しています。

確定給付制度

確定給付負債（資産）の純額は、確定給付制度債務の現在価値から、制度資産の公正価値（必要な場合には、確定給付資産の上限、最低積立要件への調整を含む）を控除したものであり、退職給付に係る資産又は負債として連結財政状態計算書で認識しています。確定給付制度債務は、予測単位積増方式に基づいて算定され、その現在価値は、将来の予想支払額に割引率を適用して算定しています。割引率は、給付が見込まれる期間に近似した満期を有する優良社債の利回りを参照して決定しています。

勤務費用及び確定給付負債（資産）の純額に係る利息純額は純損益として認識しています。数理計算上の差異、純利息費用に含まれる部分を除く制度資産に係る収益の変動については、それらが生じた期間において確定給付制度に係る再測定としてその他の包括利益に認識しています。また、過去勤務費用は、制度改訂又は縮小が発生した時、あるいは関連するリストラクチャリング費用又は解雇給付を認識した時の、いずれか早い方の期において純損益として認識しています。

3) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

a) 外貨建取引

外貨建取引は、取引日における直物為替レートを適用することにより、機能通貨に換算しています。期末日における外貨建貨幣性資産及び負債は、期末日の為替レートで機能通貨に再換算しています。公正価値で測定される外貨建非貨幣性資産及び負債は、当該公正価値の算定日における為替レートで機能通貨に再換算しています。

これら取引の決済から生じる外国為替差額並びに外貨建貨幣性資産及び負債を期末日の為替レートで換算することによって生じる為替差額は、純損益で認識しています。ただし、非貨幣性項目に係る利益又は損失がその他の包括利益に計上される場合は、為替差額もその他の包括利益に計上しています。

b) 在外営業活動体

在外営業活動体の資産及び負債（取得により発生したのれん及び公正価値の調整を含む）については期末日の為替レート、収益及び費用については期中の平均為替レートをを用いて日本円に換算しています。

在外営業活動体の換算から生じる為替換算差額は、その他の包括利益で認識しています。

当該差額は「在外営業活動体の換算差額」として、その他の資本の構成要素に含めています。なお、在外営業活動体の持分全体の処分及び支配、重要な影響力の喪失を伴う持分の一部処分といった事実が発生した場合、当該換算差額を、処分損益の一部として純損益に振替えています。

⑥ 未適用の公表済み基準書及び解釈指針

連結計算書類の承認日までに公表されている主な基準書及び解釈指針の新設又は改訂は次のとおりであり、2025年12月31日現在において当社グループはこれらを適用していません。なお、この適用による重要な影響は検討中です。

IFRS会計基準		強制適用時期 (以降開始年度)	当社グループ 適用時期	新設・改訂内容
IFRS第18号	財務諸表における表示及び開示	2027年1月1日	2027年1月1日	企業の財務業績の報告を改善し、企業分析及び比較のためのより良い基礎を投資者に提供する3つの新たな要求事項を導入

2. 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積り及び仮定

IFRS会計基準に準拠した連結計算書類の作成において、当社グループは、将来に関する見積り及び仮定を用いています。会計上の見積りの結果は、その性質上、関連する実際の結果と異なる可能性があります。当連結会計年度、翌連結会計年度に資産や負債の帳簿価額に重要な修正を生じる要因となる著しいリスクを伴う将来に関して行った仮定及び当連結会計年度の末日におけるその他の見積りの不確実性に関する主な情報は、次のとおりです。

① 非金融資産の減損

1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

有形固定資産	1,068,509百万円
無形資産	1,079,201百万円
減損損失	68,333百万円

2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

a) 見積りの算出方法

注記1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項 (4) 会計方針に関する事項 ⑤ その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項 1) 非金融資産の減損をご参照ください。

b) 金額の算出に用いた主要な仮定

使用価値の算定に当たっては、各資金生成単位あるいは資金生成単位グループにおいて経営者によって承認された事業計画に基づき、主に3～5年間の税引前キャッシュ・フロー予測等を使用しています。この事業計画は、インターネットサービスでは主に流通総額等、フィンテックでは、口座数・会員数等、モバイルでは、モバイル事業における顧客1人当たりの平均売上高(ARPU)・新規契約者数・解約率等及び楽天シンフォニー事業におけるOpen RAN市場の成長見通し・市場浸透率を用いて策定しています。事業計画が対象としている期間を超える期間については、継続価値を算定しています。

継続価値の算定には、各資金生成単位あるいは資金生成単位グループの予測成長率を使用しています。また、使用価値の算出に用いた税引前の割引率は、資金生成単位ごとあるいは資金生成単位グループごとに算定しています。

各資金生成単位における事業計画が対象としている期間を超える期間のキャッシュ・フローを予測するために用いられた成長率は、資金生成単位の属する国や産業の状況を勘案して決定した成長率を用いており、資金生成単位が活動する産業の長期平均成長率を超えていません。継続価値の算定に使用した割引率は税引前の数値であり、関連する各資金生成単位事業あるいは資金生成単位グループ特有のリスクを反映しています。割引率は各資金生成単位あるいは資金生成単位グループの類似企業を基に、市場利子率、資金生成単位となる子会社の規模等を勘案して決定しています。

また、当社グループは、のれん及び耐用年数を確定できない無形資産の減損テストにおける、回収可能価額の測定の基礎となる事業計画について、各資金生成単位において過去の実績と比較し、当該事業計画が将来キャッシュ・フロー予測の基礎的な仮定として合理的かどうかを検討しています。

c) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

当該判断及び仮定の前提とした状況が変化すれば、回収可能価額の算定結果が著しく異なる結果となる可能性があります。

当社の連結子会社であり、モバイルセグメントに属する楽天モバイル株式会社の有形固定資産及び無形資産997,821百万円について、主にモバイル事業における当連結会計年度までの予算未達の状況に起因して当連結会計年度末において減損の兆候を識別しています。

同社の上記資産及び契約コストから認識した資産44,323百万円の帳簿価額と回収可能価額を比較する減損テストを実施した結果、使用価値が帳簿価額を上回ったことから、減損損失を認識していません。

使用価値は、経営者によって承認された同社の事業計画に将来の不確実性を考慮した5年間の将来予測を基礎とし、6年目以降10年目まではモバイル市場の長期平均成長率を基に5.28%の成長率を加味し、11年目以降は日本のインフレ率である2.00%が継続すると仮定して見積った将来キャッシュ・フロー見積額を割引率である10.20%で現在価値に割り引いて算出しています。

使用価値の見積りにおける主要な仮定は、将来キャッシュ・フローの見積りにおける、上記将来予測に基づく顧客1人当たりの平均売上高(ARPU)、新規契約者数、解約率、加重平均資本コストによる割引率及び成長率です。これらの主要な仮定は見積りの不確実性が高く、主要な仮定に変更が生じた場合、翌連結会計年度の同社の固定資産の評価に重要な影響を与える可能性があります。

② 繰延税金資産の回収可能性

1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

繰延税金資産 71,912百万円

2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

a) 見積りの算出方法

当社グループは、資産及び負債の連結財政状態計算書上の帳簿価額と税務上の基準額との間に生じる一時差異、将来の課税所得と相殺可能な繰越欠損金及び将来の税額から控除可能な税額控除に対して、繰延税金資産及び繰延税金負債を計上しています。当該繰延税金資産及び繰延税金負債の算定には、期末日において施行され、又は実質的に施行されている法令に基づき、関連する繰延税金資産が実現する時、又は繰延税金負債が決済される時において適用されると予想される税率を使用しています。繰延税金資産は、将来の課税所得を稼得する可能性が高い範囲内、全ての将来減算一時差異及び全ての未使用の繰越欠損金及び税額控除について認識しています。

子会社、関連会社及び共同支配企業に対する投資に係る一時差異について、繰延税金資産又は繰延税金負債を認識しています。ただし、繰延税金負債については、一時差異の解消時期をコントロールでき、かつ、予測可能な期間内での一時差異の解消が期待できない可能性が高い場合には認識していません。また、繰延税金資産については、一時差異からの便益を利用するのに十分な課税所得があり、予測可能な期間内での一時差異の解消される可能性が高いと認められる範囲内で認識しています。

繰延税金資産及び繰延税金負債の相殺が行われるのは、当期税金資産と当期税金負債を相殺する法的に強制力のある権利を有しており、かつ、繰延税金資産及び繰延税金負債が単一の納税事業体又は純額ベースでの決済を行うことを意図している異なる納税事業体に対して、同一の税務当局によって課されている法人所得税に関連するものに対してです。

当社及び一部の子会社は、グループ通算制度を適用しています。

b) 金額の算出に用いた主要な仮定

当連結会計年度における繰越欠損金に係る繰延税金資産は、主として当社の子会社である楽天モバイル株式会社により認識されたものです。同社は、自社ネットワークの拡大を前倒しで行ったため、減価償却費等の営業費用の増加により繰越欠損金が生じています。

当社グループは日本国内でグループ通算制度を採用しているため、通算グループ内の各法人の所得が当該繰越欠損金の一部の回収に使用可能であるほか、音声通話・通信サービスから生じる将来における課税所得の獲得が見込まれます。このような前提のもとで、経営者によって承認された事業計画に基づき、将来の課税所得の範囲内で繰延税金資産を計上しています。

通算グループ外の会社における繰越欠損金にかかる繰延税金資産についても、経営者によって承認された事業計画に基づき、将来の課税所得の範囲内で計上しています。

c) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

当該判断及び仮定の前提とした状況の変化や将来の税法の改正等により、繰延税金資産や繰延税金負債の金額に重要な影響を及ぼす可能性があります。

③ デリバティブを含む公正価値で測定する金融商品の公正価値の決定方法

1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

注記7. 金融商品に関する注記 (2) 金融商品の公正価値に関する事項をご参照ください。

2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

a) 見積りの算出方法

当社グループが保有するデリバティブを含む公正価値で測定する金融資産及び金融負債は、同一の資産又は負債について、活発な市場における公表価格、当該資産又は負債について直接に又は間接に観察可能な前述の公表価格以外のインプットを使用して算定された公正価値、若しくは観察不能なインプットを含む評価技法によって算定された公正価値を用いて評価しています。

b) 金額の算出に用いた主要な仮定

観察不能なインプットを含む評価技法によって算定される公正価値は、適切な基礎率、仮定及び採用する計算モデルの選択等、当社グループの経営者による判断及び仮定を前提としています。

c) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

当該判断及び仮定の前提とした状況の変化等により、金融商品の公正価値の算定に重要な影響を及ぼす可能性があります。

④ 償却原価で測定する金融資産及びその他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品の減損

1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

注記3. 連結財政状態計算書に関する注記 (2) 営業債権及びその他債権から直接控除された貸倒引当金の金額をご参照ください。

2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

a) 見積りの算出方法

注記1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項 (4) 会計方針に関する事項 ① 金融商品の評価基準及び評価方法 1) 非デリバティブ金融資産をご参照ください。

b) 金額の算出に用いた主要な仮定

将来キャッシュ・フローの見積りに際しては、債務不履行の可能性、発生損失額に関する過去の傾向、合理的に予想される将来の事象等を考慮しています。

c) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

当該判断及び仮定の前提とした状況が変化すれば、償却原価で測定する金融資産及びその他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品の減損損失の金額が著しく異なる可能性があります。

連結計算書類

3. 連結財政状態計算書に関する注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 860,940百万円
 なお、減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれています。
- (2) 営業債権及びその他債権から直接控除された貸倒引当金の金額 95,576百万円

(3) 担保に供されている資産

当社グループは、主に借入契約、電子マネーの預り金、通常の慣習的な条件に基づいて行われる信用取引及び貸株取引に基づく債務の担保、デリバティブに関連する保証金、又は供託として資産を差し入れています。

当社グループが、負債又は偶発債務の担保として差し入れた資産の帳簿価額は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	金額
カード事業の貸付金(注)	33,617
銀行事業の有価証券	1,318,060
銀行事業の貸付金	2,068,195
有価証券	6,851
その他の金融資産	15,860
建物及び建物附属設備	3,745
工具、器具及び備品	28,655
機械設備	273,342
その他の有形固定資産	41,521
ソフトウェア	1
合計	3,789,847

(注) カード事業の貸付金には、流動化された債権が含まれています。

上記資産は、短期借入金18,600百万円、長期借入金3,153,214百万円及び預り金110,876百万円の担保、又は供託に供されています。

上記資産のほか、為替決済、デリバティブ取引、コミットメントライン等の担保として、銀行事業の有価証券258,315百万円、保険事業の有価証券55,626百万円及びその他の金融資産64,686百万円を差し入れています。また、証券事業の信用取引及び先物取引等に係る保証金144,031百万円、証券事業の信用取引の株券借入に係る担保金133,227百万円を差し入れています。

(4) 偶発事象

一部の連結子会社は、クレジットカードに附帯するキャッシング及びカードローンによる融資業務を行っています。当該貸付金については、貸出契約の際に設定した額（契約限度額）のうち、当該連結子会社が与信した額（利用限度額）の範囲内で顧客が随時借入を行うことができる契約となっています。

なお、同契約は融資実行されずに終了するものもあり、かつ、利用限度額についても当社グループが任意に増減させることができるものであるため、融資未実行残高は必ずしも全額が貸出実行されるものではありません。

また、一部の連結子会社において、連結子会社の業務提携先から融資を受けた一般顧客に対して債務保証を行っています。

さらに、当社は、一部の持分法適用関連会社のリース負債に対して債務保証を行っています。

上記の貸出コミットメントラインに係る未実行残高及び営業保証業務等における保証債務残高の状況は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	金額
貸出コミットメントラインに係る未実行残高	6,079,334
金融保証契約	7,286
合計	6,086,620

(5) Lyft, Inc.株式先渡売買契約

当社は2020年第3四半期連結会計期間において連結子会社であるLiberty Holdco Ltd.を通じて、当社が保有するLyft, Inc.の株式31,395,679株全てを活用した先渡売買契約につき、金融機関との間で基礎となる契約を締結しました。2020年第4四半期連結会計期間において当該取引を実行した結果、714百万米ドルの資金を調達しました。5年の契約期間満了時には、現金又はLyft, Inc.の株式で決済することをLiberty Holdco Ltd.が選択できます。当社はLyft, Inc.の株式をLiberty Holdco Ltd.に貸与し、これに関する預り金としてLiberty Holdco Ltd.から当該資金の差入れを受けています。なお、上記資金調達に加え、キャップとフロアーの設定されているカラー取引を締結し、Lyft, Inc.に対する株式投資の株価変動によるリスクの低減を行っています。

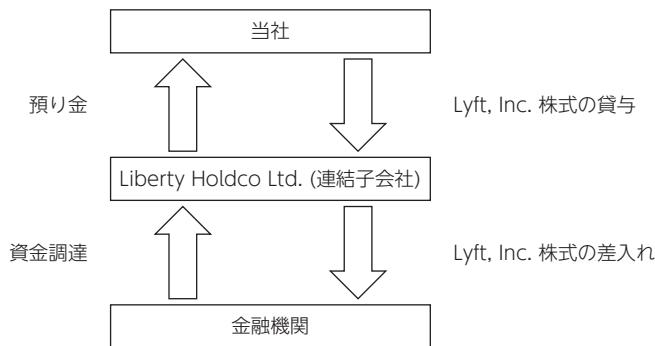
2021年第2四半期連結会計期間において、当初契約時からLyft, Inc.の株価が上昇したため、カラー契約より生じるデリバティブの公正価値変動リスクに備えるために、カラー契約の一部の想定元本に係るキャップとフロアーの上限及び下限の見直しを行い、契約上の条件変更を行っています。

2024年第4四半期連結会計期間において、先渡売買契約の一部をLyft, Inc.の株式により早期決済しました。

2025年第3四半期連結会計期間において、当社が保有するLyft, Inc.の全株式を返済原資として、Lyft, Inc.株式の先渡売買契約を早期解除しました。また、当該先渡売買契約に関連するカラー契約も全て終了しています。

その結果、連結財政状態計算書上で、その他の金融負債に含まれていたLyft, Inc.の株式を使用した資金調達に係る負債57,689百万円、デリバティブ資産に含まれていたLyft, Inc.の株式のカラー契約に係るデリバティブ資産31,129百万円、有価証券に含まれていたLyft, Inc.の株式26,236百万円の認識を中止しました。

また、当該決済に係る端数株式の譲渡価額91百万円を現金で受領し、差額をLyft, Inc.株式の先渡売買契約の決済に係る償還益415百万円として連結損益計算書上の金融収益に計上しています。



上記一連の取引の結果、当連結会計年度末において、上記のLyft, Inc.株式の先渡売買契約の決済に係る償還益のほかに、金融収益にLyft, Inc.の株式の公正価値測定により生じた公正価値評価差額を3,952百万円、Lyft, Inc.の株式のカラー契約のうち一部満期償還に係るデリバティブの公正価値評価差額を767百万円及び為替による換算差額を3,523百万円計上しています。金融費用には、Lyft, Inc.の株式を使用した資金調達に係る負債より生じた償却原価費用を307百万円及びLyft, Inc.の株式のカラー契約のうち早期償還その他に係るデリバティブの公正価値評価差額を7,127百万円計上しています。

4. 連結損益計算書に関する注記

(1) その他の収益

(単位：百万円)

	金額
関連会社株式売却益	979
為替差益	1,902
有形固定資産及び無形資産売却益	4,413
償却債権取立益(注) 1	2,272
その他(注) 2	9,439
合計	19,005

- (注) 1 過去に貸倒引当金を繰り入れた海外子会社の売却未収金の回収に伴う引当金戻入額2,258百万円が含まれています。
 2 2022年連結会計年度に発覚した子会社の元従業員及び取引先の共謀による不正行為に関与した取引先との一部和解に基づく委託料債務の免除益3,715百万円が含まれています。

(2) その他の費用

(単位：百万円)

	金額
有形固定資産及び無形資産除却損	5,317
有価証券評価損	10,493
減損損失(注) 2	68,333
その他(注) 1, 2	17,888
合計	102,031

- (注) 1 国内スポーツ事業において、過去に締結したチーム運営に重要な影響を及ぼすコンサルティング契約を、チームの運営方針の変更を契機に解約したことによる中途解約金2,459百万円、証券事業における不正アクセスに伴う顧客取引の補償に係る損失額858百万円及び過去に売却した子会社の債務の支払請求訴訟に係る引当金繰入額が含まれています。
 2 倉庫型ネットスーパー事業において顧客獲得実績が当初計画を著しく下回ったこと及び一部商圏からの撤退を決定したことに伴う固定資産の減損等27,909百万円、ロジスティクス事業において貸与している倉庫の将来的な荷量の増加ペースの遅延及び取り扱い商品サイズの想定以上の大型化による保管可能な荷量の減少に伴う固定資産の減損10,024百万円、「楽天シンフォニー」のOpen RAN事業においてビジネスの立ち上げに当初想定以上の時間を要したことに伴う固定資産の減損20,497百万円、海外アフィリエイト事業の将来の収益見通しを再評価したことによる固定資産の減損1,254百万円及び一部欧州事業の撤退に向けた人件費引当等1,720百万円が含まれています。なお、倉庫型ネットスーパー事業、ロジスティクス事業及び「楽天シンフォニー」のOpen RAN事業の減損の詳細については、(3) 固定資産の減損をご参照ください。

(3) 固定資産の減損

倉庫型ネットスーパー事業

当社は、2023年12月に楽天西友ネットスーパー株式会社を完全子会社化し、当社が楽天西友ネットスーパー株式会社及び倉庫型ネットスーパー事業の運営を継続することになりました。その後、2024年9月にサービス名称を『楽天西友ネットスーパー』から『楽天マート』へと変更し、ブランドイメージを刷新しました。さらに、商品調達プロセスの再構築を進めるとともに、顧客基盤拡大に向けた各種施策を推進する等、多角的な取組を講じました。しかしながら、商品調達プロセスの構築に想定以上の時間を要したことに加え、日本の生鮮食品におけるEC化率は着実に上昇しているものの、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、スーパーマーケット業界における消費者の購買行動の実店舗への回帰傾向といった環境変化も複合的に影響し、当社のネットスーパー事業における顧客獲得実績が当初計画を著しく下回る結果となりました。かかる事業状況を踏まえ、当社は2025年第3四半期連結会計期間に茨木倉庫（関西エリア）からの撤退を決定するに至りました。

上記事象により減損の兆候が認められ、減損テストを実施した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回る見込みとなり、インターネットサービスセグメントにおいて27,027百万円（有形固定資産26,166百万円、無形資産861百万円）の減損損失を計上しています。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しています。当該資金生成単位における将来キャッシュ・フローがマイナスであるため使用価値をゼロとして算定しています。割引率は、割引前将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、記載を省略しています。

ロジスティクス事業

当社はロジスティクス事業の一環として、倉庫スペースの一部を貸し出すサービスを提供しています。

2025年第4四半期連結会計期間において、当該サービスが提供する一部の倉庫スペースの将来的な荷量の増加ペースが遅れる可能性が高い状況となり、当該サービスの今後の事業成長見通しを下方修正しました。また、昨今、当該倉庫スペースにおける取り扱い商品サイズの大型化も進んでおり、面積あたりの保管可能な数量から見積もられる収益計画も悪化する可能性が高い状況を考慮した結果、当該固定資産から得られる将来キャッシュ・フローが帳簿価額を下回る可能性が高まったため、減損の兆候があると判断しました。

当該減損の兆候を受け減損テストを実施した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回る見込みとなり、インターネットサービスセグメントにおいて有形固定資産10,024百万円の減損損失を計上しています。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しています。当該資産グループの使用価値の算定に当たり、キャッシュ・イン・フローを割引率7.10%（税引前）で割り引いています。

楽天シンフォニー

当社グループは、楽天シンフォニー株式会社を通じて、4G及び5G向けのインフラ及びプラットフォームソリューションを世界市場に提供しています。

「楽天シンフォニー」の非金融資産の減損を検討するに当たり使用する資金生成単位は、概ね独立したキャッシュ・イン・フローを生み出す事業単位としています。当該事業単位は、Open RAN事業、クラウド事業、OSS事業、インターネットサービス事業、グローバルサービスデリバリー事業の5事業です。

上記5事業の中でのOpen RAN事業は、ハードウェアの制約がないこと及び価格競争力に優れていることから、Open RAN市場において独自の強みを有しており、今後のアップデートにおいても、このコストメリットを継続的に享受できると考えています。しかしながら、足元での金利水準の上昇に加え当初想定していたOpen RAN市場全体の伸長が長期化したことにより、ビジネスの立ち上げに当初想定以上の時間を要しました。

よって、資産グループの残存償却年数（3.43年）を考慮した将来期間の利益水準が当初の想定を下回る見込みとなりました。このため、Open RAN事業に関連する資産グループにおいて減損の兆候があると判断し、減損テストを実施しました。

その結果、当該資産グループの回収可能価額が帳簿価額21,647百万円（有形固定資産2,205百万円、無形資産19,442百万円）を下回る見込みとなり、モバイルセグメントにおいて20,497百万円（有形固定資産2,185百万円、無形資産18,312百万円）の減損損失を計上しています。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定し、348百万円と評価しています。

使用価値は、経営者によって承認された同事業の事業計画に将来の不確実性を考慮した同事業の非金融資産の平均残存耐用年数に基づいて見積もった将来キャッシュ・フロー見積額を税引前割引率である16.45%で割り引いて算出しています。

なお、クラウド事業及びOSS事業においては、減損の兆候は認められていません。インターネットサービス事業及びグローバルサービスデリバリー事業は、前連結会計年度に減損損失を計上しています。

(4) 金融収益

	(単位：百万円)
	金額
受取利息	4,257
有価証券評価益(注) 1	4,415
デリバティブ評価益(注) 2, 3	50,663
為替差益(注) 4	3,523
その他(注) 5	499
合計	63,357

- (注) 1 Lyft, Inc.への株式投資の有価証券評価益を3,952百万円計上しています。
- 2 外貨建永久劣後特約付社債に係る通貨スワップから生じるデリバティブ評価益を49,896百万円計上しています。
 なお、外貨建永久劣後特約付社債については、注記6. 連結持分変動計算書に関する注記(5) 利払繰延条項付無担保社債(劣後特約付)の発行をご参照ください。
- 3 Lyft, Inc.株式の先渡売買契約のカラー契約より生じる一部満期償還に係るデリバティブ評価益を767百万円計上しています。
 なお、先渡売買契約については、注記3. 連結財政状態計算書に関する注記(5) Lyft, Inc.株式先渡売買契約をご参照ください。
- 4 Lyft, Inc.株式の先渡売買契約による資金調達に係る負債より生じた為替換算差額を3,523百万円計上しています。
- 5 当社が保有するLyft, Inc.の全株式を返済原資として、Lyft, Inc.株式の先渡売買契約を早期解除した結果、Lyft, Inc.株式の先渡売買契約の決済に係る償還益を415百万円計上しています。

(5) 金融費用

	(単位：百万円)
	金額
支払利息(注) 1	86,680
デリバティブ評価損(注) 2	7,197
その他	5,526
合計	99,403

- (注) 1 Lyft, Inc.株式の先渡売買契約に係る金融負債を償却原価で測定したことによる金利費用を307百万円計上しています。
- 2 Lyft, Inc.株式の先渡売買契約のカラー契約より生じる早期償還その他に係るデリバティブ評価損を7,127百万円計上しています。

5. 収益認識に関する注記

(1) 収益の分解

① 顧客との契約及びその他の源泉から認識した収益

(単位：百万円)

	金額
顧客との契約から認識した収益	1,996,858
その他の源泉から認識した収益	499,717
合計	2,496,575

(注) その他の源泉から認識した収益には、IFRS第9号に基づく利息及び配当収益等やIFRS第17号に基づく保険料等収入が含まれています。

② 収益の分解情報

(単位：百万円)

	セグメント			
	インターネットサービス	フィンテック	モバイル	合計
楽天市場及び楽天トラベル	556,790	—	—	556,790
Rakuten Rewards	149,717	—	—	149,717
楽天24	116,108	—	—	116,108
楽天ブックス	66,437	—	—	66,437
楽天カード	—	237,197	—	237,197
主要なサービス	—	154,178	—	154,178
楽天銀行	—	158,360	—	158,360
ライン	—	82,348	—	82,348
楽天モバイル	—	—	315,251	315,251
Rakuten Symphony Singapore	—	—	52,208	52,208
楽天エナジー(注) 2	—	—	37,179	37,179
その他	441,013	114,812	14,977	570,802
合計	1,330,065	746,895	419,615	2,496,575
顧客との契約から認識した収益	1,329,696	248,863	418,299	1,996,858
その他の源泉から認識した収益	369	498,032	1,316	499,717

(注) 1 グループ会社間の内部取引控除後の金額を表示しています。

2 IAS第20号に基づく政府補助金を、売上収益に含めて表示しています。

なお、利息及び配当収益等はIFRS第9号に基づき売上収益として計上しています。

IFRS第9号に基づく『楽天カード』、『楽天証券』及び『楽天銀行』の売上収益はそれぞれ184,592百万円、96,598百万円及び124,154百万円です。

(2) 契約残高

当社グループの契約残高の内訳は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	2025年1月1日	2025年12月31日
顧客との契約から生じた債権(注) 1		
受取手形及び売掛金	421,649	443,557
割賦契約等に基づく売掛債権(注) 2	3,211,066	3,359,552
その他の金融資産	150,666	156,908
合計	3,783,381	3,960,017
契約負債(注) 3	29,534	35,750

(注) 1 顧客との契約から生じた債権について認識した減損損失の額は、売上債権4,040百万円及びカード事業の貸付金13,651百万円です。

2 顧客のクレジットカード利用による割賦契約等に基づく売掛債権であり、連結財政状態計算書上は「カード事業の貸付金」に計上しています。当該債権には、当社グループが収受する手数料が含まれています。

3 契約負債については、連結財政状態計算書上は「その他の負債」に計上しています。

契約負債は、当社グループが履行義務の充足前に対価を受領しているものであり、履行義務は契約期間にわたり時の経過によって、若しくは契約の進捗に応じて充足され、収益として認識されることで減少します。

当社グループにおいて契約負債として計上されているものは、主としてOpen RANベースの通信インフラプラットフォーム、サービス等の開発・提供に関する収入の繰延、『楽天市場』における出店サービスに関する収入の繰延及び『楽天カード』におけるカード会員からの年会費収入の繰延です。

当連結会計年度に認識した収益のうち、2025年1月1日現在の契約負債残高に含まれていたものは20,701百万円です。また、当連結会計年度において、過去の期間に充足（又は部分的に充足）した履行義務から認識した収益の額に重要性はありません。

(3) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、個別の予想契約期間が1年以内の契約については注記の対象に含めていません。未充足の履行義務は、主にOpen RANベースの通信インフラプラットフォーム、サービス等の開発・提供に関するものです。当連結会計年度末において、当該残存履行義務に配分した取引価格の総額は42,980百万円であり、Open RANベースの通信インフラプラットフォーム、サービス等の開発・提供の進捗に応じて収益を認識しています。これらは今後60ヶ月にわたって発生すると見込んでいます。なお、当該Open RANベースの通信インフラプラットフォーム、サービス等の開発・提供に関する収益はモバイルセグメントのRakuten Symphony Singapore及び「その他」に計上されています。

6. 連結持分変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末における発行済株式数

普通株式 2,169,972,100株

(2) 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

(3) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

(4) 当連結会計年度の末日において発行している新株予約権の目的となる株式の数

普通株式 55,293,200株

(5) 利払繰延条項付無担保社債（劣後特約付）の発行

(2021年)

当社は、資金調達手段の多様化、投資家層の拡大、財務基盤の一層の充実化等を目的として、2021年第2四半期連結会計期間において、米ドル建ノンコール5年永久劣後特約付社債（利払繰延条項付）、ユーロ建ノンコール6年永久劣後特約付社債（利払繰延条項付）及び米ドル建ノンコール10年永久劣後特約付社債（利払繰延条項付）（以下あわせて「本社債」）を発行しました。本社債は、償還期限の定めがなく当社の裁量のみで償還が可能であること、また、利息支払の任意繰延が可能であり、支払義務がないこと等により、IFRS会計基準において、資本性金融商品に分類されます。本社債の利払日である2025年4月22日と2025年10月22日において利息の支払が完了しており、当連結会計年度において、「その他の資本性金融商品の所有者に対する分配」として、「利益剰余金」が21,942百万円減少しています。なお、当連結会計年度末日(2025年12月31日)において、支払が確定していないため「その他の資本性金融商品の所有者に対する分配」として認識していない経過利息の金額は8,430百万円です。

また、外貨建永久劣後特約付社債の元本及び利息について、米ドル、ユーロと日本円の通貨スワップ契約を締結しています。当該通貨スワップは、その他の資本性金融商品の所有者に対する分配額及び当社の裁量により将来償還される場合の現金支出額を固定する効果を有しています。

(2024年)

当社は、主に第4回公募劣後特約付社債500億円（初回コール日：2025年11月4日）及び第2回公募劣後特約付社債260億円（初回コール日：2025年12月13日）のリプレイスメントに充当することを目的として、2024年第4四半期連結会計期間において、米ドル建ノンコール5年永久劣後特約付社債（利払繰延条項付）（以下「本社債」）を発行しました。本社債は、償還期限の定めがなく当社の裁量のみで償還が可能であること、また、利息支払の任意繰延が可能であり、支払義務がないこと等により、IFRS会計基準において、資本性金融商品に分類されます。本社債の利払日である2025年6月15日と2025年12月15日において利息の支払が完了しており、当連結会計年度において、「その他の資本性金融商品の所有者に対する分配」として、「利益剰余金」が6,698百万円減少しています。なお、当連結会計年度末日(2025年12月31日)において、支払が確定していないため「その他の資本性金融商品の所有者に対する分配」として認識していない経過利息の金額は311百万円です。

また、外貨建永久劣後特約付社債の元本及び利息について、米ドルと日本円の通貨スワップ契約を締結しています。当該通貨スワップは、その他の資本性金融商品の所有者に対する分配額及び当社の裁量により将来償還される場合の現金支出額を固定する効果を有しています。

(2025年)

当社は、主に2021年発行の米ドル建ノンコール5年永久劣後特約付社債（利払繰延条項付）の借換え資金への充当を目的として、2025年第4四半期連結会計期間において、楽天グループ株式会社第1回利払繰延条項・任意償還条項付無担保永久社債（清算型倒産手続時劣後特約付）（以下「本社債」）を発行しました。本社債は、償還期限の定めがなく当社の裁量のみで償還が可能であること、また、利息支払の任意繰延が可能であり、支払義務がないこと等により、IFRS会計基準において、資本性金融商品に分類されます。当該取引の結果として、当連結会計年度において、その他の資本性金融商品が81,444百万円（取引費用556百万円（税効果考慮後）控除後）増加しています。なお、当連結会計年度末日（2025年12月31日）において、支払が確定していないため「その他の資本性金融商品の所有者に対する分配」として認識していない経過利息の金額は727百万円です。本社債の概要は以下のとおりです。

社債の種類	楽天グループ株式会社 第1回利払繰延条項・任意償還条項付無担保永久社債（清算型倒産手続時劣後特約付）
発行総額	82,000百万円
発行価格	各社債の金額100円につき金100円
利率	2030年10月23日まで年4.691% 2030年10月23日の翌日から2045年10月23日（S&Pの発行体格付がBBB-以上となることが公表された場合、2050年10月23日）までは1年国債金利に3.750%を加算した値 2045年10月23日（S&Pの発行体格付がBBB-以上となることが公表された場合、2050年10月23日）の翌日以降については1年国債金利に4.500%を加算した値
利払期日	毎年4月23日及び10月23日 当社の裁量により、本社債の利息の全部又は一部の支払の繰り延べが可能
償還期限	定めなし（ただし、初回任意償還日以降の各利払日において、本社債の全部（一部は不可）の任意償還が可能）
初回任意償還日	2030年10月23日
担保	なし
財務上の特約	なし
優先順位	本社債の社債権者は、当社の清算手続もしくは破産手続又は日本法によらない外国における清算手続、破産手続、清算手続もしくは破産手続に相当する手続において、劣後請求権を有する なお、本社債に係る契約の各条項は、いかなる意味においても上位債務の債権者に対して不利益を及ぼす内容に変更することは認められていない

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループの資金運用については、信用リスク、市場リスク、流動性リスク等の各種リスクを十分考慮した上で元本の安全性確保及び資金の効率的活用を取組方針としています。また、資金調達については、その時々を経済環境等の要因を勘案し、直接金融や間接金融等の調達手段の中で最適と考えられる調達手段を選択していくことを取組方針としています。

証券事業においては、個人顧客を対象とした株式等金融商品の売買の媒介及び取次業務を主たる事業とし、顧客から受け入れた預り金や受入保証金について、金融商品取引法に基づき顧客分別金信託等で運用しています。また、資金運用については安全性を重視し、銀行預金及び流動性の高い金融資産で運用しています。一方、資金調達については、主に金融機関からの借入で対応しています。

カード事業（包括信用購入あっせん事業、信用保証事業及び融資事業）においては、資金運用については短期的な預金等に限定しています。一方、資金調達については、銀行等金融機関からの借入のほか、コマーシャル・ペーパーの発行、社債の発行、債権の流動化により対応しています。

銀行事業においては、預金業務、貸出業務及び為替業務を主たる業務としており、普通預金、定期預金、外貨預金等を提供しています。また、当該金融負債を主たる原資として、無担保カードローン（一部保証付）、住宅ローン、事業性ローン等を提供しているほか、有価証券、買入金銭債権、金銭の信託、コールローン等により資金を運用しています。そのほか、顧客への金融商品販売に付随して発生するデリバティブ取引や為替関連取引等を実施しています。資金運用にあたっては、銀行の持つ社会的責任と公共的使命の重みを常に認識し、過度な利益追求等により経営体力を超える運用を行うことを厳に慎み、とりわけ顧客から預かった預金については、十分安全性に配慮しています。また、運用調達業務全般にわたり、資産・負債構成の最適化及び適切な水準の自己資本充実度の確保を目的とし、金利感応度、資金流動性、市場流動性等に留意したALM（資産負債総合管理）運営を行っています。

保険事業においては、資産運用にあたり、保険金・給付金を将来にわたって確実に支払うことができるよう、安全性及び収益性の確保が重要な使命と考えています。安全性を第一義とし、流動性及び収益性を重視した健全な運用資産ポートフォリオの構築を図りつつ、中・長期的に安定的な収益の確保を目標として、リスク分散を図りながら公社債中心の運用を行うことを資産運用の基本方針としています。

デリバティブ取引に対しては慎重な態度で臨み、投機的な収益獲得手段として取り扱わない方針としています。

② 金融商品の内容及びそのリスク

1) 信用リスク

当社グループが保有する金融資産は、主として売上債権、証券事業の金融資産、カード事業の貸付金、銀行事業の有価証券、銀行事業の貸付金、保険事業の有価証券、有価証券等からなります。

売上債権には、主に、個人顧客、出店者、宿泊施設等の取引先に対して計上する売上収益に係る売掛金が計上され、取引先の信用リスクにさらされています。

証券事業の金融資産には、証券事業の預託金や信用取引資産等が含まれています。証券事業の預託金は、主に顧客分別金信託等であり、銀行預金等により運用されているため、預入先の信用リスクにさらされています。信用取引資産は、顧客等の信用リスクにさらされています。

カード事業の貸付金には、カード事業を営む子会社が保有するカード債権や融資債権等が含まれており、与信先の信用リスクにさらされています。

銀行事業の有価証券には、主に内国債や外国債等の有価証券、信託受益権が含まれており、発行体又は原資産の信用リスクにさらされています。

銀行事業の貸付金には、個人顧客向け無担保カードローン、住宅ローン、不動産担保ローン及び事業性ローンが含まれており、顧客の信用リスクにさらされています。

保険事業の有価証券には、国債、地方債及び社債が含まれており、発行体の財政状態による信用リスクにさらされています。

有価証券には、負債性金融商品が含まれており、発行体の信用リスクにさらされています。

これらの金融資産については、相手先の業種や地域が広範囲にわたっており、特段の信用リスクの集中はありません。

2) 流動性リスク

当社グループが保有する金融負債のうち流動性リスクにさらされているのは、主として社債及び借入金、証券事業の借入金、カード事業の社債及び借入金、銀行事業の借入金、銀行事業の預金です。社債及び借入金、証券事業の借入金、カード事業の社債及び借入金、銀行事業の借入金は取引金融機関に対する当社グループの信用力やマーケット環境の変化による資金調達条件悪化等のリスクにさらされています。

また、当社グループの一部の借入金について資本及び利益の維持といった財務制限条項を遵守することが求められています。

3) 市場リスク

当社グループの活動は、主に経済環境・金融市場環境が変動するリスクにさらされています。金融市場環境が変動するリスクとして、具体的には為替変動リスク、金利変動リスク及び価格変動リスクがあります。

当社グループが保有する金融資産のうち市場リスクにさらされているのは、主として証券事業の金融資産、銀行事業の有価証券、保険事業の有価証券、有価証券です。

証券事業の金融資産には、証券事業における外国為替証拠金取引が含まれています。ただし、顧客との間で生じた外国為替証拠金取引に対し、カウンターパーティーとのカバー取引を行うことにより、顧客との取引により生じる市場リスクを回避しているため、原則として為替変動リスクの影響は軽微です。

銀行事業の有価証券には、主に内国債や外国債等の有価証券、信託受益権が含まれており、金利変動リスク及び為替変動リスクにさらされています。そのうち、外国債については、対応する通貨スワップ取引を行うことにより、為替変動リスクをヘッジしています。なお、上場株式等が含まれていないため、価格変動リスクの影響は軽微です。

保険事業の有価証券には、国債、地方債、社債、株式、投資信託等が含まれており、為替変動リスク、金利変動リスク及び価格変動リスクにさらされています。

有価証券には、株式が含まれており、価格変動リスクにさらされています。

当社グループが保有する金融負債のうち市場リスクにさらされているのは、主として社債及び借入金、銀行事業関連負債であり、主に金利変動リスクや為替変動リスクにさらされています。社債及び借入金については、対応した金利スワップ取引や通貨スワップ取引を行うことにより、当該リスクをヘッジしています。銀行事業関連負債には、個人・法人顧客向けの普通預金、一般定期預金、新型定期預金のほか、外貨普通預金や外貨定期預金が含まれています。新型定期預金については、金利変動リスクにさらされていますが、対応した金利スワップ取引を行うことにより、当該リスクをヘッジしています。外貨普通預金及び外貨定期預金については、為替変動リスクにさらされていますが、対応した為替予約取引を行うことにより、当該リスクをヘッジしています。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

1) 信用リスク

当社グループでは、各社にて制定したリスク管理に関する規程において、具体的な各種リスクの管理方法や管理体制等を定めています。また、当社グループでは、証券事業の金融資産、銀行事業の貸付金等について担保や債務保証により信用リスクを合理的に低減しています。

信用リスクは、グループ管理規程に基づき、定期的に個別案件ごとの与信限度額の設定、顧客の信用状況の把握、期日管理及び残高管理を行うとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や低減を図っています。これらの信用管理実務から入手される顧客の財務情報のほか、失業率、企業倒産数等のマクロ経済状況の動向も勘案し、予想信用損失の認識及び測定を行っています。

証券事業の金融資産、カード事業の貸付金、銀行事業の貸付金等について、金融資産の返済又は決済が原則として期日以降30日超遅延した場合に、金融商品の信用リスクが当初認識以降に著しく増大したものと判定しています。

銀行事業の有価証券、保険事業の有価証券及び有価証券のうち負債性金融商品である有価証券については、当初認識時において投資適格であった格付が、投資適格未滿に格下げとなった場合に金融商品の信用リスクが著しく増大したものと判定しています。また、外部格付を参照し、報告日現在で信用リスクが低いと判断される場合は、当該金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大していないものと推定しています。なお、信用リスクの判定には、大手格付機関の格付情報等を利用しています。

これらの金融資産について、原則として、返済若しくは決済が期日以降90日超遅延した場合、条件変更した場合、又は回収が極めて困難であると判断された場合には債務不履行であると判断しています。

デリバティブ取引については、「ヘッジ取引管理細則」に基づき管理しています。取引相手先は主に高格付を有する金融機関としているため、信用リスクは軽微であると認識していますが、取引相手方の契約不履行により経済的損失を被るリスクがあります。

2) 流動性リスク

資金調達等に係る流動性リスクは、各社にて制定する諸規程に従い適正な手元流動性を維持するために、資金繰計画の作成等により管理しています。

3) 市場リスク

市場リスクの管理に関して、有価証券等については、取締役会において協議し投資決定を行っており、所定のルールに従って適正に評価されていることを確認しています。外貨建金融商品については、一定額以上の損失を発生させないようにポジション限度額や損失限度額を設定し、為替相場の継続的なモニタリング及び自己ポジションの状況の管理をしています。

銀行事業を営む一部の子会社が保有する金融資産及び金融負債については、一定の金利・為替変動下において、これらの金融資産及び金融負債を時価評価し、その相殺後純額（以下「現在価値」）の影響額を、金利変動リスク及び為替変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

保険事業を営む一部の子会社が保有する金融資産については、ストレステストにより通常の市場変化を超える動きが発生した場合を想定した市場リスク量を計測・管理し、リスク管理委員会を通じて、定期的に取り締役に報告しています。

④ 銀行事業を営む子会社における市場リスク管理

金利変動リスクの管理

当社グループの銀行事業を営む一部の子会社において、主要なリスク変数である金利変動リスクの影響を受ける金融資産は、主として銀行事業の有価証券、銀行事業の貸付金です。金利変動リスクの影響を受ける金融負債は、個人・法人顧客向けの普通預金、一般定期預金、新型定期預金のほか、外貨普通預金や外貨定期預金、デリバティブ取引のうち金利スワップです。

同子会社では、一定の金利変動下において、これらの金融資産及び金融負債に係る現在価値の影響額を、金利変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

現在価値の影響額の算定にあたっては、対象の金融資産及び金融負債を固定金利群と変動金利群に分け、それぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変動幅を用いています。例えば、当連結会計年度末において、金利以外の全てのリスク変数が一定であると仮定し、指標となる金利が全て10ベース・ポイント（0.1%）上昇又は下落した場合、それぞれ当連結会計年度末の現在価値が3,663百万円増減すると認識しています。

なお、当該影響額は、金利とその他のリスク変数との相関を考慮しておらず、また外貨建資産・負債については、当連結会計年度末の為替レートをもとに日本円に換算して算出しています。加えて、10ベース・ポイント下落時に、期間によって金利が負債になる場合については排除していません。

⑤ 保険事業を営む子会社における市場リスク管理

市場リスクの管理

当社グループの保険事業を営む一部の子会社において、為替変動リスク、金利変動リスク及び価格変動リスクの影響を受ける金融資産は、主として保険事業の有価証券です。同子会社では、これらの市場リスク管理のために、運用資産の残高・含み損益状況の把握に努めるとともに、ストレステストを実施し、リスク量を計測・管理しています。

ストレステストの実施にあたっては、通常の市場変化を超える動きが発生した場合を想定したリスク量を推計しています。保険契約の市場リスク管理は、経済価値ベースのソルベンシー・マージン比率にリスク許容度を設けて管理し、定期的に測定しています。

(2) 金融商品の公正価値に関する事項

当連結会計年度末における連結財政状態計算書計上額、公正価値及びこれらの差額については、次のとおりです。

なお、現金及び現金同等物、売上債権、証券事業の金融資産、その他の金融資産、仕入債務、証券事業の金融負債及び証券事業の借入金は下表に含めていません。

これらは主に短期間で決済されるものであり、公正価値と帳簿価額が近似する金融資産又は金融負債、若しくは将来キャッシュ・フローを満期までの期間及び信用リスクを加味した割引率により算定した公正価値と帳簿価額が近似している金融資産又は金融負債で構成されています。

また、デリバティブ資産及びデリバティブ負債並びに保険事業の有価証券は定期的に公正価値で測定される金融資産又は金融負債で構成されているため下表には含めていません。

(単位：百万円)

区分	連結財政状態 計算書計上額	公正価値	差額
(金融資産)			
カード事業の貸付金	3,662,676	3,708,885	46,209
銀行事業の有価証券	2,567,328	2,507,781	△59,547
銀行事業の貸付金	5,440,459	5,439,749	△710
有価証券	491,145	490,442	△703
合計	12,161,608	12,146,857	△14,751
(金融負債)			
銀行事業の預金	12,741,293	12,741,471	178
社債及び借入金	1,598,052	1,619,296	21,244
カード事業の社債及び借入金	810,559	809,165	△1,394
銀行事業の借入金	2,891,783	2,892,409	626
その他の金融負債(注)	1,184,191	1,184,132	△59
合計	19,225,878	19,246,473	20,595

(注) リース負債361,443百万円及び再保険契約負債5,941百万円を除いています。なお、当社が保有するLyft, Inc.の全株式を返済原資として、Lyft, Inc.株式の先渡売買契約を早期解約しています。Lyft, Inc.株式先渡売買契約については、注記3. 連結財政状態計算書に関する注記(5) Lyft, Inc.株式先渡売買契約をご参照ください。

公正価値の算定方法は以下のとおりです。

- ・カード事業の貸付金、銀行事業の貸付金
カード事業の貸付金及び銀行事業の貸付金の公正価値は、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によって算定しています。
- ・銀行事業の有価証券、保険事業の有価証券、有価証券
銀行事業の有価証券、保険事業の有価証券及び有価証券のうち、上場株式の公正価値については連結会計年度末の市場の終値を用いて算定しています。非上場株式の公正価値については、主に取引事例法等、適切な評価技法を用いて算定しています。また、債券等の公正価値については、売買参考統計値やブローカーによる提示相場等、利用可能な情報に基づく合理的な評価方法により算定しています。
- ・銀行事業の預金
銀行事業の預金のうち、要求払預金の公正価値については、連結会計年度末に要求された場合の支払額（帳簿価額）としています。また、定期預金の公正価値は、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値により算定しています。なお、残存期間が短期間（1年以内）のものは、公正価値は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額を公正価値としています。
- ・社債及び借入金、カード事業の社債及び借入金、銀行事業の借入金
社債及び借入金、カード事業の社債及び借入金並びに銀行事業の借入金のうち、満期までの期間が長期のもの公正価値は、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値により算定しています。
- ・その他の金融負債
その他の金融負債の公正価値は、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によって算定しています。

・デリバティブ資産、デリバティブ負債

デリバティブ資産及びデリバティブ負債のうち、為替予約の公正価値については、先物為替相場等に基づき算定しています。相対取引のデリバティブについては、ブローカーによる提示相場等に基づき算定しています。また、金利スワップの公正価値については、将来キャッシュ・フローを満期までの期間及び連結会計年度末の金利スワップの利率により割り引いた現在価値により算定しています。

なお、金利スワップ契約の取引相手先は高格付を有する金融機関に限定されており、信用リスクは僅少と判断しているため、公正価値の算定にあたり考慮していません。

(3) 金融商品の公正価値のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の公正価値を、公正価値の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しています。

レベル1：同一の資産又は負債について活発な市場における（無調整の）公表価格

レベル2：当該資産又は負債について直接に又は間接に観察可能な、レベル1に含まれる

公表価格以外のインプットを使用して算定された公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法によって算定された公正価値

当社グループは、各ヒエラルキー間の振替を、振替を生じさせた事象が発生した当連結会計年度末において認識しています。

連結財政状態計算書において公正価値で測定される資産及び負債に関するヒエラルキー別分類

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
証券事業の金融資産	126	1,457	－	1,583
銀行事業の有価証券	124,302	107,788	827,517	1,059,607
保険事業の有価証券	98,003	89,075	12,667	199,745
デリバティブ資産	－	276,706	－	276,706
有価証券	363,288	46,800	73,198	483,286
その他の金融資産	－	－	1,141	1,141
デリバティブ負債	－	77,087	－	77,087

(注) 当連結会計年度においてレベル1とレベル2の間の重要な振替はありません。

連結財政状態計算書において公正価値で測定されない資産及び負債に関するヒエラルキー別分類

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
カード事業の貸付金	－	－	3,708,885	3,708,885
銀行事業の有価証券	1,444,787	3,387	－	1,448,174
銀行事業の貸付金	－	－	5,439,749	5,439,749
有価証券	6,148	2	1,006	7,156
銀行事業の預金	－	12,741,471	－	12,741,471
社債及び借入金	－	1,619,296	－	1,619,296
カード事業の社債及び借入金	－	809,165	－	809,165
銀行事業の借入金	－	2,892,409	－	2,892,409
その他の金融負債	－	1,184,132	－	1,184,132

レベル3ヒエラルキーの調整表

下表は、一つ以上の重要なインプットが観察可能な市場データに基づかないレベル3に分類された金融商品の当連結会計年度の期首から期末までの残高の増減を示す調整表です。

(単位：百万円)

	銀行事業の 有価証券	保険事業の 有価証券	デリバティブ 資産	有価証券	その他の 金融資産	合計
2025年1月1日	558,662	38,909	4,362	93,740	295	695,968
利得又は損失(△)						
純損益(注)1	0	47	—	△11,286	8	△11,231
その他の包括利益(注)2	△549	△432	—	144	—	△837
購入	1,205,988	984	—	3,439	350	1,210,761
売却	—	△13,718	—	△12,818	—	△26,536
決済	—	—	△4,362	—	—	△4,362
償還	△939,651	△11,905	—	—	—	△951,556
その他	3,067	△1,218	—	177	488	2,514
レベル3への振替	—	—	—	—	—	—
レベル3からの振替(注)3	—	—	—	△198	—	△198
2025年12月31日	827,517	12,667	—	73,198	1,141	914,523
当連結会計年度末に保有する金融商品に関して純損益に認識した利得又は損失(△)(注)1	0	47	—	△10,765	8	△10,710

(注) 1 純損益に認識した利得又は損失は、「売上収益」、「その他の収益」及び「その他の費用」に含まれています。

2 その他の包括利益に認識した利得又は損失は、「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品の変動」及び「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品の変動」に含まれています。

3 「有価証券」については、活発な市場における無調整の公表価格が利用可能となったことによる振替です。

レベル3に分類された非上場株式の評価技法として、主に取引事例法を採用しています。その他の評価技法及びインプットは以下のとおりです。

評価技法	主な観察可能でないインプット	観察可能でないインプットの範囲
割引キャッシュ・フロー法	割引率	11.0%～13.0%

観察可能でないインプットの割引率については上昇した場合に株式の公正価値が減少する関係にあります。

非上場株式等の公正価値の測定は、所定のルールに従って営業部門から独立した管理部門により行われています。公正価値を測定するにあたり、個々の資産の性質、特徴及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを決定しています。評価モデルの採用論拠及び評価過程について、リスク管理部門に報告され、公正価値の評価の方針及び手続に関する適正性が確保されています。

銀行事業の有価証券の公正価値の測定は、時価算定事務基準に従いリスク管理部門により行われています。取引金融機関等から提供される価格については、有価証券種別ごとに分類し、それぞれの分類に応じて時価変動に影響を与える重要な指標の推移をモニタリングし、価格変動との整合性の確認を行っています。検証内容については、月次でリスク管理委員会・経営会議・取締役会に報告しています。

保険事業の有価証券の運用・管理については、「職務権限規程」及び「資産運用リスク管理規程」に従っています。株式の多くは、営業と密接な関係のある政策目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況等をモニタリングしており、価格変動との整合性の確認を行っています。

レベル3に分類された銀行事業の有価証券、保険事業の有価証券、デリバティブ資産及び有価証券について、インプットがそれぞれ合理的に考えうる代替的な仮定に変更した場合の公正価値の増減は重要ではありません。また、レベル3に分類されたその他の金融資産については、インプットがそれぞれ合理的に考えうる代替的な仮定に変更した場合の重要な公正価値の増減は見込まれていません。

連結計算書類

8. 1株当たり情報に関する注記
- | | |
|---------------------|---------|
| (1) 1株当たり親会社所有者帰属持分 | 457円33銭 |
| (2) 基本的1株当たり当期損失(△) | △82円24銭 |
9. その他の注記
(企業結合等に関する注記)
当社の完全子会社である楽天モバイル株式会社による楽天エナジー株式会社の吸収合併
- (1) 企業結合の概要
- ① 被取得企業の名称及び事業の内容
被取得企業の名称 楽天エナジー株式会社
事業の内容 電気事業法に基づく小売電気事業、その他エネルギーに関する事業
 - ② 企業結合の目的
コミュニケーションズ & エナジーカンパニーでのシナジーと効率を最大化し、モバイル事業を拡大するため
 - ③ 企業結合日
2025年2月1日
 - ④ 企業結合の法的形式
楽天モバイル株式会社を存続会社とし、楽天エナジー株式会社を消滅会社とする吸収合併方式
- (2) 当社グループに与える影響
本合併は、当社の完全子会社による合併であり、当社グループの連結業績に与える影響はありません。
10. 重要な後発事象に関する注記
該当事項はありません。

貸借対照表 (2025年12月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	1,714,266	流動負債	1,477,675
現金及び預金	397,331	買掛金	45,469
売掛金	143,779	コマーシャル・ペーパー	42,400
商品	18,385	短期借入金	36,612
貯蔵品	193	1年内償還予定の社債	65,000
前払費用	14,653	未払金	451,358
未収入金	431,041	未払費用	41,402
未収還付法人税等	1,843	前受金	6,728
関係会社短期貸付金	559,697	預り金	404,905
その他	147,802	ポイント引当金	361,065
貸倒引当金	△461	賞与引当金	6,361
固定資産	3,077,006	株主優待引当金	8,161
有形固定資産	63,527	仮受金	1,451
建物	21,936	その他	6,758
機械装置及び運搬具	201	固定負債	1,736,657
工具、器具及び備品	14,817	社債	1,574,493
土地	13,696	長期借入金	82,667
建設仮勘定	11,569	退職給付引当金	29,433
その他	1,305	役員退職慰労引当金	801
無形固定資産	110,039	株主優待引当金	3,919
のれん	1,106	訴訟損失引当金	7,114
特許権	1,269	資産除去債務	12,338
商標権	308	その他	25,888
ソフトウェア	91,373	負債合計	3,214,333
ソフトウェア仮勘定	14,592	純資産の部	
その他	1,389	株主資本	1,522,708
投資その他の資産	2,903,439	資本金	459,508
投資有価証券	48,336	資本剰余金	427,405
関係会社株式	2,643,195	資本準備金	427,044
関係会社出資金	4,968	その他資本剰余金	361
関係会社長期貸付金	4,869	利益剰余金	635,799
破産更生債権等	5,547	その他利益剰余金	635,799
長期前払費用	1,057	繰越利益剰余金	635,799
敷金及び保証金	10,142	自己株式	△5
繰延税金資産	166,244	評価・換算差額等	10,006
その他	25,856	その他有価証券評価差額金	10,006
貸倒引当金	△6,777	新株予約権	44,224
資産合計	4,791,273	純資産合計	1,576,939
		負債純資産合計	4,791,273

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

損益計算書 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：百万円)

科目	金額	
売上高		967,393
売上原価		266,222
売上総利益		701,170
販売費及び一般管理費		631,151
営業利益		70,018
営業外収益		
受取利息	19,951	
受取配当金	36,078	
為替差益	2,123	
その他	2,345	60,498
営業外費用		
支払利息	76,717	
支払手数料	8,732	
関係会社債権放棄損	18,567	
その他	354	104,371
経常利益		26,146
特別利益		
固定資産売却益	71	
資産負債相殺益	21,222	
投資有価証券売却益	8	
関係会社清算益	209	
その他	0	21,512
特別損失		
固定資産除却損	840	
減損損失	24,651	
訴訟損失引当金繰入額	7,114	
関係会社株式評価損	41,342	
社債償還損	247	
その他	433	74,630
税引前当期純損失		△26,971
法人税、住民税及び事業税	11,436	
法人税等調整額	△12,652	△1,216
当期純損失		△25,754

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

株主資本等変動計算書 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		利益剰余金 合計		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金				
当期首残高	452,646	420,183	361	420,544	661,554	661,554	△3	1,534,742	
当期変動額									
新株の発行	6,861	6,861	—	6,861	—	—	—	13,722	
当期純損失	—	—	—	—	△25,754	△25,754	—	△25,754	
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	△1	△1	
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	
当期変動額合計	6,861	6,861	—	6,861	△25,754	△25,754	△1	△12,033	
当期末残高	459,508	427,044	361	427,405	635,799	635,799	△5	1,522,708	

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計		
当期首残高	10,196	10,196	41,994	1,586,933
当期変動額				
新株の発行	—	—	—	13,722
当期純損失	—	—	—	△25,754
自己株式の取得	—	—	—	△1
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△190	△190	2,230	2,039
当期変動額合計	△190	△190	2,230	△9,993
当期末残高	10,006	10,006	44,224	1,576,939

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

個別注記表

2025年12月31日

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社及び関連会社株式 移動平均法による原価法
満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）
その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等 移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品・貯蔵品
楽天24事業等 移動平均法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
その他の事業 先入先出法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定額法を採用しています。
（リース資産を除く）耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。
無形固定資産 定額法を採用しています。
（リース資産を除く）耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。
ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しています。
また、のれんについては、効果が及ぶと見込まれる期間（20年以内）で償却しています。ただし、金額が僅少の場合は、発生した年度に一括償却しています。
リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しています。

(4) 繰延資産の処理方法

株式交付費及び社債発行費 発行時に全額費用として処理しています。

(5) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しています。

賞与引当金

主に従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度分を計上しています。

ポイント引当金

ポイントの使用による費用発生に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しています。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しています。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。

②数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（5年）による定額法により按分した金額を発生翌事業年度から費用処理しています。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、執行役員退任時特別報酬規程に基づく期末要支給額を計上しています。

株主優待引当金

株主優待制度に伴う費用に備えるため、株主優待制度に基づき発生すると見込まれる額を計上しています。

訴訟損失引当金

訴訟等に対する損失に備えるため、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しています。

(6) 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりです。

楽天市場及び楽天トラベル

マーケットプレイス型ECサービスである『楽天市場』や、旅行予約サービスである『楽天トラベル』等においては、取引の場を顧客に提供することをその基本的な性格としています。当社は、これらのサービスの運営にあたり、出店者・旅行関連事業者への出店サービス及びシステム利用に関するサービス、当社を通じた販売拡大のための広告関連サービス、出店者・旅行関連事業者と消費者の決済に関する決済代行サービス等を提供しています。また、これらのサービスは諸規約に基づき、サービス内容や当事者間の権利と義務が定められており、サービスの内容の区分可能性や顧客への移転パターンに基づき、主な履行義務を下記のとおりに識別して、収益を認識しています。

『楽天市場』への出店サービスについて、当社は規約に基づき出店者に対し契約期間にわたり、当社のマーケットプレイス型ECウェブサイトへの出店サービス及び出店コンサルティングサービス等を提供する義務を負っています。当該履行義務は、契約期間にわたり、時の経過につれて充足されるものであり、収益は当該履行義務が充足される契約期間において、出店形態別に定められた金額に基づき、各月の収益として計上しています。なお、取引の対価は3ヶ月、半年又は1年分を履行義務の充足前である契約時に前受けする形で受領しています。

システム利用に関するサービスについて、当社は規約に基づき、出店者・旅行関連事業者に対して出店者・旅行関連事業者と主として楽天会員との間での個々の取引の成立に関するサービスの提供を行う義務を負っています。当該履行義務は、出店者・旅行関連事業者と主として楽天会員との個々の取引の成立時点で充足されるものであり、当該履行義務の充足時点で、流通総額（出店者・旅行関連事業者の月間売上高）にサービス別・プラン別・流通総額の規模別に定められている料率を乗じた金額にて収益を計上しています。当該金額は、履行義務の充足時点である取引成立時点から概ね3ヶ月以内に支払を受けています。

広告関連サービスについて、当社は広告規約に基づき、出店者・旅行関連事業者に対し期間保証型等の広告関連サービスを提供しており、契約で定められた期間にわたり、広告を掲示する義務を負っています。当該履行義務は時の経過につれて充足されるため、当該契約期間に応じて期間均等額で収益を計上しています。広告料金の支払は、原則として広告掲載開始日が属する月の翌々月末までに受領しています。

決済代行サービスについて、当社と出店者・旅行関連事業者間における、決済代行規約に基づき、決済代行サービスを提供しています。当社は、クレジットカード等による取引代金をカード会社等から受領し、出店者・旅行関連事業者への決済代金を支払う義務を負っています。当該サービスについては、主に決済対象となった取引が成立した時点で履行義務が充足されると判断しており、同時点で手数料収益を計上しています。当該手数料の支払は、履行義務の充足後、支払区分に基づいた請求締切日から1ヶ月半以内に受領しています。

楽天24、楽天ブックス

インターネットサービスのうち、当社が主に楽天会員に対して商品を提供するインターネット通販サイト『楽天24』、『楽天ブックス』等のサービスにおいては、当社が売買契約の当事者となります。これらの直販型の取引においては顧客に商品が到着した時点で収益を計上しています。また、履行義務の充足時期である商品到着後、概ね2ヶ月以内に支払を受けています。なお、楽天ブックスのうち、国内における書籍（和書）販売については、再販売価格維持制度を考慮すると代理人取引としての性質が強いと判断されるため、収益を関連する原価と相殺の上、純額にて計上しています。

(7) ヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっています。ただし、特例処理の要件を満たすものについては、特例処理を採用しています。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

通貨スワップ

ヘッジ対象

外貨建社債の支払利息

- ③ヘッジ方針
外貨建の金利が有する為替変動リスクを回避する目的で、楽天グループ株式会社ヘッジ取引管理細則に基づき通貨スワップを行っています。
- ④ヘッジの有効性評価の方法
ヘッジ対象取引との通貨単位、取引金額及び決済期日同一性について、社内管理資料に基づき有効性評価を行っています。なお特例処理の要件を満たす取引については有効性の評価を省略しています。
- (8) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項
(借入コスト)
意図した使用又は販売が可能となるまでに相当の期間を要する資産の取得、建設又は製造に直接起因して発生した借入コストは、資産計上しています。

2. 会計方針の変更に関する注記

(「グローバル・ミニマム課税制度に係る法人税等の会計処理及び開示に関する取扱い」の適用)
「グローバル・ミニマム課税制度に係る法人税等の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第46号 2024年3月22日)を当事業年度の期首から適用しております。なお、この変更による計算書類への影響は軽微であります。

3. 会計上の見積りに関する注記

(関係会社株式の評価)

- (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額
- | | |
|-----------|--------------|
| 関係会社株式 | 2,643,195百万円 |
| 関係会社株式評価損 | 41,342百万円 |
- (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

①算出方法

関係会社株式の評価については、関係会社の財政状態が悪化したことにより実質価額が著しく低下したときは、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除き、相当の減額を実施し、評価差額は当期の損失として処理することとしています。実質価額は、投資先の超過収益力を反映した価額で取得した株式については、取得時に把握した将来の超過収益力が引き続き存在する場合に、投資先の純資産持分相当額に当該超過収益力を加味して株式の実質価額を算定しています。

当事業年度においては、主に以下の2社について減損処理を実施しました。

- (ア) Rakuten Medical, Inc.については、取得時にASP - 1929の米国FDA承認の早期取得とそれに伴う収益性の急速な向上を見込み、超過収益力を加味して実質価額を算定していましたが、当該米国FDA承認が当初計画より遅延していること及び同社の直近の業績推移や財務状況を検討した結果、当事業年度において、当該超過収益力が見込めなくなり、実質価額が著しく低下したと判断したことにより、関係会社株式評価損30,163百万円を計上しています。
- (イ) ロジスティクス事業を営む関係会社の株式については、取得時に超過収益力を対価として支払っていないため、純資産持分相当額を基礎として実質価額を算定していますが、当初想定されていた通りの荷量の伸びとならず、回復可能性を十分な証拠によって裏付けることができなくなったことから、関係会社株式評価損8,039百万円を計上しています。

なお、当事業年度において楽天モバイル株式会社の株式については回復可能性が見込まれるため減損処理は不要と判断しました。

②主要な仮定

実質価額の見積りには取締役会で承認された各関係会社の事業計画を使用しており、その主要な仮定は見積将来キャッシュ・フローや売上高の成長率等です。

当事業年度において減損処理を実施した株式に係る主要な仮定は以下の通りです。

- (ア) Rakuten Medical, Inc.の取得時に把握した超過収益力が決算日に存続しているか否かを評価する際には、ASP - 1929の米国FDA承認の取得可能性、上市後の販売予測等が主要な仮定となっております。
- (イ) ロジスティクス事業を営む関係会社の事業計画の主要な仮定は荷量の成長率等です。

なお、楽天モバイル株式会社の事業計画の主要な仮定は、ARPU・新規契約者数・解約率等です。

③翌事業年度の計算書類に与える影響

主要な仮定は将来の不確実な経済条件の変動により影響を受ける可能性があり、仮定の見直しが必要となった場合には翌事業年度の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 58,475百万円

(2) 担保に供している資産及び担保付債務

担保に供している資産

建物	11,353百万円
工具、器具及び備品	359百万円
土地	11,914百万円
その他	481百万円
計	<u>24,109百万円</u>

担保付債務

短期借入金	1,808百万円
長期借入金	23,720百万円
計	<u>25,529百万円</u>

当社が出資した合同会社に建物等を譲渡した取引につき、「特別目的会社を活用した不動産の流動化に係る譲渡人の会計処理に関する実務指針」（企業会計基準委員会移管指針第10号 2024年7月1日）に準じて、金融取引として会計処理していません。そのため、上記には、担保に供している資産及び担保付債務に計上されている以下の金額が含まれています。

建物	3,699百万円
工具、器具及び備品	200百万円
土地	683百万円
その他	154百万円
短期借入金	50百万円
長期借入金	1,557百万円
(3) 関係会社に対する金銭債権及び債務（貸借対照表に掲記しているものを除く）	
金銭債権	837,294百万円
金銭債務	560,892百万円
(4) 保証債務等の残高	
下記の会社の借入金等支払債務に対して債務保証を行っています。保証債務残高の状況は以下のとおりです。	
楽天モバイル株式会社	361,912百万円
J P 楽天ロジスティクス株式会社	5,353百万円
楽天トータルソリューションズ株式会社	1,143百万円
Rakuten Symphony Deutschland GmbH	6百万円

5. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高（損益計算書に掲記しているものを除く）

営業取引による取引高	289,634百万円
売上高	78,950百万円
営業費用	210,683百万円
営業取引以外の取引高	81,113百万円
営業取引以外の取引高（収入）	58,150百万円
営業取引以外の取引高（支出）	22,963百万円

(2) 資産負債相殺益

当子会社であるLiberty Holdco Ltd.との間に締結していた有価証券貸借契約の全てを解約しています。貸与していた有価証券とLiberty Holdco Ltd.からの預り金とを相殺した際に発生した特別利益です。

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式数	
普通株式	5,878株

7. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

貸倒引当金	2,235百万円
ポイント引当金	110,558百万円
賞与引当金	1,907百万円
退職給付引当金	9,504百万円
関係会社株式評価損	109,332百万円
未確定債務	11,469百万円
資産除去債務	3,887百万円
株式報酬費用	5,055百万円
繰越欠損金	15,060百万円
投資有価証券	71百万円
過大支払利子	9,916百万円
その他引当金	6,166百万円
その他	10,612百万円
繰延税金資産小計	295,779百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△14,383百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△109,682百万円
評価性引当額小計	△124,065百万円
繰延税金資産合計	171,713百万円

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	4,605百万円
有形固定資産	553百万円
その他	309百万円
繰延税金負債合計	5,468百万円
繰延税金資産の純額	166,244百万円

(2) 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しており、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っています。

8. 関連当事者との取引に関する注記 役員及び個人主要株主等

属性	氏名又は会社等の名称	住所	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
主要株主(個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社の子会社を含む)	公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団(注1)	東京都新宿区	—	交響管弦楽による演奏の企画・実施等	—	兼任1名	交響楽団のオフィシャル・サプライヤー	協賛金等(注2)	26	未払金	6
主要株主(個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社の子会社を含む)	一般社団法人新経済連盟(注3)	東京都港区	—	政策提言等	—	兼任1名	連盟の一般会員	協賛金等(注2)	13	—	—
主要株主(個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社の子会社を含む)	水上高原リゾート(株)	群馬県利根郡	100	リゾート施設の経営・運営等	—	—	—	業務委託等(注4)	44	未払金	11
								システム利用料(注4)	31	売掛金	2

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

(注1) 当社代表取締役会長兼社長である三木谷浩史が、理事長を兼任しています。

(注2) 協賛金の支払は、社会貢献の観点から実施を決定しています。

(注3) 当社代表取締役会長兼社長である三木谷浩史が、代表理事を兼任しています。

(注4) 一般の取引条件と同様に決定しています。

計算書類

子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関係内容 役員の兼任 等事業上の関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	楽天モバイル(株)	所有直接 100	役員の兼任	資金の貸付(注2)	7,266,740	短期貸付金	546,800
				資金の返済(注2)	7,369,080	流動資産(その他)	6,200
				受取利息(注2)	17,718		
				債務保証(注4)	361,912		
				増資の引受(注3)	100,000	預り金	56,431
				資金の預り(注2)	111,568		
				資金の返金(注2)	205,197		
子会社	楽天証券ホールディングス(株)	所有直接 100	役員の兼任	資金の貸付(注2)	101,700	—	—
				資金の返済(注2)	103,400		
子会社	Rakuten Asia Pte. Ltd.	所有直接 100	—	受取配当金	31,910	—	—
				資金の預り(注2)	70,695	預り金	2,700
				資金の返金(注2)	41,887		
子会社	Liberty Holdco Ltd.	所有直接 100	—	有価証券・預り金の相殺(注5)		—	—
				有価証券	15,877		
				預り金	37,005		
				精算金の受取	95		
				資産負債相殺益	21,222		
子会社	楽天カード(株)	所有直接 85.01	役員の兼任	決済代行手数料(注6)	61,735	未収入金	251,772
				コマース・ペーパーの償還(注7)	200,000	—	—
子会社	楽天マート(株)	所有 直接 66.60 間接 33.40	—	資金の貸付(注2)	131,410	—	—
				資金の返済(注2)	122,380	—	—
				債権の放棄(注8)	15,430	—	—
子会社	楽天銀行(株)	所有直接 49.26	役員の兼任	受益権の売却(注9)	248,600	—	—
子会社	楽天Edy(株)	所有間接 100	—	資金の預り(注2)	1,138,835	預り金	84,318
				資金の返金(注2)	1,119,200		
子会社	楽天ペイメント(株)	所有間接 100	役員の兼任	資金の預り(注2)	975,751	預り金	70,740
				資金の返金(注2)	991,147		
子会社	楽天シンフォニー(株)	所有間接 100	役員の兼任	資金の預り(注2)	400	預り金	61,449
				資金の返金(注2)	20,000		
子会社	楽天信託(株)	所有間接 100	—	金銭債権の信託(注10)	53,243	—	—

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

(注1) 一般の条件と同様な取引条件であることが明白な取引については、記載を省略しています。

(注2) 資金の貸付及び資金の預りについては、市場金利を勘案しTIBOR(Tokyo Inter-Bank Offered Rate)に適正な調整を行い利率を合理的に決定しています。

(注3) 子会社の行った第三者割当増資を引受けています。

- (注4) 楽天モバイル株式会社の銀行借入等について債務保証を行ったものです。
- (注5) 有価証券質貸借契約を解約しています。貸与していた有価証券とLiberty Holdco Ltd.からの預り金を相殺しています。取引条件は、一般の市場情勢を勘案し、決定しています。
- (注6) 取引金額は、支払手数料の金額を記載しています。
- (注7) 楽天カード株式会社が発行するコマース・ペーパーの償還を行ったものであり、取引条件は、一般の市場情勢を勘案し、決定しています。
- (注8) 楽天マート株式会社の吸収合併に伴う債権放棄です。当該債権放棄に対し、前事業年度末までに計上した貸倒引当金を充当しています。
- (注9) 取引条件は、一般の市場情勢を勘案し、楽天銀行株式会社と協議の上、決定しています。
- (注10) 当事業年度末及び前事業年度末における金銭債権の信託の金額の純増減額を記載しています。

9. 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結計算書類の注記5. 収益認識に関する注記に同一の内容を記載しているため、注記を省略しています。

10. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 706円33銭 |
| (2) 1株当たり当期純損失 | 11円91銭 |

11. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

連結計算書類に係る会計監査人監査報告書

独立監査人の監査報告書

2026年2月24日

楽天グループ株式会社
取締役会 御中EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田邊 朋子
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	安藤 勇
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	熊谷 充孝
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小山健太郎

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、楽天グループ株式会社の2025年1月1日から2025年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結財政状態計算書、連結損益計算書、連結持分変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、会社計算規則第120条第1項後段の規定により定められた、国際会計基準で求められる開示項目の一部を省略した会計の基準に準拠して、楽天グループ株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、連結計算書類を会社計算規則第120条第1項後段の規定により定められた、国際会計基準で求められる開示項目の一部を省略した会計の基準により作成し、適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、会社計算規則第120条第1項後段の規定により定められた、国際会計基準で求められる開示項目の一部を省略した会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、会社計算規則第120条第1項後段の規定により定められた、国際会計基準で求められる開示項目の一部を省略した会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結計算書類の監査を計画し実施する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

会計監査人監査報告書

独立監査人の監査報告書

2026年2月24日

楽 天 グ ル ー プ 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

EY新日本有限責任監査法人 東 京 事 務 所

指 定 有 限 責 任 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	田 邊 朋 子
指 定 有 限 責 任 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	安 藤 勇
指 定 有 限 責 任 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	熊 谷 充 孝
指 定 有 限 責 任 社 員 業 務 執 行 社 員	公 認 会 計 士	小 山 健 太 郎

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、楽天グループ株式会社の2025年1月1日から2025年12月31日までの第29期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会監査報告書

監査報告書

当監査役会は、2025年1月1日から、2025年12月31日までの第29期事業年度における取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下の通り報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めると共に、以下の方法で監査を実施いたしました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、当社の業務及び財産等の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換等を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況を監視及び検証いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結財政状態計算書、連結損益計算書、連結持分変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
 - ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
 - ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
 - ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果
 会計監査人 EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。
- (3) 連結計算書類の監査結果
 会計監査人 EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2026年2月25日

楽天グループ株式会社 監査役会

常勤監査役	長沼 義人	㊞
常勤監査役	中村 太	㊞
監査役	山口 勝之	㊞
監査役	片岡 麻紀	㊞

(注) 監査役 中村 太・監査役 山口 勝之及び監査役 片岡 麻紀は、会社法第2条第16号及び、第335条第3項に定める社外監査役であります。
 以上

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月下旬

基準日 毎年12月31日

単元株式数 100株

公 告 電子公告

<https://corp.rakuten.co.jp/investors/koukoku/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務のご案内

■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

■株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

[電話照会先] 0120-782-031 9時~17時 土日・祝日除く

[郵送物送付先] 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

楽天のサステナビリティ

楽天のサステナビリティ戦略

2022年、当社はグループ全体の事業を前進させるための中長期経営計画「Vision 2030」を発表しました。その経営計画において、サステナビリティは長期的な事業目標の達成を支える柱の一つとして据えられています。当社のサステナビリティ戦略は、社内外のステークホルダーを巻き込んで策定したもので、事業基盤と3つの重点分野に分類される10のESG課題を掲げており、2024年にはこれらのESG課題に対する当社のビジョンと2030年までの具体的な目標を策定しました。

[詳細はこちら](#)

楽天のサステナビリティ戦略

楽天のミッション

イノベーションを通じて、人々と社会をエンパワーメントする

重点分野

従業員と共に成長

- ダイバーシティ・エグイティ・インクルージョン
- 人材の採用・育成・定着
- 責任ある労働慣行
- 安全な労働環境と従業員の健康

従業員

持続可能なプラットフォームとサービスの提供

- 持続可能な生産と消費
- 責任ある広告・マーケティング・機能表示
- インターネット・ガバナンスと表現の自由

パートナー&お客様

グローバルな課題への取組

- 気候変動とエネルギー
- リスク管理・危機管理
- イノベーションと実業家精神

社会

事業基盤

- 倫理的な事業慣行
- 情報セキュリティとプライバシー
- 製品・サービスの品質

重点分野 今後数年にわたり、サステナビリティへの取組として当社グループが特に注力する課題

事業基盤 当社グループにとって従来から重要性が高く、強固な管理・取組体制がある課題

2030年に向けて、当社は人権や環境への負の影響を最小限に抑えながら模範的なオペレーションを行い、高い倫理価値をもって責任あるテクノロジーの活用を推進し、誰もがアクセスできる信頼性の高いコンテンツやサービスを提供する企業を目指しています。また、当社は、「Vision 2030」の実現により、モチベーションが高く革新的な変化をもたらす人材を採用し育成すること、成長し続ける事業者にとって最適なパートナーであること、より持続可能なライフスタイルを送る何千万人ものユーザーへのサービス提供者であることを目指しています。

<重点分野におけるビジョンと目標（一部抜粋）>

重点分野	ESG課題	ビジョン	指標	2024年実績	2025年目標	2030年目標
従業員と共に成長	ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン	競争力の源泉である多様な個人が、能力を最大限発揮できるよう後押し	女性管理職比率 ¹	33%	33%	36%
持続可能なプラットフォームとサービスの提供	持続可能な生産と消費	サプライヤーとの良好な取引関係構築を通じた、環境や人権に悪影響を与えない持続可能なサプライチェーンの実現	自己評価アンケートに回答するサプライヤーの割合	59%	80%	100%
グローバルな課題への取組	気候変動とエネルギー	ステークホルダーと環境課題に対する認識を共有し、環境に良い選択が自然にできる未来を実現する	Scope 1,2における温室効果ガス排出量	329,020t-CO ₂	2032年までに2022年から排出量を99.7%削減 ²	
			Scope 3における温室効果ガス排出量 ³	11,160,952t-CO ₂	2032年までに2022年から30.0%削減 ² 2032年までに販売電力量あたりの排出量を2022年から76.8%削減 ²	

*1 対象は楽天グループ株式会社

*2 本目標は、パリ協定に準拠し、「SBTi (Science Based Targets initiative)」によって、科学的根拠に基づいていると認定

*3 GHGプロトコルに沿って算出した排出量が対象。Scope 3 Category 15を除いて目標を設定

[詳細はこちら](#)

サステナビリティ推進体制

グループ全体での取組を加速させるため、国内外の経営陣で構成されるグループ横断の「グループサステナビリティ委員会」を2021年11月より設置しています。取締役兼執行役員であるグループCOOを委員長とし、年2回の頻度で同委員会を開催しています。さらに、サステナビリティ戦略の重点分野のうち、組織横断での長期的な議論が必要な課題に対応するため、「環境分科会」「人権分科会」「ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン分科会」も設置しています。各分科会では、現状把握や課題に対する施策の立案・提言・実施等、より具体的な審議を行っています。「グループサステナビリティ委員会」においては、各分科会からの提案事項の決議や、目標に対する取組状況・進捗の確認、事業戦略への落とし込み、国際的なガイドラインや法令の遵守等についても協議を行い、定期的にと取締役会とコーポレート経営会議に報告しています。



これまで開催した委員会のテーマ

グループサステナビリティ委員会	人権分科会	ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン分科会	環境分科会
<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ戦略の目標設定 CSRやSSBJ等の新規法令対応 等 	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンにおける人権尊重 従業員の人権 等 	<ul style="list-style-type: none"> DEIに関するESG評価結果 等 	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動 自然資源 等

外部評価

当社の取組は、国内外の様々な機関から高い評価を受けています。2025年、代表的なESG指数である「Dow Jones Best-in-Class World Index」の構成銘柄に選定されました。加えて、「Dow Jones Best-in-Class Asia Pacific Index」、「FTSE4Good Index Series」、「FTSE JPX Blossom Japan Index」、「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」、「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」、「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」、「Morningstar日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）」といったESG指数の構成銘柄にも選定されています。また、2024年に国際環境非営利団体CDPが実施する気候変動に関する企業調査で、最高評価である「A」の評価を受けました。当社は、今後もサステナビリティ戦略の実践を通じて、多様なステークホルダーにとって選ばれる存在であり続けることを目指してまいります。

楽天のESG評価

MSCI ¹	S&P ²	FTSE ³	Morningstar ⁴	CDP
AA (最高AAA)	72 (最高100)	4.3 (最高5)	1 (最高1)	A⁵ (最高1)

※2026年2月6日時点

*1 モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナルによるESGレーティング

*2 S&Pグローバルによるコーポレート・サステナビリティ評価のスコア

*3 ロンドン証券取引所グループ傘下のFTSE RussellによるESG評価のスコア

*4 モーニングスターグループの一員であるサステナリティクスに基づいたESGリスクのレーティング

*5 CDPは2024年の評価

[詳細はこちら](#)

株主優待制度のご案内

当社は、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社グループのサービスをより多くの方にご理解いただく機会を提供することを目的として、株主優待制度を導入しています。

この度の株主優待を通じて、当社グループが注力する『楽天モバイル』のサービスについてご理解を深めていただき、ご利用いただけますと幸いです。

第29期 ご優待内容

楽天グループ株主様向け「楽天モバイル」特別ご優待
（「楽天モバイル」の音声+データ30GB/月プランを6ヶ月間無料（継続要件あり）にてご提供）※1~9

お申込み期間・ご利用開始基準日：

	お申込み期間	ご利用開始基準日
新規お申込みの株主様	3月11日(水)～5月15日(金)	8月1日(土)
第28期株主優待をご利用中の株主様		第28期株主優待回線の提供期間が満了した日の翌日

- ※1：株主優待は、楽天グループ株式会社が提供します。
- ※2：株主優待のお申込み受付期限は、**2026年5月15日(金)16時59分**までです。お早目にお申込みください。
- ※3：お申込み・ご利用にあたり、楽天会員の登録(無料)が必要です。
- ※4：同一楽天IDで複数回お申込みいただくことはできません。
- ※5：株主優待にて受け取られたSIMを譲渡・売却・換金はできません。
- ※6：ご利用開始基準日を起点として6ヶ月間ご利用いただけます。継続要件を満たす場合、さらに追加で6ヶ月間ご利用いただけます。
- ※7：新規お申込みの株主様と第28期株主優待をご利用中の株主様とでは、お申込み方法が異なります。
- ※8：フィルタリングサービスの提供はございませんので、原則として18歳未満の株主様は本優待をご利用いただけません。18歳未満の株主様をご利用いただく場合には、親権者(法定代理人)からのフィルタリングサービス不要のお申し出、その他当社所定の手続きが必要になります。
- ※9：継続要件に関する詳細はよくある質問をご確認ください。

Rakuten Mobile



第29期株主優待お申込みにおける本人確認手続きについて

お申込み時に、スマートフォン及びマイナンバーカードをご利用いただくことで、本人確認を含む全てのお手続きをオンライン上で完結いただくことが可能です。お持ちでない場合、お手続き方法は後日送付されるメールでご確認ください。本人確認期限内に本人確認が完了できない場合、優待のご利用ができなくなる可能性がございます。お申込みからご利用開始までのスケジュールは、株主優待制度からご確認ください。

第28期株主優待をご利用中の株主様

第28期株主優待(2024年12月末日時点)をご利用中の株主様は、本優待にお申込みいただき、新たに本人確認手続きを完了いただくことで、現在ご利用中の株主優待回線の提供期間が満了した翌日から6ヶ月間ご利用いただけます。継続要件を満たす場合、さらに追加で6ヶ月間ご利用いただけます。

なお、第28期株主優待でご利用いただいている電話番号を引き継いでご利用いただけるため、新しいSIMの発行は行われません。紛失や機種変更等でお手元に第28期のSIMがない場合は、株主様ご優待専用サイトのトップページにあるリンクからSIMの再発行を受け付けています。

- ※2025年度中に当社株式の売却等により第28期から株主番号が変更になった場合、新規受付となり、ご利用中の回線を引き継いでご利用いただくことはできません。
- ※第28期株主優待でご本人様確認のお手続きが完了されなかった株主様も、新規受付となりますのでご注意ください。

『**楽天モバイル**』は、2020年4月より本格サービス提供を開始し、サービス開始以降、ネットワークやお客様体験の品質向上に取り組んでまいりました。

低廉でシンプルな料金プラン「Rakuten最強プラン」、法人のお客様向けの「Rakuten最強プラン ビジネス」、ギガ無制限で「U-NEXT」見放題の「Rakuten最強U-NEXT」^{※1}を展開し、2025年12月には「楽天モバイル」の全契約回線数が1,000万回線を突破しています^{※2}。

2024年6月からは「Rakutenプラチナバンド」を提供開始する等、引き続きネットワークやお客様体験の品質向上に向けた取組を推進しています^{※3}。

※1：速度制限の場合あり。一部対象外番号あり。有料作品等あり。

※2：2025年12月25日時点のBCP回線を含むMNO、MVNE及びMVNOを合わせた契約数。

※3：プラチナバンドの対応地域は、主要都市部から順次拡大中。

※本優待をご利用いただくためには、対応する通信端末が必要です。SIMのアクティベートは、日本国内で行ってください。

※「Rakuten Link Office」アプリをお使いいただくことで、国内通話・国内SMSは無料となります。(0570)等から始まる他社接続サービス、一部特番(188)等への通話、国際電話・国際SMSをご利用いただいた場合は、無料通話の対象外となります。

※公平にサービスを提供するため通信速度の制御を行う場合があります。容量超過後、国内データは最大200kbps、国際データは最大128kbpsでお使いいただけます。各最大データ速度で使用时、動画再生・アプリダウンロード等では、時間がかかる場合がございます。通信速度はベストエフォート(規格上の最大速度)であり、実効速度は通信環境・状況により変動します。

※Rakuten最強プランご契約を達成条件とするSPU(スーパーポイントアッププログラム)特典は対象外となります。

※利用期間経過後は、自動的に解約となりますので株主様の解約お手続き等は必要ございません。

※株主優待でご提供いたしますSIMIは、以下についてはご利用いただけませんのでご注意ください。

- ・「Rakuten Link」アプリの使用
- ・my楽天モバイルOffice及びmy楽天モバイルの使用
- ・SMS利用明細の開示／データ利用明細の開示
- ・データチャージ(国内／海外)
- ・プラン変更
- ・国際SMS
- ・国際通話
- ・一部オプションは追加不可(着信転送、発信者番号非通知)



アプリのダウンロードはこちらから



※iOSはiPhoneのみ対応。iPad、iPod touchには対応していません。

詳細については、株主様ご優待専用サイトをご参照ください >>> <https://r10.to/kabu>

お申込み方法

STEP
1

ID・パスワード通知書のご準備

お手元に、招集ご通知と同封の「第29期 楽天グループ株式会社 定時株主総会・株主優待専用サイトのご案内およびID・パスワードのご通知」をご準備ください。



※画像はイメージです。株主様それぞれにID・パスワードをご通知しています。

STEP
2

株主様ご優待専用サイトにアクセス

パソコン、タブレット、スマートフォン等から、インターネットで株主様ご優待専用サイトへアクセスしてください。以下のURLをウェブブラウザのアドレスバーに入力することでアクセスできます。

※本人確認手続きには、スマートフォンが必要となりますので、スマートフォンからのお申込み手続きを推奨いたします。

専用サイトURL

<https://r10.to/kabu>

STEP
3

株主様ご優待専用サイトにログイン

ID・パスワード通知書に記載のID・パスワードをご入力の上、ログインしてください。

ログイン後、画面の案内に従ってご優待のお申込みを行ってください。



STEP
4

お申込み手続き

SIMタイプ、生年月日、電話番号をご入力いただき、「確認画面へ進む」を選択してください。

入力内容に誤りがないかをご確認いただき、重要事項説明の内容をご理解の上、利用約款・利用規約にご同意し、「申込み」を選択してください。

※ページ上部に表示された株主様の生年月日をページ下部にあるフォームに正しくご入力ください。本人確認の際に、氏名・住所・生年月日の確認がありますので、お間違えになりますとお受取できません。

法人名義で楽天グループ株を保有する法人株主様は、お申込みされるご担当者様の生年月日をご入力ください。

未成年の株主様は、ご本人様の生年月日をご入力ください。



STEP
5

本人確認手続き

完了画面に表示されている本人確認手続き(eKYC)の手順を確認し、本人確認手続きを進めてください。郵送による本人確認手続きをご希望の株主様は、SIMをお受取の際に本人確認書類をご提示いただく必要があります。

※お申込み手続き方法は異なる場合がございますのでご注意ください。



※専用サイトのログイン・お申込みページのイメージです(新規お申込み画面)。

よくあるご質問

Q どのような株主が優待を受けられますか？

A 2025年12月末日時点の株主名簿に記載された100株(1単元)以上の当社株式を保有する株主様が対象です。12月末日の株主名簿に記載されるためには、権利付最終日(第29期の場合は2025年12月26日時点)の取引終了時に当社株式を保有している必要があります。

Q 株主優待の楽天モバイル回線を1年間無料で使用することは可能ですか？

A 本優待のご利用期間は6ヶ月ですが、継続要件を満たす場合は、1年間無料で使用することが可能です。具体的には、2025年12月末日及び2026年6月末日時点の当社株主名簿に、同一株主番号で記載された100株(1単元)以上を保有する株主様は、通常の6ヶ月間の無料利用期間に加え、さらに追加で6ヶ月間、合計12ヶ月間(1年間)無料でご利用いただけます。

Q 2026年6月に新規で株式を購入し株主名簿に記載された場合、株主優待は受けられますか？

A 申し訳ございませんが、対象外となります。本優待は、2025年12月末日時点の株主名簿に記載された株主様が対象となります。継続要件の適用条件として2026年6月末日時点の株主名簿を利用しますが、新規に株主優待の権利が発生する基準日ではありません。したがって、本優待をご利用いただくためには、2025年12月末日時点で株主名簿に記載されている必要があります。

Q 現在、第28期株主優待を利用していますが、継続して同じSIMを利用できますか？

A 第28期株主優待にて「楽天モバイル」の音声+データ30GB/月プランをご利用中の株主様のうち、第29期の優待対象条件を満たし、かつお申込み及び本人確認が完了された方については、現在ご利用中のSIMの継続利用が可能です。継続利用の場合も、改めてお申込みと本人確認手続きが必要となりますのでご注意ください。

Q ID・パスワードがわかりません。

A 対象となる株主様には、招集ご通知に同封して2026年3月11日付でID・パスワード通知書を発送しています。紛失された場合は、株主様ご優待専用サイトのトップページにあるリンクから申請いただくか、株主優待専用ダイヤルまでお問い合わせください。なお、ID・パスワードの再発行にはご依頼いただいてからお手元に届くまで最大2週間程度かかります。申込期限間際にご依頼いただいた場合は再発行できかねますのであらかじめご了承ください。

ご優待に関するお問合せ

優待の内容、お申込み方法、住所変更、初期設定、盗難・紛失、SIMの停止・再開・再発行については、専用ダイヤルまでお問い合わせください。

株主優待 専用ダイヤル 0120-905-937 9時～17時 土日・祝日・年末年始を除く

※受付期間外は、株主様ご優待専用サイトよりお問い合わせください。



定時株主総会会場ご案内図

会場

東京都世田谷区玉川一丁目14番1号 楽天クリムゾンハウス(本社)
電話 050-5581-6910(代表)

交通機関のご案内

- 東急田園都市線、東急大井町線「二子玉川駅」より徒歩5分
(二子玉川駅より係員による会場案内がございます。)



- 株主総会にご出席の株主様へのお礼の品(お土産)の配布はございません。
- QRコード®は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

楽天グループ株式会社
<https://corp.rakuten.co.jp/>

